

総合分析実験センター 自己点検評価報告書

平成21年度

平成 21 年度総合分析実験センター自己点検評価報告書

1. 部局等の目的・目標

佐賀大学総合分析実験センターは、本学における教育研究の総合的支援を目的とした全学共同施設で、「生物資源開発部門」、「機器分析部門」「放射性同位元素利用部門」および平成 18 年度新設の「環境安全部門」の 4 部門からなる。

生物資源開発部門は、遺伝子組換え実験と動物実験に関する教育、研究、講習、教育訓練および安全管理を担当する。機器分析部門は、大型高性能分析機器類の維持管理、総合的な分析・測定に関する教育と研究、分析機器の使用講習会および教育訓練を担当する。放射性同位元素利用部門は、放射性同位元素等の利用に関する教育と研究、放射性同位元素等安全取扱講習会および安全管理を担当する。環境安全部門は、環境分析機器の安全管理と教育講習、環境整備及び環境分析に関する研究の支援、環境問題に関する共同研究の受入れ及び相談窓口、環境問題についての教育及び情報提供を担当する。これらの 4 部門が機能的に連携して学内の研究教育を総合的に支援する。

総合分析実験センターに関する本学の中期計画として、次の 3 項目が定められている。

- ①総合分析実験センターを基盤として、実験機器類の整備拡充と全学的有効利用システムの構築を図り、学生教育並びに社会的ニーズに応じた教育訓練環境を整備する。
- ②総合分析実験センターを研究支援組織の中核として整備し、研究室、研究機器等の共同利用を進める。
- ③学外の研究者が総合分析実験センター等の分析機器類を活用できるシステムの構築を図る。

2. 部局等の概要

佐賀大学総合分析実験センターは、社会的な要請度の高い生命、環境、材料等の研究やこれらの複合領域研究に対応できる人材の育成を総合的かつ効果的に支援する体制を構築するために、平成 14 年 4 月 1 日に、従来の「機器分析センター」と「放射性同位元素実験室」を「機器分析分野」、「放射性同位元素利用分野」に改組し、それに新設の「ライフサイエンス分野」を加えて学内共同教育研究支援施設として設立された。平成 15 年 10 月 1 日の佐賀医科大学との統合にあたり、同医科大学の動物実験施設、実験実習機器センター、RI 実験施設をさらに加え、生命科学領域の教育研究支援体制を充実させ、「生物資源開発部門」、「機器分析部門」および「放射性同位元素利用部門」の 3 部門からなる全学的な研究教育支援施設として新たな「総合分析実験センター」に生まれ変わった。さらに、平成 18 年度に「環境安全部門」を新設し、これらの 4 部門が連携して、学内の理工、農、医、文化教育学分野の研究教育を総合的に支援している。各部門は、佐賀大学の本庄地区と鍋島地区にそれぞれに配置されており、センター長（併任）、副センター長（併任）、准教授 4 名、助教 2 名、教務員 2 名、技術専門職員 6 名、非常勤職員 4 名、研究支援推進員 1 名から構成されている（平成 22 年 3 月 31 日現在）。

平成 21 年度の動物実験施設、RI 実験施設（本庄・鍋島）の各施設利用者は延人数 12,423 名であり、センターに設置している設備・機器利用者は、延人数 49,354 名であった。また、センターを利用して得られた業績は、著書 7 件、知的財産 3 件、学術論文（総説含む）141 件、受賞 4 件、学会発表 437 件で、センターが貢献した外部資金獲得は、88 件で総 179,250,000 円である（4. センター利用実績参照）。このうち、センター専任の教職員が直接関わったものは、著書 3 件、学術論文（総説含む）9 件、知的財産 1 件、学会発表 41 件で、外部資金獲得は 14 件で総額 14,989,000 円である（6. センター教職員による業績参照）。これらの研究業績の多くに学生（博士・修士課程、および学部学生）が関与しており、センターの支援業務が本学の研究教育に大きく貢献していることが示されている。

3. 領域別の自己点検評価

(1) 教育支援の領域

ア 教育支援環境に関する事項

総合分析実験センターを基盤として、実験機器類および生物資源の維持・開発と放射性同位元素利用に関する設備の整備拡充と全学的有効利用システムの構築を図り、学生教育並びに社会的

ニーズに応じた教育訓練環境を整備することに、以下の事項を中心に取り組んだ。

- 1) 学生等が利用した機器とそれによって得られた研究成果の収集を年度ごとに行なうこととし、その調査対象とする機器、調査方法、データ整理について、平成 20 年度の検討内容をもとに、利用した機器とそれによって得られた研究成果の収集を行った。(平成 21 年度の利用実績を本報告書の末尾に示す。)
- 2) 学外研究機関に所属する教職員等が総合分析実験センターを利用できるよう、平成 19 年 6 月より「受託試験」(<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/>)を開始した。平成 21 年度の受託実績はなかったが、今後も情報の周知と、受託可能な機器の拡充を図っていく。
- 3) 共同利用可能な機器についての情報を発信するホームページは構築済みであり、共同利用機器のほとんどはその利用予約申込み、予約状況ならびに運用状況の確認がオンラインで可能になっている。また、鍋島機器においても平成 21 年度から、利用者登録申請のオンライン化を開始し、利用者の利便性向上を図った。
- 4) 現在運用している機器利用システムのさらなる改善および共同利用機器の数の増加を図るために、共同利用可能機器についての調査依頼を全学に行う等の活動により、共同利用可能機器を増加させた。また、既に利用できない機器については整理を行った。(平成 21 年度末現在全 145 台。うち本庄地区 48 台、鍋島地区 105 台。<http://www.iac.saga-u.ac.jp/temp/instrument/list.htm>)。また、利用者メーリングリストを構築し、共同利用機器運用に関して迅速な情報提供を行う体制を構築した(機器分析部門鍋島地区)。
- 5) 低利用頻度機器、および譲渡希望機器の収納スペースを整備し(リサイクルファシリティ)、譲渡を希望する機器について情報を収集しホームページで情報開示するシステムの運用を開始した。また、HP やメールを利用してリサイクルファシリティの周知を図り、年度末などに向けてファシリティの活用を案内している。平成 21 年 6 月 23 日までに、33 物品について譲渡を完了している。(20 年度の実績は、1 物品)

イ センターが行う教育に関する事項(使用法、安全、規則等に関する教育)

総合分析実験センターが関わる、機器の使用法や法令・規則等の教育に関して、学生、および使用者、関係者に対して、必要な教育活動を行い、またその教育訓練体制の整備・改善に取り組んだ。

- 1) 放射線同位元素の取扱いに必要な放射性同位元素業務従事者講習会は、本庄地区と鍋島地区で行っている。新規および更新の講習に関して、どちらか一方を受講すればよいようにしている。本年度は該当者がいなかったが、これまでに、鍋島地区の講習会を受講した教員 1 名、技術専門職員 1 名、学生 1 名の計 3 名を本庄地区の放射線業務従事者として登録した。また、新規および更新の放射性同位元素業務従事者講習会の実施回数の増加を図っており、新規講習会を本庄地区では、関係学部 4 年生の卒業研究開始時期を考慮して 6 月と 12 月の 2 回、鍋島地区では 4、5、6 月の 3 回に定期的に行うことに加え、希望者がいる場合には随時講習会を開くこととし、随時、講習会を実施している(21 年度は 10 月に施行)。更新の講習会に関しては、12 月から 3 月にかけて複数回開催し、更新者全員の便宜を図った。
- 2) 総合分析実験センターで行われる教育訓練の際、アンケート調査を随時行い、学生等のニーズを把握した。具体的には、本庄地区で開催した放射性同位元素業務従事者講習会ではこれまで、朝 9 時から 16 時まで連続で行っており、講習内容が専門的なものを含むため内容をフォローしきれない受講者がいたが、講習会を 2 日に分けることにより内容の理解を深められるよう配慮することにした。
- 3) 平成 19 年 4 月より「佐賀大学動物実験安全管理規則」が施行されたことに伴い、学内の「動物実験委員会」と連携し、動物実験を実施する研究者への教育訓練を実施した。また、年 2 回(本庄地区と鍋島地区で 1 回ずつ)定期に実施される教育訓練に加え、利用者の希望に応じて教育訓練を随時実施し(合計 10 回実施)、利用者の便宜を図った。
- 4) 年度末に利用者ミーティングを開催し、利用者からのニーズを把握するとともに円滑な共同利用環境の醸成をはかった(機器分析部門鍋島地区)。

- 5) 本庄地区および鍋島地区で遺伝子組換え実験に関する教育訓練を実施した。平成 21 年度より、新たに、英語による教育訓練を開始した。また、遺伝子組換え実験の申請書の提出前の事前の内容チェックを行っている。
- 6) 環境安全部門（本庄；兒玉、鍋島；寺東）では全学環境安全管理室会議メンバーとして、薬品管理システムの運営、産業廃棄物委託表、および実験系廃棄物取り扱い手引き書の改訂作業に参画している。また、エコアクション 21 連絡会議メンバー（寺東）として、廃棄物処理改正等、学内 EMS 環境改善に貢献している。
- 7) 既に作成済みのマニュアル・手引きについて、更新が必要なものについては随時更新を行なっている。
- 8) 本庄地区、鍋島地区の両放射性同位元素利用部門では、文部科学省からの放射性同位元素等の一斉点検の依頼を受け、研究協力課や全学安全衛生管理委員会、放射性同位元素安全管理委員会とも協力して、管理区域外放射性同位元素等の調査を行った。この点検は平成 22 年度も継続して行うものである。

また、総合分析実験センターを主たる研究の場としている博士後期課程一年の学生（鹿児島大学院連合農学研究科所属）が、日本学術振興会特別研究員 DC1 に採用されている。

ウ センター教職員が行う、学部等における教育活動に関する事項

専任教員、および技術職員は、上記の教育支援、および研究に関する教育・訓練だけでなく、教養教育運営機構に協力し、主題科目の開設、また、学部の講義・実習を担当するなど、学生の教育にあたっている。

機器分析部門本庄地区では、専任教員 1 名で、教養教育「身近な環境—知ろう・見よう・考えよう—」、「身近な環境—調べよう・深めよう・伝えよう—」、「佐賀環境フォーラム」、「生活の化学」、「機能物質化学」、「機能物質化学実験」、「大学入門科目」、「やさしい実験化学」、「機能物質化学特講 III」、「理工学基礎科学（現代化学）」、「分離分析化学」および大学院工学系研究科「分子集合化学特論」「物理化学特論」を担当している。また、技術職員と連携して、大学入門科目、「機能物質化学実験Ⅳ」を担当している。

生物資源開発部門本庄地区では、専任教員 1 名で、主題科目（教養教育）の「生命と物質（ゲノムから生命を知る）」、農学部の「分子細胞生物学」、大学院農学研究科の「分子細胞生物学特論」、大学院連合農学研究科の「先端応用生命科学特別講義」「先端応用生命科学特論」を担当している。

放射性同位元素利用部門本庄地区では専任教員 1 名で、農学部 4 年生及び農学研究科大学院生に対して研究指導を行っている。平成 22 年度より、大学院農学研究科の「微生物酵素学特論」及び「極限環境微生物学特論」を担当する予定である。

機器分析部門鍋島地区では、専任教員 1 名が、主題科目「環境因子と生体傷害」、大学院医学研究科「生体傷害分析法」（修士課程）、「実験検査・機器特論」（修士課程：分担）、「機器分析法」（博士課程）、「アイソトープ分析法」（博士課程：分担）を担当するとともに、教職員 2 名と連携して医学部「基礎生命科学実習」を分担している。

生物資源開発部門鍋島地区では、専任教員 2 名で、主題科目「実験動物学」、医学部「基礎生命科学実習」分担、大学院医学研究科の「実験動物学特論」（修士課程）、「動物実験法」（博士課程）を担当している。

(2) 研究支援の領域

ア 学術・研究活動に関する事項

センター、およびセンターの活動を通じて本学における学術・研究の推進を図るため、次のことに取り組んだ。

- 1) 学内外との共同研究を推進
- 2) 学外研究プロジェクトの応募に参画
- 3) シンポジウムを開催

生物資源開発部門鍋島地区では、医学部、および農・理工・文教学部とも連携できる研究テーマの一つとして、生活習慣病の病態モデルとなる遺伝子組換えウサギの開発とそれを用いた分子病理学的研究を行っている。これに関して、総合分析実験センターにおいて開発された遺伝子組換えウサギを他の研究機関に分与するとともに共同研究を推進した。平成20年度は、国内3機関に6系統の遺伝子組換えウサギ、合計150匹を分与した。また、開発した1系統の遺伝子組換えウサギについて特許申請の準備をすすめた。全国レベルのシンポジウムとしては、「第3回ウサギフォーラム-医療に貢献する実験用ウサギの新しい展開-」をウサギフォーラム委員として企画・開催を行なった。

機器分析部門本庄地区では製塩方法について特許出願（佐賀大学・北里大学の共同出願）を行った。製塩方法についての記事が佐賀新聞、朝日新聞で紹介された。これに関連して、海洋エネルギー研究センター全国共同利用研究に採択され、また福岡水道企業団の技術公募に採択され、それぞれ共同研究を実施している。

機器分析部門鍋島地区では、教員1名が共同研究員として、平成20年度から引き続き放射線医学総合研究所と、また平成21年度は京都大学原子炉実験所と、放射線がん治療の基礎研究をテーマに共同研究を行っている。

生物資源開発部門本庄地区では、「第33回 蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム」を主催した。この際、放射性同位元素利用部門本庄地区および部門機器分析部門鍋島地区の協力を得た。100名を越える参加者があった。また、開発したプラスミドDNAの分与を9件行った（国内6件、ポルトガル1件、アメリカ合衆国1件、アルゼンチン1件）。

また、センター各部門共同でセミナーを開催し、センター専任教員を中心とした部門間連携を強めるとともに、センターを中心として学内外との連携が可能な研究プロジェクトの検討を行っている（平成21年度実績全8回）。

イ 研究支援環境に関する事項

研究支援環境に関して以下のことに取り組み、本学全体、およびセンターにおける研究環境の改善を図った。

- 1) 3. (1) アー4) に示すように、共同利用可能機器についての調査結果に基づいて、共同利用可能機器を増加させた。また、機器の運用状況が分かるようにするなど、ホームページの改善を行った。合わせて、低利用頻度機器、および譲渡希望機器の収納スペースを整備し（リサイクルファシリティー）、譲渡を希望する機器について予め情報を収集しホームページで情報開示するシステムの運用を一部始めた。HP への掲載、メールによる案内、学内へのポスター等での宣伝活動の結果、平成21年6月23日までに、23物品の譲渡を完了し（20年度実績は物品1件）、物品を必要とする研究者への調達費用の軽減と廃棄費用の削減に貢献した。これらの活動は、本学における研究・教育に関連する物品の処理費用低減と低コストでの調達を支援し、さらに研究・教育に必要なスペースの確保につながっており、さらに環境負荷の低減効果ももたらしている。
- 2) 平成18年4月1日に環境安全部門を新設し、本庄地区の同業務を同年11月1日着任した本庄地区機器分析部門担当准教授が、鍋島地区の同業務を平成20年5月1日着任した鍋島地区機器分析部門担当准教授が担当することとした。環境安全部門の事業として3R(Reduce, Reuse, Recycle)事業（搬出廃液・廃試薬の削減および低使用頻度、および廃棄予定物品のリサイクル、リユース事業）を提案し、本事業の一環である譲渡希望物品の情報収集、および情報開示のシステムの運用を開始した。また、低頻度物品の収納スペース（リサイクルファシリティー）を確保し、1) に示すように運用を開始した。3R事業についてはエコアクション21連絡会議、環境安全衛生会議室会議等に廃棄物処理に関する改善策を提案している。今後、3Rに関わる情報は総合分析実験センターのホームページやニュースレター等を通じて、本学全体に発信していく。
- 3) 化学系研究設備有効利用ネットワークの概算要求に対して復活再生要求機器リストを提出した。化学系研究設備有効利用ネットワークには佐賀大学から登録機器を提供し、ネットワークの運営に貢献している。その結果、再生復活機器（粉末X線装置のソフトのアップ

グレード。21年度予算)、および最先端機器(結晶X線構造解析装置。21年度予算)への予算を獲得し、学内、およびネットワーク利用機器の充実に貢献した。

- 4) 遺伝子組換え動物作成の受託業務システムの導入に向けて、19年に新たに採用された助教1名が技術習得に努めている。今年度は、学内の施設利用者と試験的に遺伝子組換えマウスの作成に取り組んだ。
- 5) 動物実験に関して、研究テーマに即した飼育室・実験室の改善を検討した。特に、遺伝子組換えマウスの飼育スペースの不足に対して、設備や飼育機材の充実に向けて可能な限りの努力を行った。
- 6) 近年の研究方法の進歩により、動物実験施設の利用形態も以前とは大きく変わってきており、施設・設備の陳腐化や老朽化のため、現状では利用者からのニーズに対応できていない部分が多く見受けられるようになってきている。そこで、先端的研究を効率よく推進していくため、施設の全面改修、設備更新の必要性について関連部署、担当者等に説明し、予算措置の要求を行なった。その結果、高圧蒸気滅菌装置システムの更新予算を獲得することができた(21年度中に設置)。また、施設の改修について、引き続き、施設整備概算要求を提案した。
- 7) 本庄地区放射性同位元素利用室に設置された液体シンチレーションカウンタの老朽化により、RI 実験室の作業環境測定業務に支障をきたす可能性があったため、同機器を更新し、作業環境測定業務の円滑化を図った。
- 8) 機器分析部門鍋島地区では平成 21 年度補正予算により、利用者から要望の高かったMALDI-TOF-MS 質量分析計を導入し、利用者の利便性を図った。
- 9) 学外研究機関による総合分析実験センター利用のために、「受託試験」を行っている(<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/>)。

加えて、大学間の連携を高め、情報の共有や機器の相互利用を推進し、これを通じて本学における研究環境をよりよい物にするために、次のことに取り組んだ。

- 1 0) 他大学の共同利用可能機器に関する情報を大学内に知らせた。
- 1 1) 他大学へ総合分析実験センター内の共同利用可能機器に関する情報を発信した。
- 1 2) 国立大学法人生命科学研究機器施設協議会に参画し、設備の大学間相互利用をはじめとした活動に協力した。
- 1 3) 全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会に参画し、設備の大学間相互利用をはじめとした活動や「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」へ対応するための活動に協力した。
- 1 4) 化学系研究設備有効利用ネットワークに協力し、協力への評価としての予算配分を受けた(平成 21 年度配分額 39,900,000 円)。
- 1 5) 「国立大学法人動物実験施設協議会」に参加し、動物実験および実験動物に関連する情報収集、意見交換を行なった。また、協議会の調査等へに協力を行なった。

これらの活動を通じて得られた情報や成果を公開するためのホームページの更新を図った(<http://www.iac.saga-u.ac.jp/>の「設備の大学間相互利用」を参照)。あわせて、佐賀大学として化学系研究設備有効活用ネットワークに協力し、共同利用機器を供出した。

また、優れた人材の活用のために次のことに取り組んだ。

- 1 6) 研究支援者の獲得
 - 1 7) 技術職員の研究への参画を促進
- そのために、研究支援者の採用を続けており、平成 21 年度は研究支援推進員 1 名を獲得した。

ウ センター職員による研究活動に関する事項

センターでは、ア、イに示す研究支援活動と並行して、センターの職員がそれぞれテーマをもって専門分野における研究を行っている。各職員が、日々、個々の専門分野で高いレベルの研究に携わることにより、その研究活動や研究交流を通じて最新の研究成果や情報を入手でき、それ

がセンターの教育研究支援の向上と、本学の研究教育の推進への貢献につながっている。

1) 生物資源開発部門本庄地区では、植物のリポ多糖認識機構、新しい遺伝子組換え技術の開発をテーマに研究を行っている。

2) 生物資源開発部門鍋島地区では、部門の研究テーマとして、1) ヒト疾患モデルとしての遺伝子組換えウサギの開発と医学研究への応用、2) ウサギ精子および胚の凍結保存に関する研究に取り組んでいる。

3) 機器分析部門本庄地区では、自然界の土壌や水中に存在する腐植物質の構造特性、機能特性に関する研究を地球科学分野、原子力開発分野、農業分野等の研究者と共同して行っている。

4) 機器分析部門鍋島地区では、放射線や環境因子による DNA 傷害とその修復機構を生化学的、分子遺伝学的に検討し、生物の遺伝情報維持機構を明らかにするべく、准教授 1 名、教務員 2 名が協力して研究を行っている。また同准教授 1 名は、放射線医学総合研究所ならびに京都大学原子炉実験所の共同研究員として、放射線がん治療に関する基礎研究をテーマに共同研究を行っている。

5) 放射性同位元素利用部門本庄地区では、極限環境微生物の生産する酵素の機能及び構造に関する研究を行っている。

平成 21 年度の研究成果は、著書 3 件、学術論文（総説含む）9 件、知的財産 1 件、学会発表 41 件で、外部資金獲得は 14 件で総額 14,989,000 円である。研究成果の詳細は 6. に記す。

(3) 国際交流・社会貢献の領域

ア 教育における社会連携・貢献に関する事項

センター教員が担当する講義内の活動として、学内にビオトープ（ホタル池）を整備運営し、ホタルの放流、鑑賞会等のイベントを行った。またそのイベント内で、保育園スタッフを含む地域市民と連携して、佐賀環境フォーラムワークショップ“環境教育”グループによる紙芝居を通じた環境教育を地域の幼稚園児や小学生への環境教育を行い、同時に市民への憩いの時間を提供した。今年度はさらに大学周辺自治会（西城内自治会、東城内自治会）のビオトープ整備、運営を支援している。

センター教員が、他大学・研究教育機関などでの講義・実習を担当した。福岡歯科大学大学院において、「実験動物の取扱い」の講義・実習を担当。大川看護福祉専門学校において、「微生物学」の講義を担当。佐賀県高等学校理科教育研究大会で、講演。機器分析部門鍋島地区の教員 1 名は、広島大学大学院理学研究科の「遺伝子化学 I」を非常勤講師として、また佐賀県高等学校理科教育研究大会で講演を行った。

イ 研究における社会連携・貢献に関する事項

学外の研究者が総合分析実験センター等の分析機器類を活用できるシステムの構築を図るために、以下のことに取り組んだ。

- 1) 前年度から「受託試験」を開始している (<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/>)。
- 2) 地域に貢献する研究支援活動を行うために、佐賀大学産学連携推進機構を活用し、同機構のホームページからの情報発信に協力している。

以下のことに取り組むことにより、学外の研究者との連携を深め、地域社会の研究推進や学会活動に貢献した。

- 3) 佐賀県農業研究試験研究センターと農学部、理工学部、および NPO 団体との協働により、農林水産省助成事業“新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業”にて、「クリーク底泥の安全性、および有効性の保証データの作成」研究を行った。
- 4) 佐賀県バイオマスエネルギー計画、佐賀市バイオマスタウン構想に協力し、民間の研究への相談に対応し、共同研究計画を策定中である。
- 5) 第 26 回九州実験動物研究会総会ならびに第 28 回実験動物技術者協会九州支部研究発表会を主催し、佐賀大学鍋島キャンパスで実施した。
- 6) 海洋エネルギー研究センターの全国共同利用研究の一環として、海水資源の有価資源

物質の分離・回収技術（製塩技術）について 2008 年共同研究成果報告会で発表した。

- 7) 「佐賀環境フォーラム」の活動において、佐賀市と協力し、佐賀市内公立小中学校のシックスクール調査を行っている。
- 8) 学生グループ「自転車佐賀再生（ちゃりさがさいせい（通称ちゃりさ）」の顧問として、活動をサポートし、地域の資源循環に貢献している。2010 年 12 月に東京で行われた全国学生環境活動コンテスト（ecocon2010）で準グランプリを獲得した。

ウ その他国際交流・社会貢献に関する事項

- 1) ホームページを通じて、開発したベクターDNA を国内外に分与する活動を行っている (<http://www.iac.saga-u.ac.jp/lifescience/pSU0/>)。21 年度には、開発したプラスミド DNA の分与を 9 件行った（国内 6 件、ポルトガル 1 件、アメリカ合衆国 1 件、アルゼンチン 1 件）。
- 2) 民間企業と提携し、中国、太湖の浄化計画に協力している。
- 3) 文科省の二国間交流事業として共同研究を進めた。7 月には、ハンガリー Agricultural Biotechnology Center から 2 名が当センターを訪れた。また、8 月には、センターの専任教員 1 名が、ハンガリーを訪問し、それぞれ技術交換等の共同研究を進めた。
- 4) 二国間交流事業共同研究で 6 月にハンガリー University of Szeged より Prof. Etelka Tombacz 他 3 名が来訪。
- 5) IAP2008(International Conference Interfaces Against Pollution, Kyoto, Japan)において Organizing Committee として貢献した。
- 6) 日本腐植物質学会常任幹事および国際腐植物質学会 (IHSS) 日本支部事務局として、学会の運営に貢献した。
- 7) 環境関連の二つの NPO の理事および副理事長として活動に協力している。
- 8) The 4th Daegu University and Saga University Joint Seminars（協定校の韓国・大邱大学校で開催）でセンター教員 2 名が講演をした。また、センターで研究を行っている学部生 1 名がポスター発表をした。

(4) 組織運営の領域

ア 教育研究組織の編成・管理運営に関する事項

本庄地区と鍋島地区のテレビ会議システムを活用して会議を行った。

イ 財務に関する事項

- 1) 自己収入の増加を図ることも一つの目標として、学外研究機関による総合分析実験センター利用のために、「受託試験」を行っている (<http://www.iac.saga-u.ac.jp/jutaku/>)。
- 2) 遺伝子組換え動物の受託作成に向けて、試験的に学内の利用者と遺伝子組換えマウスの作成に取り組んだ。
- 3) 光熱水費削減を目的に動物実験施設の空調設備の運転状況の見直し・変更を継続して実施している。
- 4) 本庄地区 RI 実験施設において、業務委託費の節約を図るため、平成 19 年度から行っている作業環境測定を今年度も継続して自ら行った。また、保管廃棄されていた有機シンチレータ廃液 100L の焼却処理を自ら行った。

ウ その他組織運営に関する事項

- 1) エコアクション 21 の認証取得を目指した取り組みに参画した。詳細は、3. (1) - イー 6)、3. (2) - イー 2) を参照。
- 2) 平成 21 年度「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラム（教育 GP）の申請書作成 WG に参加した。
- 3) 環境安全管理に関して、准教授 1 名が危険物取扱者資格取得および特別管理産業廃棄物主任の資格を取得し、鍋島地区のこれら業務を主担当している。

- 4) 化学物質管理システム (CRIS) の全学運用に関して、准教授 2 名が管理主担当となり、それぞれ本庄地区および鍋島地区の同運用について安全衛生管理室と協力していくこととなった。
- 5) 本庄地区 RI 施設の作業環境測定について、センター教員 2 名が作業環境測定士(放射線)の資格を取得し、引き続き自身で行っていく体制をとった。また鍋島地区においても教務員 1 名が同資格を取得し、非 RI 区域の作業環境測定について協力している。

その他、大学運営に関わる事項 センターの教員は、動物実験委員会、遺伝子組換え実験安全委員会、放射性同位元素等安全管理委員会、鍋島キャンパスエネルギー管理協議会、環境安全衛生室会議、医学部安全衛生委員会、エコアクション 21 全学委員会、同医学部委員会委員、医学部エネルギー対策委員会などに参画し、また、様々なワーキンググループに参画するなどして、その専門知識を活かして大学運営に貢献している。また、医学部総合問題部会に参画し、入学試験の作成・採点等にも貢献した。

(5) 施設の領域

ア 施設、設備等に関する事項

災害対策マニュアルに関して、以下の活動を行った。

- 1) 総合分析実験センターとしての「災害対策マニュアル」を全学的なマニュアルと整合性をとりながら作成し、災害対策マニュアルについてホームページで公開した (<http://www.iac.saga-u.ac.jp/saigai.pdf>)。なお、放射線施設に関しては、放射線障害予防規定に「地震等の災害時における措置」について定めている。また、動物実験施設においても独自の「緊急時対応手引き」を作成し、ホームページ上で公開している。

4. 外部評価

本報告書の評価を、運営委員会で承認された学外の委員からなる委員会に依頼した。委嘱した委員を以下に示す(順不同、敬称略)。

- 1) 上村亮三 准教授 鹿児島大学フロンティアサイエンス研究推進センター
- 2) 森本正敏 教授 熊本保健科学大学リハビリテーション学科
- 3) 池田正五 教授 岡山理科大学理学部
- 4) 西本 潤 准教授 県立広島大学生命環境学部環境科学科
- 5) 磯野高敬 准教授 滋賀医科大学実験実習支援センター

各委員からは、評価手法、評価基準、評価の妥当性について概ね高い評価を頂いた。特に、センターの環境整備や機器整備状況・利用状況について、前年度までの整備状況と比較しつつ、詳細な記述を行っている点が高く評価された。さらに、本センターが利用者や外部機関に対して強いメッセージを送っている点、ホームページの使い方が優れている点、リサイクルファシリティや 3 R 事業へ取り組んでいる点、環境フォーラムを利用して学外における教育訓練を行っている点なども高く評価された。

しかし、一方で、評価しやすいフォーマットを検討する必要がある。評価基準について明確な提示がなく、評価しづらかったなどの改善点の指摘を頂いた。また、各機器の利用実績について、延べ人数ではなく、機器の利用回数またはサンプル数で示すほうが実質を捉えやすいといった指摘を頂いた。

これらの指摘や助言に関して、センター教職員間で、継続的に検討を重ね、次年度以降のセンターの運営およびその結果としての自己点検評価書に反映させるべく努力するものとした。なお、各委員からのご意見を本報告書の末尾に添付した。各評価委員の方々には、本評価書、およびセンターの運営等に関して、様々な視点からの検討を加えていただいたことに対して、この場を借りて深謝の意を表す。

5. 総括

本センターの主たる業務は、本学における教育・研究の支援であり、6. のセンター利用実績に示すように、教職員、および学生の利用者数、あるいはセンターの利用により得られた発表業績や外部資金獲得の結果から、本センターが有効に活用されていると考えられる。また、本センターに所属する教員

はそれぞれ独自の研究テーマを持ち、7. に示されるように、各教員がそれぞれ研究成果を上げているとともに、こうした研究活動や研究交流を通じて、センターの教育研究支援レベルの向上に結びついている。また、センターの教員は、その知識・技能・資格、あるいは保有設備などをいかして、講義や実習を担当することにより教育に直接関わるほか、委員会活動などを通じて本学の運営にも貢献している。さらに、センターでは、学会活動や地域社会の研究推進や環境保全活動などにも参加・協力しており、こうした活動は、地域における、あるいは国内外における本学に対する評価を高めているものと考えられる。

しかしながら、センターの保有機器、あるいはセンターの施設そのものが老朽化している物が多く、教育・研究の支援に支障を来していることは大きな問題である。この件に関しては、施設の改修や新しい機器の導入のための概算要求などを継続して行っているが、それに加えて、現有の機器の保守、現有の施設の維持管理に関わる学内の予算措置の要求を行っていく必要がある。佐賀大学における教育・研究支援組織の中核として位置づけられている総合分析実験センターの支援環境整備に、本学全体の理解と協力をお願いしたい。

6. センター利用実績

(1) 平成21年度総合分析実験センター施設、設備・機器利用者数

施設利用実績		
施設	のべ利用者数	備考
動物実験施設	10,559	登録者数 教職員 320、学生 153、他 10
鍋島地区 RI 実験施設	1,064	登録者数 教職員 20、学生 10
本庄地区 RI 実験室	800	登録者数 教職員 12、学生 19

機器利用者数		
機器	のべ利用者数	備考
(鍋島地区機器分析部門)		
低温室・恒温室	2,342	(2F 製水機室)
低温室・恒温室	562	(3F 製水機室)
低温室・恒温室	403	(4F 製水機室)
サーバー	125	(2147-02 室)
セミナー室	280	(2260 室)
超低温庫室	828	(2148 室)
培養室	246	(2148 室)
標本作成室	311	(2259 室)
細胞自動解析装置 FACScan, FACScalibur, ELITE	1,335	(2168 室)
高温振とう機、マイクロアレイ	263	(2169 室)
DNA シークエンサー イメージアナライザー ゲル撮影装置 リアルタイム PCR	6,049	(2327 室)
DNA シークエンサー リアルタイム PCR パルスフィールド電気泳動装置	2,311	(2430 室)
HPLC pH メーター 分光光度計	605	(2226 室)
原子吸光計 ガスクロマトグラフィー ガスマス	1,082	(2417 室)
蛍光顕微鏡 共焦点レーザー顕微鏡	1,200	(2229 室)
走査型電子顕微鏡	78	(2228-01 室)
走査型電子顕微鏡	41	(2228-02 室)
オートクレーブ 乾熱滅菌器 蒸留水作製装置	1,511	(2218 室)
超遠心機 遠心濃縮機 真空乾燥機	824	(2326 室)
透過型電子顕微鏡	851	(2257 室)
HPLC BIACORE AKTAexplorer	554	(2255 室)
透過型電子顕微鏡	137	(2227-01 室)
透過型電子顕微鏡	2,351	(2227-02 室)

(本庄地区 RI 部門)		
液体シンチレーションカウンタ	25	76 h
MALDI-TOF MS		故障中
X 線照射装置		故障中
バイオイメージングアナライザ	6	13 h
焼却炉	3	27 h
分光光度計	321	1299h
ガンマカウンタ	0	
空気捕集装置	36	
H/C サンプラー	36	
高温振とう器	5	165 h
(本庄地区機器分析部門・生物資源開発部門)		
紫外可視近赤外分光光度計	208	422 h
電子スピン共鳴装置	109	98h
顕微付フーリエ変換赤外分光光度計	288	304 h
粉末 X 線回折装置	570	914 h
4 軸型単結晶自動回折装置		2,184 h
ガスクロマトグラフ質量分析計	471	1,275 サンプル
超伝導高分解能フーリエ変換核磁気共鳴装置	7,386	2,771 h
円偏光二色性分散計	26	52h
蛍光光度計	89	329 h
エネルギー分散型蛍光X線分析装置	98	384 h
電気泳動光散乱分散計	204	460 h
DNAシーケンサー (Type310)	1,009	
DNAシーケンサー (Type3130)	960	

(2) 平成21年度総合分析実験センターを利用して得られた業績

著書		
著者	書名	担当題目(共著の場合)
Fujita T, Liu T, Aoyama T, Tomohiro D, Nakatsuka T, Kumamoto E	Peptide Science 2008: Nomizu M (Ed.), 353-356	Glutamatergic excitatory transmission in adult rat substantia gelatinosa neurons is enhanced more effectively by PAR-1 than PAR-2 and PAR-4 activating peptides.
Yue H-Y, Fujita T, Liu T, Piao L-H, Mizuta K, Nakatsuka T, Kumamoto E	Peptide Science 2008: Nomizu M (Ed.). 357-360	Action of galanin on synaptic transmission in substantia gelatinosa neurons of the adult rat spinal cord.
戸田修二, 小池英介, 青木茂久, 内橋和芳, 山崎文朗, 渡辺恵子, 船津丸貞幸, 米満伸久, 小池則雅	ホルモンと臨床 57巻 秋季増刊 Page80-87	甲状腺および副甲状腺腫 遺伝子・転写・細胞 甲状腺研究のための培養系
尾崎岩太, 夏京合, 浜島弘史, 岩根紳治, 松橋幸子, 河口康典, 江口有一郎, 水田敏彦	第12回 Vitamin K & Aging 研究会記録集 p155-160	Vitamin K2 の NF-κB 抑制における Protein kinase C(PKC)の役割
Kitajima S	Rabbit Biotechnology: rabbit genomics, transgenesis, cloning and models (Houdebine L-M and Fan J edt), 1st edt, 3-12	Improvement of rabbit production
Kitajima S, Liu E, Fan J	Rabbit Biotechnology: rabbit genomics, transgenesis, cloning and models (Houdebine L-M and Fan J edt), 1st edt, 37-48	Rabbit transgenesis
Nishijima K	Rabbit Biotechnology: rabbit genomics, transgenesis, cloning and models (Houdebine L-M and Fan J edt), 1st edt, 13-22	Basic methods for experimental rabbits

総説・資料・解説・特許など		
著者名(多数の場合、略記可)	雑誌名	題目
K. Nagao, T. Yanagita,	Pharm. Res. 2010, 61: 208-212	Medium-chain fatty acids: Functional lipids for the prevention and treatment of the metabolic syndrome.
Yoshida H, Nakaya M and Miyazaki Y.	J Leukoc Biol. 2009, 86: 1295-1303.	Interleukin 27: a double-edged sword for offense and defense.
吉田裕樹 濱野真二郎.	蛋白質核酸酵素 2009, 54: 1059-1065.	原虫感染と IL-12 サイトカインファミリー
吉田裕樹.	細胞工学 2009, 28: 1149-1150.	新たな免疫抑制性サイトカイン IL-27
吉田裕樹.	日本臨床免疫学会会誌 2009, 32: 202-213.	IL-27 の免疫制御作用: 自己免疫疾患への治療応用
吉田裕樹, 篠崎由賀里 中島衛	臨床免疫・アレルギー科 2009, 51: 397-405.	IL-27 の免疫増強作用と免疫抑制作用
吉田裕樹	炎症と免疫 2009, 17: 27-34.	IL-27 による Th17 分化制御と免疫抑制
Hara H and Saito T	Trends in immunol. 2009, 30: 234-242	CARD9 vs. CARMA1 in innate and adaptive immunity
Hara H, Ilzasa E, Nakaya M, Yoshida H	Hematology Research and Reviews. 2010, 2010: 93-104	L-CBM signaling in lymphocyte development and function
中塚映政, 谷口 亘, 藤田亜美, 熊本栄一	整形・災害外科 2009, 52: 449-459	痛みの伝導と神経伝達物質.
柳 涛, 藤田亜美, 熊本栄一	神経解剖学雑誌 2009, 25: 687-690	蜂毒及其組成成分的生理作用机制及進展一致痛或镇痛
Toda S, Uchihashi K, Aoki S, Sonoda E, Yamasaki F, Piao M, Ootani A, Yonemitsu	Organogenesis. 2009, 5: 50-56.	Adipose tissue-organotypic culture system as a promising model for studying adipose tissue biology and regeneration.

N, Sugihara H.		
葛蒲池健夫, 片桐菜々子, 宮本比呂志	日本細菌学雑誌 2009, 64: 319-330	Legionella pneumophila の細胞内増殖制御機構 —Lgn1/Naip5/Birc1e 遺伝子を中心に—
永尾晃治	日本栄養・食糧学会誌 63, 3-7	機能性油脂によるメタボリックシンドロームの予防・改善に関する研究
Pailinrut Chinwangso, Toyoaki Anai, Ryoji Matsumoto	Bull. Fac. Agr. Saga Univ. 95, 17-28	The Diversity of Isoflavone contents and In Vitro Antioxidant Activities in Japanese Soybean (Glycine Max (L.) Merr.) Cultivars.
中島皓子, 穴井豊昭	佐賀大学農学部彙報 95, 29-38	ダイズ突然変異体ライブラリーの増幅を目的とした Multiple Displacement Amplification (MDA) 法の最適化
K. Fujii, S. Homi, T. Takamuku, and M. Tabata	Activity Report on Neutron Scattering Research (#856)	Study on Micro-solvent Extraction Mechanism using Ionic Liquid-Water Mixed Solvents by SANS
K. Fujii, T. Shimomura, T. Takamuku, Y. Umabayashi, and S. Ishiguro	Activity Report on Neutron Scattering Research (#733)	Nano-Scale Aggregation Structure Formed in Room Temperature Ionic Liquid and Its Application to the New Reaction Field
T. Takamuku, T. Shimomura, and K. Fujii	Activity Report on Neutron Scattering Research (#710)	Alkyl-chain Dependence of Mixing State for Methanol Solutions of Imidazolium-based Ionic Liquids
T. Takamuku, T. Shimomura, and M. Tachikawa	Activity Report on Neutron Scattering Research (#706)	DMF-induced Phase Separation of HFIP-Water Mixtures
矢田光徳	財団法人 日本板硝子材料工学助成会 成果報告書 27, 197-205	ルテニウム化合物のナノ構造制御と電極触媒への応用
花本猛士	知的財産権の出願等(著作権は除く)	新規なスルホニウム塩、その製造方法及びその用途
永野幸生, 松本亮司	知的財産権の出願等(著作権は除く)	開花誘導剤
穴井豊昭	知的財産権の出願等(著作権は除く)	ダイズ油脂中のオレイン酸含量を増加させる突然変異体及びその原因遺伝子
花本猛士	知的財産権の出願等(著作権は除く)	新規なスルホニウム塩、その製造方法及びその用途
朴 蓮花	第 31 回日本疼痛学会優秀演題賞	成熟ラット脊髄膠様質における TRPA1 チャネルのリドカインによる活性化.
岳 海源	第 31 回日本疼痛学会優秀演題賞	ラット脊髄スライスの膠様質ニューロンにおける興奮性および抑制性のシナプス伝達に及ぼすガラニンの作用.
阿南真由美	第 82 回日本内分泌学会学術総会奨励賞	脂肪組織は心筋細胞のアポトーシスを促進し、増殖・分化を抑制する
阿南真由美	第 31 回心筋生検研究会 Young Investigator Award	脂肪組織は心筋細胞の脂肪酸輸送蛋白発現・脂肪化アポトーシスを促進し、増殖・分化を抑制する

原著論文		
著者	雑誌	題目
Kawakami R, Sakuraba H, Goda S, Tsuge H, Ohshima T	Biochimica et Biophysica Acta 2009, 1794: 1496-1504	Refolding, characterization and crystal structure of (S)-malate dehydrogenase from the hyperthermophilic archaeon Aeropyrum pernix
XQ.Hu, YM. Wang, JF. Wang, Y. Xue, ZJ. Li, K. Nagao, T. Yanagita, CH. Xue	Lipids Health Dis. 2010, 9: 1-9	Dietary saponins of sea cucumber alleviate orotic acid-induced fatty liver in rats via PPAR alpha and SREBP-1c signaling.
N. Gotoh, K.Nagao, S. Onoda, B. Shirouchi, K. Furuya, T. Nagai, H. Mizobe, K. Ichioka, H. Watanabe, T. Yanagita, S. Wada	J. Agric. Food Chem. 2009, 57: 11047-11054	Effect of Three Kinds of Highly Purified n-3 Series Highly Unsaturated Fatty Acids on Lipid Metabolism in C57BL/KsJ-db/db Mice.
I. Ikeda, M. Kudo, T. Hamada, K. Nagao, Y. Oshiro, M. Kato, T. Sugawara, T. Yamahira, H. Ito, S. Tamaru, M. Sato, K. Imaizumi, S. Nagaoka, T. Yanagita	J. Nutr. Sci. Vitaminol. 2009, 55: 252-256	Dietary soy protein isolate and its undigested high molecular fraction upregulate hepatic ATP-binding cassette transporter G5 and ATP-binding cassette transporter G8 mRNA and increase biliary secretion of cholesterol in rats.
N. Inoue, N. Yamano, K. Sakata, K. Arai, T. Kobayashi, T. Nagao, Y. Shimada, K. Nagao, T. Yanagita	J. Oleo Sci. 2009, 58: 171-175	Linoleic acid-menthyl ester reduces the secretion of apolipoprotein B100 in HepG2 cells.

Ei'ichi Iizasa, Masaru Mitsutomi, and Yukio Nagano	THE JOURNAL OF BIOLOGICAL CHEMISTRY 2010, 285: 2996–3004	Direct Binding of a Plant LysM Receptor–like Kinase, LysM RLK1/CERK1, to Chitin in Vitro
S. Yokoyama, Y. Iida, Y. Kawasaki, Y. Minami, K. Watanabe and F. Yagi	Journal of Peptide Science 2009, 15: 492–497	The chitin-binding capability of Cy-AMP1 from cycad is essential to antifungal activity
Seo, J-K., K. Ohshima, H-G. Lee, M. So, H-S. Choi, S-H. Lee, S-H. Sohn and K-H. Kim	Virology 2009, 393: 91–103	Molecular variability and genetic structure of the population of Soybean mosaic virus based on the analysis of complete genome sequences
Farzadfar, S., Y. Tomitaka, M. Ikematsu, A. R. Golnaraghi, R. Pourrahim and K. Ohshima	European Journal of Plant Pathology 2009, 124: 45–55	Molecular characterization of Turnip mosaic virus isolates from Brassicaceae weeds
X.Qiu,R.Han,X.Yan,M.Liu,L.Cao,T. Yoshiga,E.Kondo	Applied and Environmental Microbiology 2009, 75: 4221–4223	Identification and characterization of a novel gene involved in the trans-specific nematocidal activity of Photorhabdus luminescens LN2.
Satoshi Watanabe, Rumiko Hideshima, Zhengjun Xia, Yasutaka Tsubokura, Shusei Sato, Yumi Nakamoto, Naoki Yamanaka, Ryoji Takahashi, Masao Ishimoto, Toyoaki Anai, Satoshi Tabata, Kyuya Harada	Genetics 2009, 182: 1251–1262	Map-based cloning of the gene associated with soybean maturity locus E3
Umetsu,Y., Aizawa,T., Muto,K., Yamamoto,H, Kamiya,M. Kumaki,Y, Demura,M, Hayakawa, Y. and Kawano, K.	THE JOURNAL OF BIOLOGICAL CHEMISTRY 2009, 284: 29625–29634	The C-terminal elongation of Growth-blocking peptide enhances its biological activity and micelle binding affinity.
Nakatogawa,S., Oda,Y., Kamiya,M., Kamijima,T., Aizawa,T., Clark,KD., Kawano,K., Strand,R.M. and Hayakawa,Y.	Current Biology 2009, 19: 779–785	A novel peptide mediates aggregation and migration of hemocytes from an insect.
Tominaga A., Nagata M., Futsuki K., Abe H., Uchiumi T., Abe M., Kucho K., Hashiguchi M., Akashi R., Hirsch A., Arima S. and Suzuki A.	Plant Physiology 2009, 151: 1965–1976	Enhanced nodulation and nitrogen fixation in the ABA low-sensitive mutant enf1 (enhanced nitrogen fixation 1) of Lotus japonicus
Yoshikazu Shimoda, Fuyuko Shimoda-Sasakura, Ken-ichi Kucho, Norihito Kanamori, Maki Nagata, Akihiro Suzuki, Mikiko Abe, Shiro Higashi and Toshiki Uchiumi	The Plant Journal 2009, 57: 254–263	Overexpression of class 1 plant hemoglobin genes enhances symbiotic nitrogen fixation activity between Mesorhizobium loti and Lotus japonicus
R. Gohara, D. Liu, K. Nakashima, Y. Takasaki, and S. Ando,	J. Biochem. 2009, 146: 627	Vimentin Intermediate Filaments as a Template for Silica Nanotube Preparation,
D. Liu and K. Nakashima	Inorg. Chem. 2009, 48: 3898	Synthesis of Hollow Metal Oxide Nanospheres by Templating Polymeric Micelles with Core-Shell-Corona Architecture,
D. Liu, K. Nakashima, Z. Tuzar, P. Stepanek	Polym. J. 2009, 41: 492	Hybrid Polymeric Micelles Based on Poly (styrene- <i>b</i> -2-vinyl-1-methylpyridinium iodide- <i>b</i> -ethylene oxide) and Tungstate,
D. Liu, A. Khanal, K. Nakashima, Y. Inoue, and M. Yada,	Chem. Lett. 2009, 38: 130	Fine-Tuning of Cavity Size and Wall Thickness of Silica Hollow Nanoparticles by Templating Polymeric Micelles with Core-Shell-Corona Structure
J. Liu, D. Liu, Y. Yokoyama, S. Yusa, and K. Nakashima,	Langmuir 2009, 25: 739	Physicochemical Properties of Micelles of Poly (styrene- <i>b</i> -[3-(methacryloylamino)propyl] trimethylammonium chloride- <i>b</i> -ethylene oxide) in Aqueous Solutions,
B. Bharatiya, C. Guo, J. H. Ma, O. Kubota, K. Nakashima, and P. Bahadur,	Colloid Polym. Sci. 2009, 287: 63	Urea-induced Demicellization of Pluronic L64 in Water,
Takuya Hashimoto, Takayuki Izumi, Md. Shahajahan Kutubi, Tsugio Kitamura	Tetrahedron Lett. 2010, 51: 761–763	Iron(III)-catalyzed hydroarylation of propiolic acid with activated arenes
Md. Aatur Rahman, Fumiaki Shito, Tsugio Kitamura	Synthesis 2010, 27–29	A Direct and Convenient Synthesis of Periodoarenes Using Molecular Iodine
北村二雄	硫酸と工業 2009, 62: 179–186	ペルオキシ二硫酸カリウムを用いる超原子価ヨウ素化合物の簡便合成
Juzo Oyamada, Takuya Hashimoto, Tsugio Kitamura	J. Organomet. Chem. 2009, 694: 3626–3632	A high hydroarylation activity of K ₂ PtCl ₄ /AgOTf catalyst in the reaction of propiolic acid with unactivated and activated arenes
Md. Aatur Rahman, Tsugio Kitamura	Molecules 2009, 14: 3132–3149	Iodoarylation of Arylalkynes with Molecular Iodine in the Presence of Hypervalent Iodine Reagents

Md. Ataur Rahman, Tsugio Kitamura	Tetrahedron Lett. 2009, 50: 4759–4761	Regio- and stereoselective iodoarylation of arylacetylenes using molecular iodine promoted by hypervalent iodine
Juzo Oyamada, Tsugio Kitamura	Tetrahedron 2009, 65: 3842–3847	Pt(II)-Catalyzed Hydroarylation Reaction of Alkynes with Pyrroles and Furans
D. Sugiyama, Y. Hirakawa, H. Shinmachi, S. Osada, I. Fujita, Y. Hamasaki, and Hiroaki Kodama	Peptides Science 2009 2010, 199–202	Receptor Subtype Selectivity of Dimeric Chemotactic Antagonists
T. Suga, J. Taira, S. Osada, H. Kodama	Peptides Science 2009 2010, 195–198	Amino Acid Sequence Dependence of Ion Channel Activity by Cyclic Tetrapeptides
S. Osada, R. Takabatake, D. Sugiyama, Y. Hamasaki, I. Fujita, and Hiroaki Kodama	Peptides Science 2009 2010, 123–126	Methionine Analogs with the γ -Carbon and Sulfur Atoms Replaced by a Fluoroalkene Unit
S. Osada, S. Sano, M. Ueyama, Y. Chuman, H. Kodama, and K. Sakaguchi	Bioorg. Med. Chem. 2010, 18: 605–611	Fluoroalkene Modification of Mercaptoacetamide-based Histone Deacetylase Inhibitors
Y. Shiki, M. Onai, D. Sugiyama, S. Osada, I. Fujita, and H. Kodama	Peptides 2009, 2009: 323–324	Synthesis and Biological Activity of Cyclic Peptide, Hymenamide Analogs
D. Sugiyama, R. Hayashi, S. Osada, Y. Hamasaki, I. Fujita, and H. Kodama	Peptides 2009, 2008: 331–332	Synthesis and Biological Activity of Transmembrane Peptides Derived from FPR Family Receptors
T. Takamuku, M. Tanaka, T. Sako, T. Shimomura, K. Fujii, R. Kanzaki, and M. Takeuchi	J. Phys. Chem. B 2010, 114: 4252–4260	Solvation of the Amphiphilic Diol Molecule in Aliphatic Alcohol-Water and Fluorinated Alcohol-Water Solutions
T. Takamuku, Y. Kyoshoin, T. Shimomura, S. Kittaka, and T. Yamaguchi	J. Phys. Chem. B 2009, 113: 10817–10824	Effect of Water on Structure of Hydrophilic Imidazolium-based Ionic Liquid
K. Fujii, T. Mitsugi, T. Takamuku, T. Yamaguchi, Y. Umebayashi, and S. Ishiguro	Chem. Lett. 2009, 38: 340–341	Effect of Methylation at the C2 Position of Imidazolium on the Liquid Structure of Ionic Liquids Revealed by Large Angle X-ray Scattering Experiments and MD Simulations
R. Kanzaki, T. Mitsugi, S. Fukuda, K. Fujii, M. Takeuchi, Y. Soejima, T. Takamuku, T. Yamaguchi, Y. Umebayashi, and S. Ishiguro	J. Mol. Liquids 2009, 147: 77–82	Ion-ion Interaction in Room Temperature Ionic Liquid 1-Ethyl-3-methylimidazolium Tetrafluoroborate Studied by Large Angle X-ray Scattering Experiment and Molecular Dynamics Simulations
Yuko Inoue, Iwao Noda, Toshio Torikai, Takanori Watari, Takao Hotokebuchi, Mitsunori Yada	Journal of Solid State Chemistry 2010, 183: 57–64	TiO ₂ nanotube, nanowire, and rhomboid-shaped particle thin films fixed on a titanium metal plate
Yuko Inoue, Masafumi Uota, Toshio Torikai, Takanori Watari, Iwao Noda, Takao Hotokebuchi, Mitsunori Yada	Journal of Biomedical Materials Research 2010, 92A: 1171–1180	Antibacterial properties of nanostructured silver titanate thin films formed on a titanium plate
Yuko Inoue, Seiji Ohtsuka, Toshio Torikai, Takanori Watari and Mitsunori Yada	Crystal Growth and Design 2009, 9: 5092–5100	Nanostructural and Morphological Control of Ruthenium Compounds Templated by Surfactant Assemblies
Gumjae Park, Hiroyoshi Nakamura, Y-S. Lee, Masaki Yoshio	J. Power Sources 2009, 189: 602–606	The important role of additives for improved lithium ion battery safet
G.J. Park, D. Kalpana, A.K. Tappa, H. Nakamura, Y.S. Lee, M. Yoshio	Bull. Korean Chem. Soc. 2009, 30: 817–820	A novel hybrid supercapacitor using a graphite cathode and a niobium(V) oxide anode
S. Yokoyama, Y. Iida, Y. Kawasaki, Y. Minami, K. Watanabe and F. Yagi	Journal of Peptide Science 2009, 15: 492–497	The chitin-binding capability of Cy-AMP1 from cycad is essential to antifungal activity
S. Osada S. Sano, M. Ueyama, Y. Chuman, H. Kodama, K. Sakaguchi	Bioorg. Med. Chem. 2010, 18: 605–611	Fluoroalkene modification of mercaptoacetamide-based histone deacetylase inhibitors
R. Tanaka, T. Owaki, S. Kamiya, T. Matsunaga, K. Shimoda, H. Kodama, R. Hayashi, T. Abe, Y. P. Harada, M. Shimonaka, H. Yajima, H. Terada, F. Fukai	J. Biol. Chem. 2009, 284: 19817–19825	VLA-5-mediated Adhesion to Fibronectin Accelerates Hemin-stimulated Erythroid Differentiation of K562 Cells through Induction of VLA-4 Expression
Y. Shiki, M. Onai, D. Sugiyama, S. Osada, I. Fujita, and H. Kodama	Peptides 2009, 2009: 323–324	Synthesis and Biological Activity of Cyclic Peptide, Hymenamide Analogs
Hanamoto Takeshi, Yamada Kenji	Journal of Organic Chemistry 2009, 74: 7559–7561	Generation and Reaction of Trifluoromethylethenyl Titanium(II) Species
Joh K, Yatsuki H, Higashimoto K, Mukai T, Soejima H	J Biochem. 146(6): 771–774	Antisense transcription occurs at the promoter of a mouse imprinted gene, <i>Commd1</i> , on the repressed paternal allele.
Ito T, Suzuki S, Kanaji S, Shiraishi H, Ohta S, Arima K, Tanaka G, Tamada T, Honjo E, Garcia KC, Kuroki R, Izuhara K.	J Biol Chem. 2009, 284: 24289–24296	Distinct structural requirements for interleukin-4 (IL-4) and IL-13 binding to the shared IL-13 receptor facilitate cellular tuning of cytokine responsiveness.

Kanaji S, Kanaji T, Honda M, Nakazato S, Wakayama K, Tabata Y, Shibata S, Gondo H, Nakamura I, Node K, Miura M, Miyahara M, Okumura T, Nagumo F, Ohta S, Izuhara K.	Int J Hematol. 2009, 89: 71–75	Identification of four novel mutations in F5 associated with congenital factor V deficiency.
○Shiraishi H, Okamoto H, Hara H and Yoshida H.	Biochim Biophys Acta 2010, 1800: 405–415	Alternative cell death of Apaf1-deficient neural progenitor cells induced by withdrawal of EGF or insulin.
*Nagasaka A, Kawane K, Yoshida H and Nagata S.	Cell Death Differ. 2009, 1476–5403 (Electronic)	Apaf-1-independent programmed cell death in mouse development.
Nakaya M, Hashimoto M, Nakagawa R, et al. .	J Immunol. 2009, 183: 7047–7053	SOCS3 in T and NKT Cells Negatively Regulates Cytokine Production and Ameliorates ConA-Induced Hepatitis.
*Ohsawa S, Hamada S, Asou H, et al.	J Neurosci. 2009, 29: 11385–11392.	Caspase-9 activation revealed by semaphorin 7A cleavage is independent of apoptosis in the aged olfactory bulb.
*Furukawa M, Takaishi H, Takito J, et al.	J Immunol. 2009, 183: 2397–2406	IL-27 abrogates receptor activator of NF- κ B ligand-mediated osteoclastogenesis of human granulocyte-macrophage colony-forming unit cells through STAT1-dependent inhibition of c-Fos. .
*Igawa T, Nakashima H, Sadanaga A, et al.	Mod Rheumatol. 2009,19: 33–41.	Deficiency in EBV-induced gene 3 (EBI3) in MRL/lpr mice results in pathological alteration of autoimmune glomerulonephritis and sialadenitis.
Shimano Y, Miyazaki Y, Hara H, Inokuchi A and Yoshida H.	Ann Allergy Asthma Immunol. 2009, 102: 223–232.	Amelioration of experimental allergic rhinitis with suppression of topical immune responses by lack of IL-27/WSX-1 signaling.
*Watanabe N, Takasaki Y, Sato C, Ando S, Tanaka I	Acta Cryst. 2009, D65: 1326–1333	Structures of restriction endonuclease Hind III in complex with its cognate DNA and divalent cations
Okada T, Ihara H, Ito R, Taniguchi N, Ikeda Y	Glycobiology 2009, 19: 368–374	Bidirectional N-acetylglucosamine transfer mediated by beta-1,4-N-acetylglucosaminyltransferase III.
Ishihara K, Yamamoto T, Kubo Y.	Biochem Biophys Res Commun. 2009, 380: 832–837	Heteromeric assembly of inward rectifier channel subunit Kir2.1 with Kir3.1 and with Kir3.4.
* Nishizawa H, Suzuki T, Shioya T, Nakazato Y, Daida H, Kurebayashi N	PloS One 2009, 4: e7069	Causes of abnormal Ca ²⁺ transients in guinea pig pathophysiological ventricular muscle revealed by Ca ²⁺ and action potential imaging at cellular level.
Yamamoto S, Ichishima K, Ehara T	J Physiol Sci 2009, 59: 87–96	Reduced volume-regulated outwardly rectifying anion channel activity in ventricular myocyte of type 1 diabetic mice.
Fujita T, Liu T, Nakatsuka T, Kumamoto E	J. Neurophysiol. 2009, 102: 312–319	Proteinase-activated receptor-1 activation presynaptically enhances spontaneous glutamatergic excitatory transmission in adult rat substantia gelatinosa neurons.
Jiang C-Y, Fujita T, Yue H-Y, Piao L-H, Liu T, Nakatsuka T, Kumamoto E	Neuroscience 2009, 164: 1833–1844	Effect of resiniferatoxin on glutamatergic spontaneous excitatory synaptic transmission in substantia gelatinosa neurons of the adult rat spinal cord.
Nakatsuka T, Taniguchi W, Kawasaki Y, Fujita T, Kumamoto E	Pain Res. 2009, 24: 117–125	Cellular mechanism for spinal cord electrical stimulation-induced analgesia.
Piao L-H, Fujita T, Jiang C-Y, Liu T, Yue H-Y, Nakatsuka T, Kumamoto E	Biochem. Biophys. Res. Commun. 2009, 379: 980–984	TRPA1 activation by lidocaine in nerve terminals results in glutamate release increase.
Piao L-H, Fujita T, Liu T, Yue H-Y, Jiang C-Y, Mizuta K, Tomohiro D, Nakatsuka T, Kumamoto E	J. Func. Diag. Spinal Cord 2009, 31: 24–32	Activation by lidocaine of TRP channels in the rat spinal dorsal horn.
Yue H-Y, Fujita T, Liu T, Piao L-H, Jiang C-Y, Mizuta K, Nakatsuka T, Kumamoto E	Pain Res. 2009, 24: 127–136	Pre- and postsynaptic effect of galanin on excitatory synaptic transmission in rat spinal dorsal horn neurons.
Kai K, Kusano K, Sakai M, Tabuchi M, Yunotani S, Miyazaki K, Tokunaga O.	Virchows Arch. 2009, 454:181–188.	Active neovascularization and possible vascular-centric development of gastric and periscapular elastofibromas
Hou L, Mori D, Takase Y, Meihua P, Kai K, Tokunaga O.	Pathol Int. 2009, 59: 448–461.	Fumagillin inhibits colorectal cancer growth and metastasis in mice: in vivo and in vitro study of anti-angiogenesis.
Minhajati R, Hou L, Kai K, Takase Y, Mori D, Tokunaga O.	Vascular Disease Prevention. 2009, 6: 91–96	Anti-CD105 Inhibits Primary Cancer Growth and Secondary Hematogenous Metastasis in a Xenograft Model
○Nakamura J, Kitajima Y, Kai K, Mitsuno M, Ide T, Hashiguchi K, Hiraki M, Miyazaki K.	Oncol Rep. 2009, 22: 693–699.	Hypoxia-inducible factor-1 α expression predicts the response to 5-fluorouracil-based adjuvant chemotherapy in advanced gastric cancer.

Aoki S, Takezawa T, Uchihashi K, Sugihara H, Toda S.	Pathol Int. 2009, 59: 368-375.	Non-skin mesenchymal cell types support epidermal regeneration in a mesenchymal stem cell or myofibroblast phenotype-independent manner.
○Ootani A, Li X, Sangiorgi E, Ho QT, Ueno H, Toda S, Sugihara H, Fujimoto K, Weissman IL, Capecchi MR, Kuo CJ.	Nat Med. 2009, 5: 701-706.	Sustained <i>in vitro</i> intestinal epithelial culture within a Wnt-dependent stem cell niche.
園田恵美子, 内橋和芳, 青木茂久, 船津丸貞幸, 米満伸久, 戸田修二	ホルモンと臨床 2009, 57: 92-101	甲状腺および副甲状腺腫遺伝子・転写・細胞 成熟脂肪細胞、前脂肪細胞及び間葉系幹細胞を有する多機能性脂肪組織の長期培養法の確立
* Li YJ, Kukita A, Teramachi J, Nagata K, Wu Z, Akamine A, Kukita T.	Lab Invest. 2009, 89: 26-37	A possible suppressive role of galectin-3 in upregulated osteoclastogenesis accompanying adjuvant-induced arthritis in rats.
* Liu J, Shiono J, Shimizu K, Kukita A, Kukita T, Kondo R.	Bioorg Med Chem Lett. 2009, 19: 2154-2157	Ganoderic acid DM: anti-androgenic osteoclastogenesis inhibitor.
* Miyamoto I, Liu J, Shimizu K, Sato M, Kukita A, Kukita T, Kondo R.	Eur J Pharmacol. 2009, 602: 1-7	Regulation of osteoclastogenesis by ganoderic acid DM isolated from <i>Ganoderma lucidum</i> .
* Noda I, Miyaji F, Ando Y, Miyamoto H, Shimazaki T, Yonekura Y, Miyazaki M, Mawatari M, Hotokebuchi T.	J Biomed Mater Res Part B:Appl Biomater 2009, 89B: 456-465	Development of novel thermal sprayed antibacterial coating and evaluation of release properties of silver ions
○Shimazaki T, Miyamoto H, Ando Y, Noda I, Yonekura Y, Kawano S, Miyazaki M, Mawatari M, Hotokebuchi T	Journal of Biomedical Materials Research Part B: Applied Biomaterials 2009, 92B: 386-389	<i>In vivo</i> antibacterial and silver-releasing properties of novel thermal sprayed silver-containing hydroxyapatite coating
* Nagayoshi H, Matsumoto A, Nishi R, Kawamoto T, Ichiba M, Matsuda T.	Muta. Res. 2009, 67: 374-77	Increased formation of gastric N2-ethylidene-2-deoxyguanosine DNA adducts in aldehyde dehydrogenase-2 knockout mice treated with ethanol
市場正良, 高橋達也, 山下善功, 高石恵子, 西村晃一, 蒲池将史, 近藤敏弘, 松本明子, 上野大介, 宮島徹.	日本衛生学雑誌 2009, 64: 26-31	佐賀環境フォーラムにおけるシックスクール問題への取り組み.
*Makoto Eriguchi, Haruo Mizuta Shouqing Luo, Yasuo Kuroda, Hideo Hara David C. Rubinsztein	Journal of the Neurological Sciences, 2010, 290: 80-85	Alpha Pix enhances mutant huntingtin aggregation
○Komiya K, Sueoka-Aragane N, Sato A, Hisatomi T, Sakuragi T, Mitsuoka M, Sato T, Hayashi S, Izumi H, Tsuneoka M, Sueoka E.	Lung Cancer 2010, 69:232-8	Expression of Mina53, a novel c-Myc target gene, is a favorable prognostic marker in early stage lung cancer.
* Wang D, Hirase T, Nitto T, Soma M, Node K.	J Cardiol. 2009, 54: 368-74	Eicosapentaenoic acid increases cytochrome P-450 2J2 gene expression and epoxyeicosatrienoic acid production via peroxisome proliferator-activated receptor gamma in endothelial cells.
Node K, Inoue T.	Cardiovasc Diabetol. 2009, 8: 23.	Postprandial hyperglycemia as an etiological factor in vascular failure.
* Anzai K, Fukagawa K, Iwakiri R, Fujimoto K, Akashi K, Tso P.	J Clin Biochem Nutr 2009, 45: 82-85	Increased lipid absorption and transport in the small intestine of Zucker obese rats.
○Hamajima H, Ozaki I, Zhang H, Iwane S, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Matsuhashi S, Mizuta T, Matsuzaki K, Fujimoto K.	Int J Oncol. 2009, 35:1441-1447	Modulation of the transforming growth factor-beta1-induced Smad phosphorylation by the extracellular matrix receptor beta1-integrin.
○Ide Y, Zhang H, Hamajima H, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Mizuta T, Yamamoto K, Fujimoto K, Ozaki I	Oncol Rep. 2009, 22: 599-604	Inhibition of matrix metalloproteinase expression by menatetrenone, a vitamin K2 analogue
Ootani A, Li X, Sangiorgi E, Ho OT, Ueno H, Toda S, Sugihara H, Fujimoto K, Weissman IL, Capecchi MR, Kuo CJ	Nature Med 2009, 15: 701-706	Sustained <i>in vitro</i> intestinal epithelial culture within a Wnt-dependent stem cell niche
Shiraishi R, Fujise T, Kuroki T, Kakimoto T, Miao L, Sakata Y, Tsunada S, Noda T, Iwakiri R, Fujimoto K	J Gastroenterol. 2009, 44: 1026-1035	Long-term ingestion of reduced glutathione suppressed an accelerating effect of beef tallow diet on colon carcinogenesis in rats
* Wu B, Zeng L, Lin Y, Wen Z, Chen G, Iwakiri R, Fujimoto K	Cell Res. 2009, 19: 1269-1278	Down regulation of cyclooxygenase-1 is involved in gastric mucosal apoptosis via death signaling in portal hypertensive rats

Hiraki M, Kitajima Y, Nakafusa Y, Nakamura J, Hashiguchi K, Sumi K, Noshiro H, Miyazaki K.	ONCOLOGY REPORTS 2009, 23: 191-197	CpG island methylation of BNIP3 predicts resistance against S-1/CPT-11 combined therapy in colorectal cancer patients
Hiraki M, Kitajima Y, Sato S, Mitsuno M, Koga Y, Nakamura J, Hashiguchi K, Noshiro H, Miyazaki K	Annals of surgical oncology 2010, 17: 1177-1186	Aberrant Gene Methylation in the Lymph Nodes Provides a Possible Marker for Diagnosing Micrometastasis in Gastric Cancer
Nakamura J, Kitajima Y, Kai K, Mitsuno M, Ide T, Hashiguchi K, Hiraki M, Miyazaki K.	Oncology Reports 2009, 22: 693-699	Hypoxia-inducible factor-1 α expression predicts the response to 5-fluorouracil-based adjuvant chemotherapy in advanced gastric cancer
*Shinozaki Y, Sen W, Miyazaki Y, Miyazaki K, Yamada H, Yoshikai Y, Hara H, Yoshida H.	International Journal of Cancer 2009, 6:1372-1378	Tumor-specific cytotoxic T cell generation and dendritic cell function are differentially regulated by interleukin 27 during development of anti-tumor immunity
Takafumi Shimazaki, Hiroshi Miyamoto, Yoshiki Ando, Iwao Noda, Yutaka Yonekura, Shunsuke Kawano, Masaki Miyazaki, Masaaki Mawatari, Takao Hotokebuchi	Journal of Biomedical Materials Research Part B: 2009, 386-389	In Vivo Antibacterial and Silver-Releasing Properties of Novel Thermal Sprayed Silver-Containing Hydroxyapatite Coating
Shimomura Y, Hirata A, Okinami S	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 2009, 247:1089-1094	Changes in choriocapillaris fenestration of rat eyes after intravitreal bevacizumab injection.
平川奈緒美	ペインクリニック. 2009, 30: 229-241	交感神経の解剖
Komiya K, Sueoka-Aragane N, Sato A, Hisatomi T, Sakuragi T, Mitsuoka M, Sato T, Hayashi S, Izumi H, Tsuneoka M, Sueoka E	Lung Cancer 2010, 69:232-8	Expression of Mina53, a novel c-Myc target gene, is a favorable prognostic marker in early stage lung cancer.
Ito T, Suzuki S, Kanaji S, Shiraishi H, Ohta S, Arima K, Tanaka G, Tamada T, Honjo E, K. Christopher Garcia, Kuroki R, Izuhara K	The Journal of Biological Chemistry 2009, 284: 24289-24296,	Distinct Structural Requirements for Interleukin-4 (IL-4) and IL-13 Binding to the Shared IL-13 Receptor Facilitate Cellular Tuning of Cytokine Responsiveness.
* Duan P-G, Kawano H, Masuko S,	Brain Res. 2009, 1198: 68-72	Collateral projections from the subfornical organ to the median preoptic nucleus and paraventricular hypothalamic nucleus in the rat
OHamajima H, Ozaki I, Zhang H, Iwane S, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Matsuhashi S, Mizuta T, Matsuzaki K, Fujimoto K	Int J Oncol 2009, 35: 1441-1447,	Modulation of the transforming growth factor- β 1-induced Smad phosphorylation by the extracellular matrix receptor β 1-integrin.
*Ide Y, Zhang H, Hamajima H, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Mizuta T, Yamamoto K, Fujimoto K, Ozaki I	Oncology Reports 2009, 22: 599-604	Inhibition of matrix metalloproteinase expression by menatetrenone, a vitamin K2 analogue.
OImazumi T, Higaki Y, Hara M, Sakamoto T, Horita M, Mizuta T, Eguchi Y, Yasutake T, Ozaki I, Yamamoto K, Onohara S, Kawazoe S, Shigematsu H, Koizumi S, Kudo S, Tanaka K	Carcinogenesis 2009, 30: 1729-1734	Interaction between cytochrome P450 1A2 genetic polymorphism and cigarette smoking on the risk of hepatocellular carcinoma in a Japanese population.
Hamajima H, Ozaki I, Zhang H, Iwane S, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Matsuhashi S, Mizuta T, Matsuzaki K, Fujimoto K	Int. J. Oncol. 2009, 35: 1441-1447	Modulation of the transforming growth factor- β 1-induced Smad phosphorylation by the extracellular matrix receptor β 1-integrin.
OIde Y, Zhang H, Hamajima H, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Mizuta T, Yamamoto K, Fujimoto K, Ozaki I	Oncol. Rep. 2009, 22: 599-604	Inhibition of matrix metalloproteinase expression by menatetrenone, a vitamin K2 analogue.
Komiya K, Sueoka-Aragane N, Sato A, Hisatomi T, Sakuragi T, Mitsuoka M, Sato T, Hayashi S, Izumi H, Tsuneoka M, Sueoka E.	J Cancer Res Clin Oncol. 2010, 136:465-73	Mina53, a novel c-Myc target gene, is frequently expressed in lung cancers and exerts oncogenic property in NIH/3T3 cells.
Komiya K, Sueoka-Aragane N, Sato A, Hisatomi T, Sakuragi T, Mitsuoka M, Sato T, Hayashi S, Izumi H, Tsuneoka M, Sueoka E.	Lung Cancer 2010, 69:232-8	Expression of Mina53, a novel c-Myc target gene, is a favorable prognostic marker in early stage lung cancer.
Hamajima H, Ozaki I, Zhang H, Iwane S, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Matsuhashi S, Mizuta T, Matsuzaki K, Fujimoto K	Int J Oncol 2009, 35: 1441-1447	Modulation of the transforming growth factor- β 1-induced Smad phosphorylation by the extracellular matrix receptor β 1-integrin.

Ide Y, Zhang H, Hamajima H, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Mizuta T, Yamamoto K, Fujimoto K, Ozaki I	Oncology Reports 2009, 22: 599-604	Inhibition of matrix metalloproteinase expression by menatetrenone, a vitamin K2 analogue.
*Koike T, Kitajima S, Yu Y, Li Y, Nishijima K, Liu E, Sun H, Ahmed Bilal Waqar AB, Shibata N, Inoue T, Wang Y, Zhang B, Kobayashi J, Morimoto M, Saku K, Watanabe, T, Fan J	Arterioscler. Thromb. Vasc. Biol. 2009, 29: 2047-2053	Expression of human apoAII in transgenic rabbits leads to dyslipidemia: a new model for combined hyperlipidemia
*Koike T, Kitajima S, Yu Y, Nishijima K, Zhang J, Ozaki Y, Morimoto M, Watanabe T, Bhakdi S, Asada Y, Chen YE, Fan J	Circulation 2009, 120: 2088-2094	Human C-reactive protein does not promote atherosclerosis in transgenic rabbits
Nishijima K, Kuwahara S, Ohno T, Miyaishi O, Ito Y, Sumi Y, Tanaka S	Arch. Gerontol. Geriatr. 2009, 48: 178-81	Occlusal tooth wear in male F344/N rats with aging.
○市場正良 高橋達也 山下善功 高石恵子 西村晃一 蒲池将史 近藤敏弘 松本明子 上野大介 宮島徹	日本衛生学雑誌 2009, 64: 26-31	佐賀環境フォーラムにおけるシックスクール問題への取り組み
*Nakano T., Katafuchi A., Matsubara M., Terato H., Tsuboi T., Masuda T., Tatsumoto T., Pack S. -P., Makino K., Croteau D., Van Houten B., Iijima K., Tauchi H. and Ide H.	J. Biol. Chem. 2009, 284: 27065-27076	Homologous recombination but not nucleotide excision repair plays a pivotal role in tolerance to DNA-protein crosslinks in mammalian cells.
*Nakano T., Salem A. M. H., Terato H., Pack S.-P., Makino K. and Ide H.	Nucleic Acids Symp. Ser. 2009, 53: 225-226	Comparison of the activities of bacteria and mammalian nucleotide excision repair systems for DNA-protein crosslinks.
*Salem A. M. H., Nakano T., Takawa M., Matoba N., Tsuboi T., Terato H., Yamamoto K., Yamada M., Nohmi T. and Ide H.	J. Bacteriol. 2009, 191: 5657-5668	Genetic analysis of repair and damage tolerance mechanisms for DNA-protein cross-links in Escherichia coli.

招待講演・特別講演		
発表者	会議等名	題目
永尾晃治	第 63 回日本栄養・食糧学会大会	機能性脂質によるメタボリックシンドロームの予防・改善に関する研究
永尾晃治	100th American oil chemist' society annual meeting & expo	(Award Lecture) Effect of dietary DHA-PC on lipid metabolism in obese rats.
永尾晃治	100th American oil chemist' society annual meeting & expo	Prevention and alleviation of metabolic syndrome with bioactive phospholipids.
Yukio Nagano	The 4th Daegu University-Saga University Joint Symposium	Chitin Receptor
Keiichi Watanabe	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meetings on Life and Food Science 2009	Structure and function of cold-adapted enzymes: insight into structural motion and catalytic mechanism
渡邊啓一	高分子学会 バイオ・高分子研究会	酵素構造の柔軟性、動きと触媒反応機構ー低温適応酵素からの洞察ー
Toyoshi Yoshiga	International Symposium on the research and development of Enotomopathogenic nematodes	Isolation and characterization of Photorhabdus asymbiotica from Heterorhabditis indica
Toyoshi Yoshiga, Mutsuhiro Yoshida	International Symposium "Nematodes in tropical ecosystems"	Steinernema litorale is able to form mutualistic symbiosis with different Xenorhabdus bacteria
穴井豊昭	NBRP シンポジウム「NBRP が提供するミュートリソース」	新規ダイズ突然変異体リソースと TILLING による変異体スクリーニング
穴井豊昭	第 30 回種子生理生化学研究会 年会 講演要旨集	TILLING 法を用いたダイズ(Glycine max)種子脂肪酸組成の代謝学的改変

早川洋一	農薬バイオサイエンス研究会 シンポジウム	昆虫はストレスをどう乗り切っているか？－自然免疫系の観点より
早川洋一	日本生化学会(シンポジウム)	新規昆虫サイトカインの構造と生理機能
北村二雄	有機合成化学講演会	ヒドロアリール化反応を利用する新規有機合成反応の開発
北村二雄	第2回臭素化学懇話会発表会	有機ヨウ素化合物の簡便合成とその応用
北村二雄	炭素資源の高度分子変換取り纏めシンポジウム	アルキンのヒドロアリール化反応を利用する高度分子変換プロセスの開発
長田聡史	第3回万有若手交流セミナー	フッ化脂肪鎖をプローブとした受容体におけるメチオニン側鎖相互作用様式の洞察
Terato, H., Nakano, T., Pack, S.-P., Makino, K. and Ide, H.	The 4th Daegu University and Saga University Joint Seminars	Genotoxicities of Deaminated Guanine Lesions and their Repair Mechanisms.
高椋利幸	第58回高分子学会討論会, S9 生体に学ぶセンシング、輸送、分離	HFIP-水混合溶液のペプチド基に対する溶媒和と相分離

一般講演		
発表者	会議等名	題目
川上竜巳、小山正樹、櫻庭春彦、大島敏久	日本農芸化学会大会	巨大グルタミン酸脱水素酵素の活性触媒残基の同定
M. Higashi, R. Kawakami	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meeting on Life Science and Food Science	Characterization of the proline dehydrogenase subunits of the dye-linked L-proline dehydrogenase complexes from hyperthermophilic archaea
M. Oyama, R. Kawakami	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meeting on Life Science and Food Science	A unique kinetic behavior of the third group of NAD-dependent glutamate dehydrogenase from <i>Janthinobacterium lividum</i> by L-aspartate in the reductive amination reaction
東麻梨江、川上竜巳	蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	超好熱アーキア由来色素依存性 L-プロリン脱水素酵素複合体の L-プロリン脱水素酵素サブユニットの機能解析
小山正樹、川上竜巳	蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	<i>Janthinobacterium lividum</i> 由来、巨大グルタミン酸脱水素酵素の L-アスパラギン酸による活性化と触媒活性部位の同定
武藤さやか、厚山恵里、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年年度大会	シロイヌナズナ LPS 結合タンパク質 2 (AtLBP2) の自然免疫における機能と抗菌活性の解析
野口千明、飯笹英一、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年年度大会	キチンとタンパク質の結合の簡易的な検出法
飯笹英一、光富勝、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年年度大会	LysM RLK1/CERK1 の生化学的解析
厚山恵里、武藤さやか、飯笹英一、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年年度大会	LPS はシロイヌナズナの生育阻害を誘導する
武藤さやか、厚山恵里、飯笹英一、永野幸生	第 51 回 日本植物生理学会 年会	植物の LPS 認識におけるシロイヌナズナ LPS 結合タンパク質 2 (AtLBP2) の機能解析と LPS 受容体探索法の提案
Eri Atsuyama, Sayaka Muto, Ei'ichi Iizasa and Yukio Nagano	The 4th Daegu University-Saga University Joint Symposium	A method to search for LPS receptor in <i>Arabidopsis thaliana</i>
Sayaka Muto, Eri Atsuyama, Ei'ichi Iizasa and Yukio Nagano	The Third Asian Symposium on Plant Lipids	Seedling Growth Inhibition Assay with Bacterial Lipopolysaccharide (LPS) will Be A New Approach for the Identification of LPS Receptor of Plants
武藤さやか、厚山恵里、飯笹英一、永野幸生	2009 年度日本農芸化学会西日本支部合同大会	グラム陰性菌由来リポ多糖はシロイヌナズナの生育を阻害する
飯笹英一、光富勝、永野幸生	2009 年度日本農芸化学会西日本支部合同大会	シロイヌナズナの受容体 LysM RLK1/CERK1 はキチンと直接結合する
武藤さやか、永野幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	シロイヌナズナ LPS 結合タンパク質 (AtLBP) は LPS に対する植物自然免疫に関わる
野口千明、飯笹英一、永野幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	植物受容体キナーゼの酵母における発現系の構築

飯笹英一、光富勝、永野幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	シロイヌナズナ受容体 LysM RLK1/CERK1 はキチンと直接結合する
厚山恵里、武藤さやか、飯笹英一、永野幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	シロイヌナズナにおける LPS 受容体探索法の構築
Ei'ichi Iizasa, Masaru Mitsutomi, and Yukio Nagano	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meetings on Life and Food Science 2009	Arabidopsis Receptor Kinase LysM RLK1/CERK1 directly binds chitin
Sayaka Muto, Eri Atsuyama, Ei'ichi Iizasa and Yukio Nagano	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meetings on Life and Food Science 2009	Bacterial lipopolysaccharide induces growth inhibition of <i>A. thaliana</i> seedling
Chiaki Noguchi, Ei'ichi Iizasa, Yukio Nagano	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meetings on Life and Food Science 2009	Yeast Expression system for plant receptor-like kinases and association between their expression levels and properties
野口千明、飯笹英一、永野幸生	平成 21 年度日本生化学会九州支部例会	酵母における植物受容体キナーゼの網羅的発現
百島亜紀、副島菜都美、上田敏久、関清彦、光富 勝	農芸化学会 2009 年度大会	アマランサス種子由来坑真菌性ペプチドの大腸菌を用いた発現
江頭直紀、出口征弥、諸熊晃典、吉村修一、百島亜紀、関 清彦、光富 勝、安藤祥司、上田敏久	2009 年度合同沖縄大会 日本農芸化学会関西・中四国・西日本支部 日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部 日本食品科学工学会西日本支部合同	抗真菌性をもつトリペプチド(第2報)
Katsuaki Hirano, Sitthinan Arayaveerasid, Kiyohiko Seki, Masaru Mitsutomi	11th International Conference on Chitin & Chitosan	Effect of acetyl group of chitosan on chitosanase activity
Junya Iwasaki, Takashi Ohkubo, Atsuko Tanaka, Kiyohiko Seki, Ken Tokuyasu, Masaru Mitsutomi	11th International Conference on Chitin & Chitosan	Extracellular Production of Recombinant Chitosanase in <i>Escherichia coli</i>
田中温子、岩崎純也、百島亜紀、徳安健、関 清彦、光富 勝	第 23 回キチン・キトサンシンポジウム	キトサナーゼ融合抗真菌ペプチドの大腸菌での分泌発現
平野勝紹、村嶋康平、上田光宏、関 清彦、光富 勝	第 23 回キチン・キトサンシンポジウム	高重合度キチンオリゴ糖の調製
Aki Momoshima, Kiyohiko Seki, Masaru Mitsutomi	1st-Yellow Sea Rim Liaison Lectures & Meeting on Life & Food Science	Functional expression of an antimicrobial peptide from <i>Amaranthus</i> seeds in <i>Escherichia coli</i>
Atsuko Tanaka	1st-Yellow Sea Rim Liaison Lectures & Meeting on Life & Food Science	Extracellular production of recombinant chitosanase fusion antimicrobial peptide using <i>Escherichia coli</i>
武藤さやか、厚山恵里、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年度大会	シロイヌナズナ LPS 結合タンパク質 2 (AtLBP2) の自然免疫における機能と抗菌活性の解析
野口千明、飯笹英一、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年年会	キチンとタンパク質の結合の簡易的な検出法
飯笹英一、光富勝、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年年会	LysM RLK1/CERK1 の生化学的解析
厚山恵里、武藤さやか、飯笹英一、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年年会	LPS はシロイヌナズナの生育阻害を誘導する
武藤さやか、厚山恵里、飯笹英一、永野幸生	第 51 回 日本植物生理学会年会	植物の LPS 認識におけるシロイヌナズナ LPS 結合タンパク質 2 (AtLBP2) の機能解析と LPS 受容体探索法の提案
Eri Atsuyama, Sayaka Muto, Ei'ichi Iizasa and Yukio Nagano	The 4th Daegu University-Saga University Joint Symposium	A method to search for LPS receptor in <i>Arabidopsis thaliana</i>
Sayaka Muto, Eri Atsuyama, Ei'ichi Iizasa and Yukio Nagano	The Third Asian Symposium on Plant Lipids	Seedling Growth Inhibition Assay with Bacterial Lipopolysaccharide (LPS) will Be A New Approach for the Identification of LPS Receptor of Plants

武藤さやか、厚山恵里、飯笹英一、永野幸生	2009年度日本農芸化学会 関西・中四国・西日本支部、 日本栄養・食糧学会九州・沖 縄支部および日本食品科学 工学会西日本支部合同沖縄 大会	グラム陰性菌由来リポ多糖はシロイヌナズナの生育を阻害する
飯笹英一、光富勝、永野幸生	2009年度日本農芸化学会 関西・中四国・西日本支部、 日本栄養・食糧学会九州・沖 縄支部および日本食品科学 工学会西日本支部合同沖縄 大会	シロイヌナズナの受容体 LysM RLK1/CERK1 はキチンと直接 結合する
武藤さやか、永野幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造 と機能に関する九州シンポジ ウム	シロイヌナズナ LPS 結合タンパク質 (AtLBP)は LPS に対する植 物自然免疫に関わる
野口千明、飯笹英一、永野幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造 と機能に関する九州シンポジ ウム	植物受容体キナーゼの酵母における発現系の構築
飯笹英一、光富勝、永野幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造 と機能に関する九州シンポジ ウム	シロイヌナズナ受容体 LysM RLK1/CERK1 はキチンと直接結合 する
厚山恵里、武藤さやか、飯笹英一、永野 幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造 と機能に関する九州シンポジ ウム	シロイヌナズナにおける LPS 受容体探索法の構築
Ei'ichi Iizasa, Masaru Mitsutomi, and Yukio Nagano	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meetings on Life and Food Science 2009	Arabidopsis Receptor Kinase LysM RLK1/CERK1 directly binds chitin
Sayaka Muto, Eri Atsuyama, Ei'ichi Iizasa and Yukio Nagano	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meetings on Life and Food Science 2009	Bacterial lipopolysaccharide induces growth inhibition of <i>A. thaliana</i> seedling
Chiaki Noguchi, Ei'ichi Iizasa, Yukio Nagano	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meetings on Life and Food Science 2009	Yeast Expression system for plant receptor-like kinases and association between their expression levels and properties
野口千明、飯笹英一、永野幸生	平成 21 年度日本生化学会九 州支部例会	酵母における植物受容体キナーゼの網羅的発現
淵田直樹、有田沙織、本島浩之、渡邊啓 一	日本農芸化学会大会	Subtilisin Carlsberg の P209A 変異により基質結合ループの柔 軟性が変化する
Md Ablu Kashem TANG, Hiroyuki MOTOSHIMA, Keiichi WATANABE	日本農芸化学会大会	Fluorescence studies on the flexibility and substrate-induced conformational changes of the psychrophilic and mesophilic acetate kinases
淵田直樹、熊井洋平、有田沙織、本島浩 之、西本悦子、渡邊啓一	第 82 回 日本生化学会大会	Subtilisin Carlsberg の P209G 変異が β 8-9 間ターンの局所的 揺らぎに及ぼす影響のトリプトファン蛍光解析
山口真須美、加藤田麻衣、松林阿希奈、 本島浩之、渡邊啓一	第 33 回蛋白質と酵素の構造 と機能に関する九州シンポジ ウム	南極産好冷細菌 <i>Pseudoalteromonas</i> sp. AS-131 由来グルコー ス 6-リン酸デヒドロゲナーゼの機能解析
淵田直樹、熊井洋平、有田沙織、本島浩 之、西本悦子、渡邊啓一	第 33 回蛋白質と酵素の構造 と機能に関する九州シンポジ ウム	Subtilisin Carlsberg の P209G 変異が β 8-9 間ターンの局所的 揺らぎに及ぼす影響の 定常状態及び高速時間分割トリプトファン蛍光解析
有田沙織、淵田直樹、本島浩之、渡邊啓 一	第 33 回蛋白質と酵素の構造 と機能に関する九州シンポジ ウム	Subtilisin Carlsberg における β 8-9 間の構造の柔軟性と活性や 熱安定性の関係の変異体解析
中山 智彦、小川 温子、本島 浩之、渡 邊 啓一	第 33 回蛋白質と酵素の構造 と機能に関する九州シンポジ ウム	南極産好冷細菌由来 <i>Pseudoalteromonas</i> sp. AS-131 由来グ ルコキナーゼの性質
Masumi YAMAGUCHI, Mai KATOUDA, Akina MATSUBAYASHI, Hiroyuki MOTOSHIMA and Keiichi WATANABE	1st-Yellow Sea Rim Liaison Lectures & Meeting on Life & Food Science	Purification and characterization of glucose 6-phosphate dehydrogenase from an Antarctic psychrotroph <i>Pseudoalteromonas</i> sp. AS-131
Md. Abul Kashem TANG, Hiroyuki MOTOSHIMA, and Keiichi WATANABE	1st-Yellow Sea Rim Liaison Lectures & Meeting on Life & Food Science	Acetate kinase from psychrotrophic <i>Shewanella</i> species is more flexible than that from mesophilic <i>Escherichia coli</i>

Tomohiko NAKAYAMA, Atsuko OGAWA, Hiroyuki MOTOSHIMA and Keiichi WATANABE	1st-Yellow Sea Rim Liaison Lectures & Meeting on Life & Food Science	Structural and Functional characterization of Glucokinase from <i>Escherichia coli</i> K-12 and psychrotrophic <i>Pseudoalteromonas</i> sp. AS-131
Naoki FUCHITA, Youhei KUMAIb, Saori ARITAb, Hiroyuki MOTOSHIMA, Etsuko NISHIMOTO and Keiichi WATANABE	1st-Yellow Sea Rim Liaison Lectures & Meeting on Life & Food Science	Steady-state and time-resolved tryptophan fluorescence studies prove that P209G mutation enhances the local fluctuation of the turn between β 8-9 strands of subtilisin Carlsberg
Saori ARITA, Naoki FUCHITA, Hiroyuki MOTOSHIMA and Keiichi WATANABE	1st-Yellow Sea Rim Liaison Lectures & Meeting on Life & Food Science	Mutational evidence that flexibility of the turn between β 8-9 strands in subtilisins contributes to higher activity and thermostability
Md. Abul Kashem Tang, Hiroyuki Motoshima, Keiichi Watanabe		Fluorescence studies on fluctuation and stability of acetate kinases from <i>Escherichia coli</i> and psychrotrophic <i>Shewanella</i> species
三角かな恵、長野沙織、本島浩之、渡邊啓一	2009年度日本農芸化学会 関西・中四国・西日本支部、日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部および日本食品科学工学会西日本支部合同沖縄大会	等温滴定カロリーメトリーによる低温細菌 <i>Pseudoalteromonas</i> sp. AS-131 と大腸菌由来ピルビン酸キナーゼのアロステリック調節因子リボース 5-リン酸との結合解析
淵田直樹、熊井洋平、近藤明香、有田沙織、本島浩之、渡邊啓一	日本蛋白質科学会年会	トリプトファン蛍光を用いた subtilisin Carlsberg の β 8-9 間ターンにおける局所的ゆらぎ解析のための W112F/Y208W/P209G 変異体
山口真須美、加藤田麻衣、本島浩之、渡邊啓一	日本蛋白質科学会年会	南極産好冷細菌 <i>Pseudoalteromonas</i> sp. AS-131 由来グルコース 6-リン酸デヒドロゲナーゼの低温に適応した性質
小川温子、中山智彦、本島浩之、渡邊啓一	日本生化学会九州支部例会	南極産好冷細菌 <i>Pseudoalteromonas</i> sp. AS-131 由来グルコキナーゼは熱安定性の高い低温適応酵素である
淵田直樹、有田沙織、本島浩之、渡邊 啓一	日本生化学会九州支部例会	Subtilisin Carlsberg の活性部位外に位置する β 8、9 ストランド間ターンの柔軟性を上げることによって、触媒活性が上昇する
百島亜紀、副島菜都美、上田敏久、関清彦、光富 勝	農芸化学会 2009 年度大会	アマランサス種子由来抗真菌性ペプチドの大腸菌を用いた発現
江頭直紀、出口征弥、諸熊晃典、吉村修一、百島亜紀、関 清彦、光富 勝、安藤祥司、上田敏久	2009 年度合同沖縄大会 日本農芸化学会関西・中四国・西日本支部 日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部 日本食品科学工学会西日本支部 合同	抗真菌性をもつトリペプチド(第2報)
Katsuaki Hirano, Sitthinan Arayaveerasid, Kiyohiko Seki, Masaru Mitsutomi	11th International Conference on Chitin & Chitosan	Effect of acetyl group of chitosan on chitosanase activity
Junya Iwasaki, Takashi Ohkubo, Atsuko Tanaka, Kiyohiko Seki, Ken Tokuyasu, Masaru Mitsutomi	11th International Conference on Chitin & Chitosan	Extracellular Production of Recombinant Chitosanase in <i>Escherichia coli</i>
田中温子、岩崎純也、百島亜紀、徳安健、関 清彦、光富 勝	第 23 回キチン・キトサンシンポジウム	キトサナーゼ融合抗真菌ペプチドの大腸菌での分泌発現
平野勝紹、村嶋康平、上田光宏、関 清彦、光富 勝	第 23 回キチン・キトサンシンポジウム	高重合度キチンオリゴ糖の調製
Aki Momoshima, Kiyohiko Seki, Masaru Mitsutomi	1st-Yellow Sea Rim Liaison Lectures & Meeting on Life & Food Science	Functional expression of an antimicrobial peptide from <i>Amaranthus</i> seeds in <i>Escherichia coli</i>
Atsuko Tanaka	1st-Yellow Sea Rim Liaison Lectures & Meeting on Life & Food Science	Extracellular production of recombinant chitosanase fusion antimicrobial peptide using <i>Escherichia coli</i>
川上竜巳、小山正樹、櫻庭春彦、大島敏久	日本農芸化学会大会	巨大グルタミン酸脱水素酵素の活性触媒残基の同定
M. Higashi, R. Kawakami	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meeting on Life Science and Food Science	Characterization of the proline dehydrogenase subunits of the dye-linked L-proline dehydrogenase complexes from hyperthermophilic archaea

M. Oyama, R. Kawakami	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meeting on Life Science and Food Science	A unique kinetic behavior of the third group of NAD-dependent glutamate dehydrogenase from <i>Janthinobacterium lividum</i> by L-aspartate in the reductive amination reaction
東麻梨江、川上竜巳	蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	超好熱アーキア由来色素依存性 L-プロリン脱水素酵素複合体の L-プロリン脱水素酵素サブユニットの機能解析
小山正樹、川上竜巳	蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	<i>Janthinobacterium lividum</i> 由来、巨大グルタミン酸脱水素酵素の L-アスパラギン酸による活性化と触媒活性部位の同定
Yuki Harada, Toyoshi Yoshiga	International Symposium "Nematodes in tropical ecosystems"	Influence of soil bacteria on survival of <i>Aphelenchus avenae</i>
Ryusei Tanaka, Etsuko Okumura, Toyoshi Yoshiga	International Symposium "Nematodes in tropical ecosystems"	<i>Caenorhabditis japonica</i> dauer juveniles enter quiescence on the bug and increase survivability
Etsuko Okumura, Ryusei Tanaka, Toyoshi Yoshiga	International Symposium "Nematodes in tropical ecosystems"	Host searching behavior of <i>Caenorhabditis japonica</i> dauer juveniles
田中龍聖・奥村悦子・吉賀豊司	第 17 回日本線虫学会大会	<i>Caenorhabditis japonica</i> 耐久型幼虫のベニツチカメムシに伴いによって発現が変化するタンパク質の解析
吉丸 葵・田中龍聖・森絵梨加・吉賀豊司	第 17 回日本線虫学会大会	イネシンガレセンチュウの乾燥耐性
右田浩平・田中龍聖・吉賀豊司	第 17 回日本線虫学会大会	<i>Caenorhabditis</i> 属線虫の乾燥耐性
奥村悦子、田中龍聖、吉賀豊司	第 54 回 日本応用動物昆虫学会大会	<i>Caenorhabditis japonica</i> の宿主特異性
中島皓子、穴井豊昭	第 4 回九州育種談話会	MDA 法によって増幅を行ったダイズ突然変異体ライブラリーを鑄型とした TILLING 法による変異の検出
浅田真央、穴井豊昭	第 4 回九州育種談話会	ダイズ種子イソフラボン含量の改変を目指した UDP-グルコース:イソフラボン 7-O-グルコシルトランスフェラーゼ突然変異体のスクリーニング
中島皓子、穴井豊昭	育種学研究	MDA 法によって増幅を行ったダイズ突然変異体ライブラリーを鑄型とした TILLING 法による変異の検出
穴井豊昭、星野友紀	育種学研究	TILLING 法による超高オレイン酸ダイズ突然変異系統の開発
星野友紀、穴井豊昭	育種学研究	TILLING 法によるダイズ突然変異体ライブラリーからの GmFAD3-2a 変異体の単離
渡辺啓史、夏正俊、秀島瑠満子、坪倉康隆、佐藤修正、山中直樹、加賀秋人、片寄裕一、田畑哲之、穴井豊昭、原田久也	育種学研究	ダイズ開花期関連遺伝子座 FT2 のマップベースクローニング
降幡駿介、早川洋一	日本応用動物昆虫学会	寄生蜂 <i>Ajaponica</i> の毒液が宿主シヨウジョウバエに及ぼす致死作用
Kotaro Tatemoto, Tsugio Kitamura	The 1st Saga University-Liaoning University Joint Seminar	Formation of Alkenylcoumarins by Pd(OAc) ₂ (dppe)-Catalyzed Reaction of Ethyl Propiolate with Phenols
Fumiaki Shito, Md. Ataur Rahman, Tsugio Kitamura	The 1st Saga University-Liaoning University Joint Seminar	A Convenient Synthesis of Polyiodoarenes
Soichi Kobayashi, Tsugio Kitamura	The 1st Saga University-Liaoning University Joint Seminar	A Direct Functionalization of Polystyrene by Pd-Catalyzed Coupling Reaction with Acrylates
北村二雄、Md. Delwar Hossain、井手康博	第4回佐賀環境フォーラム・佐賀大学研究プロジェクト合同講演会	稲わら・麦わらの主成分セルロースを化学的に有用物質へ変換できないか？
北村二雄、Md. Delwar Hossain	第 12 回連携大学院産学官交流セミナー	機能性セルロース合成の研究
Tsugio Kitamura, Juzo Oyamada, Kotaro Tatemoto	The 11th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry	Pd-Catalyzed Reaction of Ethyl Propiolate: Hydroarylation vs. Arylbutadiene Formation
Md. Ataur Rahman、紫藤史亨、北村二雄	第 36 回有機典型元素化学討論会	ヨウ素分子を用いるペルヨードアレーンの合成
Tsugio Kitamura, Juzo Oyamada, Kotaro Tatemoto	The 11th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry	Arylbutadiene Formation in Pd-Catalyzed Hydroarylation of Ethyl Propiolate

堀 勇治、北村二雄	第2回臭素化学懇話会発表会	DBU-BrCCl ₃ 反応剤を用いる臭素化合物の合成
Md. Ataur Rahman、北村二雄	第 12 回ヨウ素学会シンポジウム	超原子価ヨウ素とヨウ素分子を用いるアルキンのヨードアリール化反応
橋本拓也、泉 隆行、北村二雄	第 56 回有機金属化学討論会	鉄触媒存在下アルキンと芳香族化合物の反応
井手康博、北村二雄	第 46 回化学関連支部合同九州大会	ヨウ素触媒によるシクロデキストリンの簡便アシル化反応
橋本拓也、北村二雄	第 46 回化学関連支部合同九州大会	鉄触媒を用いるプロピオール酸のヒドロアリール化反応
堀 勇治、北村二雄	第 46 回化学関連支部合同九州大会	DBU-BrCCl ₃ 反応剤による活性水素の臭素化反応
Md. Ataur Rahman、北村二雄	第 46 回化学関連支部合同九州大会	Iodoarylation of Alkynes with Molecular Iodine Promoted by Hypervalent Iodine Reagents
立本耕太郎、北村二雄	第 46 回化学関連支部合同九州大会	パラジウム触媒によるプロピオール酸類とフェノールの反応におけるアルケニルクマリンの生成
紫藤史亨、北村二雄	第 46 回化学関連支部合同九州大会	ベルオキシニ硫酸カリウム/ヨウ素反応剤を用いる芳香族化合物のポリヨウ素化反応
泉隆行、北村二雄	第 46 回化学関連支部合同九州大会	鉄触媒を用いるプロピオール酸エステルのヒドロアリール化反応
吉田悠治、北村二雄	第 46 回化学関連支部合同九州大会	パラジウム触媒によるヒドロアリール化反応を利用するクマリン誘導体の合成
小林壮一、北村二雄	第 46 回化学関連支部合同九州大会	パラジウム触媒によるアクリル酸エステルとのカップリング反応を用いるポリスチレンの直接アルケニル化反応
長田聰史、高畠亮、青木梨恵、大庭英樹	第 12 回連携大学院産学官交流セミナー	Photo-methionine を利用した生理活性ペプチド
新町洋文、杉山大輔、長田聰史、藤田一郎、浜崎雄平、兒玉浩明	日本化学会西日本大会 2009	生体防御ペプチド LL-37 関連ペプチドの合成と生物活性
栗山友希、菅虎雄、長田聰史、兒玉浩明	日本化学会西日本大会 2009	イオンチャンネルペプチド Cervinin 類の構造活性相関
平河雄喜、杉山大輔、長田聰史、藤田一郎、浜崎雄平、兒玉浩明	日本化学会西日本大会 2009	FPR アンタゴニストダイマーの生物活性における鎖長依存性
T. Suga, J. Taira, S. Osada, and H. Kodama		Amino Acid Sequence Dependence of Ion Channel Activity by Cyclic Tetrapeptides
D. Sugiyama, Y. Hirakawa, H. Shinmachi, S. Osada, I. Fujita, Y. Hamasaki, and H. Kodama		Receptor Subtype Selectivity of Dimeric Chemotactic Antagonists
S. Osada, R. Takabatake, D. Sugiyama, Y. Hamasaki, I. Fujita, and H. Kodama		Methionine Analogues with the γ -Carbon and Sulfur Atoms Replaced by a Fluoroalkene Unit
菅虎雄、長田聰史、兒玉浩明	2009 年度日本農芸化学会 3 支部合同大会	環状ペプチド性イオンチャンネルの小分子透過への応用
菅虎雄、長田聰史、兒玉浩明	第 82 回日本生化学会大会	環状テトラペプチドが形成するナノチューブバンドル型イオンチャンネルの大型分子透過への応用
高畠亮、長田聰史、兒玉浩明	第 33 回フッ素化学討論会	含フッ素メチオニンメチキスの合成と走化性 N-ホルミルメチオニンペプチドアナログの生理活性
高畠亮、長田聰史、兒玉浩明	第 46 回化学関連支部合同九州大会	フルオロアルケンを有するメチオニンミミックの合成
新町洋文、杉山大輔、長田聰史、藤田一郎、浜崎雄平、兒玉浩明	第 46 回化学関連支部合同九州大会	非ホルミルペプチド性活性因子の合成と好中球遊走活性
栗山友希、菅虎雄、伊藤純子、長田聰史、兒玉浩明	第 46 回化学関連支部合同九州大会	短鎖ペプタイポール類の合成とイオンチャンネル活性
平河雄喜、杉山大輔、長田聰史、藤田一郎、浜崎雄平、兒玉浩明	第 46 回化学関連支部合同九州大会	高活性二量化アンタゴニストの受容体選択性
菅虎雄、平順一、長田聰史、兒玉浩明	第 46 回化学関連支部合同九州大会	ナノチューブバンドル構造を形成する環状ペプチド性イオンチャンネルの解析
斉藤聖、佐藤桃子、長田聰史、兒玉浩明	第 46 回化学関連支部合同九州大会	チオールミミックとしてジフルオロメチレン基を側鎖に有するアミノ酸の系統的合成
杉山大輔、平河雄喜、長田聰史、藤田一郎、浜崎雄平、兒玉浩明	第 46 回化学関連支部合同九州大会	二量化アンタゴニストの合成とその作用様式
佐藤桃子、新町洋文、杉山大輔、兒玉浩明、藤田一郎、浜崎雄平、長田聰史	日本ケミカルバイオロジー学会第 4 回年会	メチオニン修飾 fMLP アナログの合成と生理活性

杉山大輔, 小内美佳, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	日本ケミカルバイオロジー学会第4回年会	海洋海綿 Hymenamide 類の好中球活性化に関する研究
菅虎雄, 平順一, 長田聰史, 兒玉浩明	平成21年度日本生化学会九州支部例会	脂質膜中でイオンチャンネルを形成する環状ペプチドの合成と活性評価
下村拓也, 高椋利幸	J-PARC/MLF 利用者懇談会液体・非晶質材料分科会ユーザーズグループミーティング	SANS 法による非水溶媒中におけるイミダゾリウム系イオン液体の会合体形成
高椋利幸	佐賀大学理工学部・高エネルギー加速器研究機構共同講演会 J-PARC への招待	中性子で解明する化学
高椋利幸	ミニ研究会「溶媒和の物理と化学」	フッ化アルコール水溶液がつくる溶媒と環境と相分離現象
高椋利幸, 下村拓也, 和田 浩, 神崎 亮	中性子科学会第9回年会	アミド分子の溶媒和が誘起する HFIP-水混合溶液の相分離
高椋利幸, 教正院康裕, 下村拓也, 橋高茂治, 山口敏男	第32回溶液化学シンポジウム	イミダゾリウム系イオン液体の構造に及ぼす水の効果
下村拓也, 高椋利幸, 山口敏男		ベンゼン中におけるイオン液体 C12mimTfSA の会合体形成
下村拓也, 和田 浩, 立川真衣, 高椋利幸	第46回化学関連支部合同九州大会	HFIP-水混合溶液のナノ不均一性とアミド誘起による相分離
T. Takamuku, T. Shimomura, H. Wada, M. Tachikawa, M. Tobiishi, and R. Kanzaki	EMLG/JMLG Annual Meeting	Amide-Induced Phase Separation of HFIP-Water Mixtures
K. Fujii, S. Ishiguro, T. Takamuku, and Y. Umabayashi	3rd International Congress on Ionic Liquids	Long-range Anion-Anion Correlation in 1-Alkyl-3-methylimidazolium Ionic Liquids Studied by Small-angle Neutron Scattering and MD Simulations
井上侑子, 矢田光徳, 鳥飼紀雄, 渡孝則, 野田岩男, 佛淵孝男	第32回日本骨・関節感染症学会	チタン酸ナトリウムナノファイバー薄膜の抗菌性評価
井上侑子, 矢田光徳, 鳥飼紀雄, 渡孝則, 野田岩男, 佛淵孝男	九州大学応用力学研究所・佐賀大学整形外科合同研究会 人工関節のバイオメカニクスとバイオマテリアル 講演資料集	チタン酸ナトリウムナノファイバー薄膜の抗菌性評価
井上侑子, 行徳聡人, 鳥飼紀雄, 渡孝則, 野田岩男, 佛淵孝男, 矢田光徳	第46回化学関連支部合同九州大会外国人研究者交流国際シンポジウム講演予稿集	銀-チタン酸銀ナノ複合体薄膜のアパタイト形成能
深川翔太, 井上侑子, 鳥飼紀雄, 渡孝則, 野田岩男, 佛淵孝男, 矢田光徳	第46回化学関連支部合同九州大会外国人研究者交流国際シンポジウム講演予稿集	水熱転写法による種々の基材上へのチタン酸ナトリウムナノ構造体薄膜の形成
井上侑子, 嶋田昌平, 鳥飼紀雄, 渡孝則, 矢田光徳	2009年日本化学会西日本大会講演要旨集	コバルト化合物ナノワイヤーの合成
G.Park, H.Nakamura, Y-S.Lee, M.Yoshio,	216th Meeting of the Electrochemical Society, Abstract No.439 (2009)	The investigation of electrochemical properties of graphite positive electrode graphite/metal oxides energy storage system
丸山洋史, 土井口学, 磯野健一, 野口英行, 芳尾真幸, 中村博吉	第46回化学関連支部合同九州大会	新規キャパシタに及ぼす電解液の影響
井上大誠, 吉田心, 磯野健一, 野口英行, 芳尾真幸, 中村博吉	第46回化学関連支部合同九州大会	塩基性炭酸塩による Li-Mn-Ni-Co 系酸化物の合成と電池特性
円能寺翔太, 宮崎啓, 野口英行, 中村博吉, 磯野健一	第46回化学関連支部合同九州大会	Li-Co-Mn-Ti-O 系正極材料の合成とその電池特性
田中理弘, 大賀涼太, 野口英行, 中村博吉, 磯野健一	第46回化学関連支部合同九州大会	遷移金属含有酸化チタンのリチウム電池負極特性
野口英行, 中村博吉, 吉田心, 井上大誠	第50回電池討論会	Li ₂ MnO ₃ ベース正極材料の充放電電圧と電池特性
グナワルダナ ナンダ, 朴金載, 中村博吉, 石原達巳, 芳尾真幸	第50回電池討論会	LIB 用黒鉛負極への金属 Li の析出:(1)低温での充電状態の各種黒鉛極の形態と XRD 同定
朴金載, グナワルダナ ナンダ, 中村博吉, 石原達巳, ニコライ デイモフ, 芳尾真幸	第50回電池討論会	LIB 用黒鉛負極への金属 Li の析出:(2)低温における電気化学測定
杉田勝, 中村博吉, 芳尾真幸, 山邊時雄	第50回電池討論会	リチウムイオン電池電極材料の機能性(ポリフェン系炭素)

中村博吉、丸山洋史、朴金載、芳尾真幸	電気化学会第 77 回大会	正極にグラファイト負極に金属酸化物を用いたハイブリッドキャパシタ
中村博吉、井上大誠、田邊浩嵩、野口英行	電気化学会第 77 回大会	xMn2O3-(1-x)LiMO2 高容量正極材料の電気化学特性
朴金載、グナワルダナ ナンダ、中村博吉、芳尾真幸	電気化学会第 77 回大会	グラファイト/金属酸化物セルの電気化学特性
淵田直樹、有田沙織、本島浩之、渡邊啓一	日本農芸化学会大会	Subtilisin Carlsberg の P209A 変異により基質結合ループの柔軟性が変化する
Md Ablu Kashem TANG, Hiroyuki MOTOSHIMA, Keiichi WATANABE		Fluorescence studies on the flexibility and substrate-induced conformational changes of the psychrophilic and mesophilic acetate kinases
淵田直樹、熊井洋平、有田沙織、本島浩之、西本悦子、渡邊啓一	第 82 回 日本生化学会大会	Subtilisin Carlsberg の P209G 変異が β 8-9 間ターンの局所的揺らぎに及ぼす影響のトリプトファン蛍光解析
山口真須美、加藤田麻衣、松林阿希奈、本島浩之、渡邊啓一	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	南極産好冷細菌 <i>Pseudoalteromonas</i> sp. AS-131 由来グルコース 6-リン酸デヒドロゲナーゼの機能解析
淵田直樹、熊井洋平、有田沙織、本島浩之、西本悦子、渡邊啓一	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	Subtilisin Carlsberg の P209G 変異が β 8-9 間ターンの局所的揺らぎに及ぼす影響の定常状態及び高速時間分割トリプトファン蛍光解析
有田沙織、淵田直樹、本島浩之、渡邊啓一	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	Subtilisin Carlsberg における β 8-9 間の構造の柔軟性と活性や熱安定性の関係の変異体解析
中山 智彦、小川 温子、本島 浩之、渡邊 啓一	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	南極産好冷細菌由来 <i>Pseudoalteromonas</i> sp. AS-131 由来グルコキナーゼの性質
Masumi YAMAGUCHI, Mai KATOUDA, Akina MATSUBAYASHI, Hiroyuki MOTOSHIMA and Keiichi WATANABE	1st-Yellow Sea Rim Liaison Lectures & Meeting on Life & Food Science	Purification and characterization of glucose 6-phosphate dehydrogenase from an Antarctic psychrotroph <i>Pseudoalteromonas</i> sp. AS-131
Md. Abul Kashem TANG, Hiroyuki MOTOSHIMA, and Keiichi WATANABE	1st-Yellow Sea Rim Liaison Lectures & Meeting on Life & Food Science	Acetate kinase from psychrotrophic <i>Shewanella</i> species is more flexible than that from mesophilic <i>Escherichia coli</i>
Tomohiko NAKAYAMA, Atsuko OGAWA, Hiroyuki MOTOSHIMA and Keiichi WATANABE	1st-Yellow Sea Rim Liaison Lectures & Meeting on Life & Food Science	Structural and Functional characterization of Glucokinase from <i>Escherichia coli</i> K-12 and psychrotrophic <i>Pseudoalteromonas</i> sp. AS-131
Naoki FUCHITA, Youhei KUMAIb, Saori ARITAb, Hiroyuki MOTOSHIMA, Etsuko NISHIMOTO and Keiichi WATANABE	1st-Yellow Sea Rim Liaison Lectures & Meeting on Life & Food Science	Steady-state and time-resolved tryptophan fluorescence studies prove that P209G mutation enhances the local fluctuation of the turn between β 8-9 strands of subtilisin Carlsberg
Saori ARITA, Naoki FUCHITA, Hiroyuki MOTOSHIMA and Keiichi WATANABE	1st-Yellow Sea Rim Liaison Lectures & Meeting on Life & Food Science	Mutational evidence that flexibility of the turn between β 8-9 strands in subtilisins contributes to higher activity and thermolability
Md. Abul Kashem Tang, Hiroyuki Motoshima, Keiichi Watanabe		Fluorescence studies on fluctuation and stability of acetate kinases from <i>Escherichia coli</i> and psychrotrophic <i>Shewanella</i> species
三角かな恵、長野沙織、本島浩之、渡邊啓一	2009年度日本農芸化学会関西・中四国・西日本支部、日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部および日本食品科学工学会西日本支部合同沖縄大会	等温滴定カロリーメトリーによる低温細菌 <i>Pseudoalteromonas</i> sp. AS-131 と大腸菌由来ピルビン酸キナーゼのアロステリック調節因子リボース 5-リン酸との結合解析
淵田直樹、熊井洋平、近藤明香、有田沙織、本島浩之、渡邊啓一	日本蛋白質科学会年会	トリプトファン蛍光を用いた subtilisin Carlsberg の β 8-9 間ターンにおける局所的ゆらぎ解析のための W112F/Y208W/P209G 変異体
山口真須美、加藤田麻衣、本島浩之、渡邊啓一	日本蛋白質科学会年会	南極産好冷細菌 <i>Pseudoalteromonas</i> sp. AS-131 由来グルコース 6-リン酸デヒドロゲナーゼの低温に適応した性質
小川温子、中山智彦、本島浩之、渡邊啓一	日本生化学会九州支部例会	南極産好冷細菌 <i>Pseudoalteromonas</i> sp. AS-131 由来グルコキナーゼは熱安定性の高い低温適応酵素である
淵田直樹、有田沙織、本島浩之、渡邊 啓一	日本生化学会九州支部例会	Subtilisin Carlsberg の活性部位外に位置する β 8、9 ストランド間ターンの柔軟性を上げることによって、触媒活性が上昇する

杉山大輔, 平河雄喜, 新町洋文, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	第 46 回ペプチド討論会, 北九州国際会議場, 北九州市, 2009 年 11 月 4 - 6 日	二量化遊走アンタゴニストの受容体サブタイプ選択性
菅 虎雄, 平 順一, 長田聰史, 兒玉浩明	第 46 回ペプチド討論会, 北九州国際会議場, 北九州市, 2009 年 11 月 4 - 6 日	環状テトラペプチドが形成するイオンチャネル活性におけるアミノ酸配列依存性
長田聰史, 高畠 亮, 杉山大輔, 浜崎雄平, 藤田一郎, 兒玉浩明	第 46 回ペプチド討論会, 北九州国際会議場, 北九州市, 2009 年 11 月 4 - 6 日	γ 炭素とイオウ原子をフルオロアルケンユニットで置換したメチオニンアナログ
菅虎雄, 長田聰史, 兒玉浩明	日本食品科学工学会西日本支部合同大会, 2009 年 10 月 30-31 日, 琉球大学千原キャンパス	環状ペプチド性イオンチャネルの小分子透過への応用
菅 虎雄, 長田聰史, 兒玉浩明	第 82 回日本生化学会大会, 2009 年 10 月 21-24 日, 神戸ポートアイランド	環状テトラペプチドが形成するナノチューブバンドル型イオンチャネルの大型分子透過への応用
新町洋文, 杉山大輔, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	第 46 回化学関連支部合同九州大会, 北九州国際会議場, 北九州市, 平成 20 年 7 月 5 日	非ホルミルペプチド性活性因子の合成と好中球遊走活性
栗山友希, 菅虎雄, 伊東純子, 長田聰史, 兒玉浩明	第 46 回化学関連支部合同九州大会, 北九州国際会議場, 北九州市, 平成 20 年 7 月 5 日 第 46 回化学関連支部合同九州大会, 北九州国際会議場, 北九州市, 平成 20 年 7 月 5 日	短鎖ペプチド類の合成とイオンチャネル活性
菅虎雄, 平順一, 長田聰史, 兒玉浩明	第 46 回化学関連支部合同九州大会, 北九州国際会議場, 北九州市, 平成 20 年 7 月 5 日	ナノチューブバンドル構造を形成する環状ペプチド性イオンチャネルの解析
杉山大輔, 平河雄喜, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	第 46 回化学関連支部合同九州大会, 北九州国際会議場, 北九州市, 平成 20 年 7 月 5 日	二量化アンタゴニストの合成とその作用様式
平河雄喜, 杉山大輔, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明		高活性二量化アンタゴニストの受容体選択性
佐藤桃子, 新町洋文, 杉山大輔, 兒玉浩明, 藤田一郎, 浜崎雄平, 長田聰史	日本ケミカルバイオロジー学会第 4 回年会, 神戸市産業振興センター, 神戸市, 平成 21 年 5 月 18 - 19 日	メチオニン修飾 fMLP アナログの合成と生理活性
杉山大輔, 小内美佳, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	日本ケミカルバイオロジー学会第 4 回年会, 神戸市産業振興センター, 神戸市, 平成 21 年 5 月 18 - 19 日	海洋海綿 Hymenamide 類の好中球活性化に関する研究
栗山友希・菅 虎雄・長田聰史・兒玉浩明	日本化学会西日本大会 2009, 愛媛大学城北キャンパス, 松山市, 平成 21 年 11 月 7 - 8 日	イオンチャネルペプチド cervinin 類の構造活性相関
平河雄喜, 杉山大輔, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	日本化学会西日本大会 2009, 愛媛大学城北キャンパス, 松山市, 平成 21 年 11 月 7 - 8 日	FPR アンタゴニストダイマーの生物活性における鎖長依存性
新町洋文, 杉山大輔, 長田聰史, 藤田一郎, 浜崎雄平, 兒玉浩明	日本化学会西日本大会 2009, 愛媛大学城北キャンパス, 松山市, 平成 21 年 11 月 7 - 8 日	生体防御ペプチド LL-37 関連ペプチドの合成と生物活性
花本猛士	産学連携に関する実践セミナー(佐賀大学開催)	機能性含フッ素化合物を旨とした新規ソールの開発

潮崎雅宏 花本猛士	第 19 回万有福岡シンポジウム	フルオロアセチレン化合物の合成と反応
花本猛士	住友化学株式会社農業化学製品研究所講演会	多重結合を有する含フッ素ビルディングブロックの合成と反応
花本猛士	株式会社ネオス中央研究所講演会	多重結合を有する含フッ素ビルディングブロックの合成と反応
花本猛士	フッ素化学第 155 委員会第 79 回研究会(東工大)	トリフルオロメチルエチニル 2 価チタン種の発生と反応
花本猛士	第 1 回佐賀大学技術シーズ説明会	多重結合を有する含フッ素ビルディングブロックの合成と反応
花本猛士	弘前大学講演会	多重結合を有する含フッ素ビルディングブロックの合成と反応
潮崎雅宏	第 21 回若手研究者のためのセミナー 講演 5	フルオロアセチレン化合物の合成と反応
青井和也 花本猛士	第 46 回化学関連支部合同九州大会 4_5.011	β -トリフルオロメチル- α -スタニルビニルスルフィドの反応
廣瀧謙亮 花本猛士	第 46 回化学関連支部合同九州大会	フルオロビニルシランの Mizoroki-Heck 反応 4_5.010
潮崎雅宏 花本猛士	第 33 回フッ素化学討論会 P-35	フルオロ(トリメチルシリル)アセチレンのハロゲン化反応
廣瀧謙亮 花本猛士	第 33 回フッ素化学討論会 P-35	(1-フルオロビニル)メチルジフェニルシランの Mizoroki-Heck 反応
Maeda Ryoko, Anno Ryoko, Yamada Kenji, Ryu Kousuke, Aoi Kazuya, Furuno Hiroshi, Takeshi Hanamoto	International Conference on Fluorine Chemistry '09 Kyoto P-46	β -Trifluoromethyl- α -functionalized-vinyl sulfides
Yamada Kenji, Hanamoto Takeshi	International Conference on Fluorine Chemistry '09 Kyoto P-37	Reaction of titanium(II)-(trifluoromethyl)silylacetylene complex with carbonyl compounds
Shiosaki Masahiro, Hanamoto Takeshi	International Conference on Fluorine Chemistry '09 Kyoto	Reaction of fluoroacetylene derivatives P-36
武藤さやか、厚山恵里、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年度大会	シロイヌナズナ LPS 結合タンパク質 2 (AtLBP2) の自然免疫における機能と抗菌活性の解析
野口千明、飯笹英一、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年年会	キチンとタンパク質の結合の簡易的な検出法
飯笹英一、光富勝、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年年会	LysM RLK1/CERK1 の生化学的解析
厚山恵里、武藤さやか、飯笹英一、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年年会	LPS はシロイヌナズナの生育阻害を誘導する
武藤さやか、厚山恵里、飯笹英一、永野幸生	第 51 回 日本植物生理学会 年会	植物の LPS 認識におけるシロイヌナズナ LPS 結合タンパク質 2 (AtLBP2) の機能解析と LPS 受容体探索法の提案
Eri Atsuyama, Sayaka Muto, Ei'ichi Iizasa and Yukio Nagano	The 4th Daegu University-Saga University Joint Symposium	A method to search for LPS receptor in Arabidopsis thaliana
Sayaka Muto, Eri Atsuyama, Ei'ichi Iizasa and Yukio Nagano	The Third Asian Symposium on Plant Lipids	Seedling Growth Inhibition Assay with Bacterial Lipopolysaccharide (LPS) will Be A New Approach for the Identification of LPS Receptor of Plants
武藤さやか、厚山恵里、飯笹英一、永野幸生	2009 年度日本農芸化学会西日本支部合同大会	グラム陰性菌由来リポ多糖はシロイヌナズナの生育を阻害する
飯笹英一、光富勝、永野幸生	2009 年度日本農芸化学会西日本支部合同大会	シロイヌナズナの受容体 LysM RLK1/CERK1 はキチンと直接結合する
武藤さやか、永野幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	シロイヌナズナ LPS 結合タンパク質 (AtLBP) は LPS に対する植物自然免疫に関わる
野口千明、飯笹英一、永野幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	植物受容体キナーゼの酵母における発現系の構築
飯笹英一、光富勝、永野幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	シロイヌナズナ受容体 LysM RLK1/CERK1 はキチンと直接結合する

厚山恵里、武藤さやか、飯笹英一、永野幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	シロイヌナズナにおける LPS 受容体探索法の構築
Ei'ichi Iizasa, Masaru Mitsutomi, and Yukio Nagano	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meetings on Life and Food Science 2009	Arabidopsis Receptor Kinase LysM RLK1/CERK1 directly binds chitin
Sayaka Muto, Eri Atsuyama, Ei'ichi Iizasa and Yukio Nagano	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meetings on Life and Food Science 2009	Bacterial lipopolysaccharide induces growth inhibition of <i>A. thaliana</i> seedling
Chiaki Noguchi, Ei'ichi Iizasa, Yukio Nagano	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meetings on Life and Food Science 2009	Yeast Expression system for plant receptor-like kinases and association between their expression levels and properties
野口千明、飯笹英一、永野幸生	平成 21 年度日本生化学会九州支部例会	酵母における植物受容体キナーゼの網羅的発現
Soejima H	18th Lake Shirakaba Conference	Regulation of imprinted domains, mouse Murr1/U2af1-rs1, Human KIP2/LIT1 and IGF2/H19.
Higashimoto K. Yada Y. Komori T. Matsuda M. Koseki Y. Nakayama M. Soejima H. Handa H. Koseki H. Hirose S. Nishioka K.	Cold Spring Harbor Meeting 2009 Mechanism of Eukaryotic Transcription	HISTONE METHYLATION BY MAMMALIAN ASH1L FACILITATES INDUCTION OF HOX GENES IN RESPONSE TO RETINOIC ACID, THEREBY CONTRIBUTES TO ACQUISITION OF PROPER IDENTITIES OF CERVICAL VERTEBRAE
Matsushita H, Ohta S, Shiraishi H, Izuhara K	Keystone symposia on molecular and cellular biology(Allergy and Asthma)	Inhibitory effects of TLR4 signals on allergic airway inflammation. Keystone symposia on Molecular and Cellular Biology.
Uchida M, Ohta S, Shiraishi H, Ohshima K, Okamoto M, Hoshino T, Aizawa H, Conway SJ, Izuhara K	Keystone symposia on molecular and cellular biology(Allergy and Asthma)	Periostin plays an important role in the pathogenesis of pulmonary fibrosis.
Yoshida H, Nakaya M, Yamasaki M and Hara H	The 9th Awaji International Forum on Infection and Immunity	Role of CARD9-mediated activation of innate immunity in anti-protozoan defense.
Yoshida H, Furukawa M and Takaishi H	Tri-Society annual Conference (International Society for Interferon and Cytokine Research	IL-27 abrogates RANKL-mediated osteoclastogenesis through STAT1-dependent inhibition of c-Fos. Conference)
Miyazaki Y, Nakashima H and Yoshida H	The 4th Asian Congress on Autoimmunity	The roles of Interleukin 27 in the Pathogenesis of Lupus Glomerulonephritis in MRL/lpr Mice
Yoshida H	The 5th RCI-JSI International Symposium on Immunology	Interleukin 27 signaling pathways in regulation of immune and autoimmune responses.
Yoshida H	The 4th Nagasaki Symposium on Tropical and Emerging Infectious Diseases	Regulation of defense responses against protozoan infection by interleukin-27.
Ichishima K, Yamamoto S, Ehara T	Biophysical Society 53rd annual meeting	The Regulation of Volume-Regulated Outwardly Rectifying Anion Channels by Membrane Phosphatidylinositides in Mouse Ventricular Cells.
Ichishima K, Yamamoto, Ehara T.	36th International Congress of Physiological Sciences (IUPS2009)	Regulation of volume-regulated outwardly rectifying anion channels by phosphatidylinositol 3,4,5-trisphosphate in mouse ventricular cells.
Shioya T, Morimoto S, Ehara T	36th International Congress of Physiological Sciences (IUPS2009)	Ionic mechanisms underlying the development of ventricular arrhythmias in dilated cardiomyopathy.
* Suzuki T, Nakazato Y, Murayama T, Shioya T, Sakurai T, Daida H, Morimoto S, Kurebayashi N	36th International Congress of Physiological Sciences (IUPS2009)	Electrical remodeling and arrhythmogenic activity in ventricles of dilated cardiomyopathy (DCM) model mice.
Aoyama T, Koga S, Fujita T, Takeda D, Kumamoto E, Nakatsuka T	Fukuoka Purine 2009 – International Symposium on Purinergic Signalling in New Strategy of Drug Discovery.	Excitation of spinal motoneurons by activation of synaptic purinergic receptors.
Aoyama T, Nakatsuka T, Kawasaki Y, Taniguchi W, Fujita T, Kumamoto E	The 36th International Congress of Physiological Sciences (IUPS2009) joining the 86th Annual Meeting of Physiological Society of	Pre- and postsynaptic excitatory transmission enhancement by purinergic receptor activation in rat spinal motoneurons.

	Japan.	
Fujita T, Liu T, Aoyama T, Nakatsuka T, Kumamoto E	The 36th International Congress of Physiological Sciences (IUPS2009) joining the 86th Annual Meeting of Physiological Society of Japan.	Activation of proteinase-activated receptor-1 enhances excitatory transmission in the rat spinal dorsal horn.
Fujita T, Yue H-Y, Aoyama T, Uemura S, Kumamoto E	Society for Neuroscience 39th Annual Meeting.	PAR-1 activation enhances spontaneous but not monosynaptically-evoked primary-afferent glutamatergic excitatory synaptic transmission in adult rat substantia gelatinosa neurons.
Inoue M, Fujita T, Yue H-Y, Piao L-H, Mizuta K, Tomohiro D, Aoyama T, Yasaka T, Kumamoto E	Society for Neuroscience 39th Annual Meeting.	Effect of eugenol on glutamatergic excitatory synaptic transmission in adult rat substantia gelatinosa neurons.
Jiang C-Y, Fujita T, Liu T, Yue H-Y, Piao L-H, Inoue M, Mizuta K, Nakatsuka T, Kumamoto E	The 36th International Congress of Physiological Sciences (IUPS2009) joining the 86th Annual Meeting of Physiological Society of Japan.	Enhancement by resiniferatoxin of glutamatergic excitatory transmission in adult rat substantia gelatinosa neurons.
Liu T, Fujita T, Yue H-Y, Piao L-H, Mizuta K, Aoyama T, Nakatsuka T, Kumamoto E	The 36th International Congress of Physiological Sciences (IUPS2009) joining the 86th Annual Meeting of Physiological Society of Japan.	Enhancement by melittin of each of GABAergic and glycinergic transmission in rat substantia gelatinosa neurons by a different mechanism.
Piao L-H, Fujita T, Jiang C-Y, Liu T, Yue H-Y, Inoue M, Uemura S, Nakatsuka T, Kumamoto E	The 36th International Congress of Physiological Sciences (IUPS2009) joining the 86th Annual Meeting of Physiological Society of Japan.	Activation of TRP channels by lidocaine in substantia gelatinosa neurons of the adult rat spinal cord.
Piao L-H, Fujita T, Jiang C-Y, Liu T, Yue H-Y, Mizuta K, Inoue M, Kumamoto E	Society for Neuroscience 39th Annual Meeting.	Activation by local anesthetics of TRPA1 channels in the adult rat substantia gelatinosa.
Taniguchi W, Nakatsuka T, Aoyama T, Kawasaki Y, Fujita T, Yoshida M, Kumamoto E	The 36th International Congress of Physiological Sciences (IUPS2009) joining the 86th Annual Meeting of Physiological Society of Japan.	In vivo patch-clamp analysis of the actions of dopamine on synaptic transmission in substantia gelatinosa neurons of the rat spinal cord.
Yue H-Y, Fujita T, Liu T, Nakatsuka T, Kumamoto E	The 36th International Congress of Physiological Sciences (IUPS2009) joining the 86th Annual Meeting of Physiological Society of Japan.	Pre- and postsynaptic effects of galanin on excitatory synaptic transmission in rat substantia gelatinosa neurons.
Yue H-Y, Fujita T, Piao L-H, Inoue M, Mizuta K, Masuko S, Kumamoto E	Society for Neuroscience 39th Annual Meeting.	Inhibition by galanin of monosynaptically-evoked glutamatergic excitatory synaptic transmission through primary-afferent fibers in adult rat spinal dorsal horn neurons.
Aoki S, Takezawa T, Uchihashi K, Sugihara H, Toda S.	The 9th World Congress on Inflammation. Tokyo	Non-skin mesenchymal cell types support epidermal regeneration in a mesenchymal stem cell or myofibroblast phenotype-independent manner.
Ando Y, Miyamoto H, Noda I, Shimazaki T, Yonekura Y, Miyazaki M, Mawatari M, Hotokebuchi T	International Society for Technology in Arthroplasty 2009	SUITABLE EVALUATION METHOD FOR IN VITRO ANTIBACTERIAL ACTIVITY OF BIOMATERIALS: 2ND REPORT
○Shimazaki T, Mawatari M, Miyamoto H, Ando Y, Noda I, Yonekura Y, Kawano S, Miyazaki M, Sonohata M, Hotokebuchi T	22nd Annual Congress of the International Society for Technology in Arthroplasty	In Vivo Ability of Novel Thermal Sprayed Antibacterial Coating To Sterize Methicillin-Resistant Staphylococcus Aureus
○Aragane N, Imai K, Komiya K, Sato A, Tomimasu R, Hisatomi T, Sakuragi T, Mitsuoka M, Hayashi S, Nakachi K and Sueoka E	9th Korea-Japan Symposium on Cancer and Aging Research	Mutation of EGFR exon 19 in relation to the CA-repeat polymorphism in intron 1 in Japanese lung cancer patients
Sueoka E, Aragane N, Sato A, Hideaki N, Keiko H, Hisatomi T and Tanimoto K	9th Korea-Japan Symposium on Cancer and Aging	Role of hypoxia inducible factor-1a in tumor development in mice and human diseases

	Research	
Komatsu A, Hirase T, Asaka M.	11th International Symposium on Mechanisms of Vasodilatation	Angiotensin II Stimulates Endothelial Cell Migration via SIRT2-mediated Deacetylation of α -tubulin
Nakayama K, Nitto T, Inoue T, Node K.	12th International Symposium on Mechanisms of Vasodilatation	Expression of the Cytochrome P450 Epoxygenase CYP2j2 in Human Monocytic Leukocytes
Asaka M, Node K.	American Heart Association Scientific Session 2009	Rab51-mediated Localization at Cell-cell Contacts of a Tight Junction Protein Claudin-1 is Regulated by Proteasome in Endothelial Cells.
Aiko Hashimoto Komatsu, Koichi Noe	American Heart Association Scientific Session 2009	Angiotensin II Stimulates Microtubule Reorganization Mediated by SIRT2 in Endothelial Cells
Komatsu A.	第 26 回国際心臓研究学会 ISHR	
Fujimoto K	Second Karuizawa Seminar	What regulates appetite, glucose or apo A-IV? "
Hiraki M, Kitajima Y, Mitsuno M, Nakamura J, Hashiguchi K, Sato S, Miyazaki K.	AACR 100th Annual Meeting 2009	The significance of aberrant methylation in lymph node of gastric cancer
Shimazaki, T; Miyamoto, H; Ando, Y; Noda, I; Yonekura, Y; Mawatari, M; Hotokebuchi, T	55th Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society	Monitoring Serum Silver Level in Rats Implanted Thermal Sprayed Silver-Containing Hydroxyapatite.
Yamashita, Y., Danjo, A., Kido, J., Goto, M	CLEFT2009 11th International congress on cleft lip and palate and related craniofacial anomalies	Basic research on bone graft to the alveolar cleft using human mesenchymal stem cell
Aragane N, Imai K, Komiya K, Sato A, Tomimasu R, Hisatomi T, Sakuragi T, Mitsuoka M, Hayashi S, Nakachi K and Sueoka E	9th Korea-Japan Symposium on Cancer and Aging Research	Mutation of EGFR exon 19 in relation to the CA-repeat polymorphism in intron 1 in Japanese lung cancer patients.
Hamajima H, Ozaki I, Iwane S, Takahashi H, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Matsuhashi S, Mizuta T, Fujimoto K	ILCA's Third Annual Conference	Modulation of transforming growth factor-beta1-induced Smad phosphorylation by extracellular matrix receptor beta1-integrin.
Ozaki I, Hamajima H, Iwane S, Xia J, Kawaguchi Y, Eguchi Y, Matsuhashi S, Mizuta T	AASLD 60th The Liver Meeting 2009.	Modulation of transforming growth factor- β 1-induced Smad phosphorylation by extracellular matrix receptor β 1-integrin leads to epithelial-to-mesenchymal transitions of hepatoma cells.
O Xia J, Matsuhashi S, Zhang H, Ide Y, Mizuta T, Fujimoto K, Ozaki I	BIT Life Sciences' 2nd Annual World Cancer Congress 2009	Involvement of PKC-activating NF-kB pathway inhibition in the hepatocellular carcinoma growth suppression by menatetrenone, a vitamin K2 analogue.
Kitajima S, Maeda T, Liu E, Nishijima K, Morimoto M and Watanabe T	3rd International Meeting on Rabbit Biotechnology	Technology suitable for rabbit semen conservation (招待講演)
*Koike T, Fan J, Yu Y, Kitajima S, Zhang, J, Bhakdi S, Chen EY	Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology Annual Conference 2009	Transgenic Rabbits Expressing human C-reactive Protein
*Koike, T., Yu, Y., Kitajima, S., Zhang, J., Bhakdi, S., Chen, E.Y. and Fan, J.	3rd International Meeting on Rabbit Biotechnology	Transgenic rabbits expressing human C-reactive protein
*Morimoto, M., Kitajima, S., Nishijima, K., Koike, T. and Fan, J.	3rd International Meeting on Rabbit Biotechnology	Immunoreactivity of neuropeptides in hypothalamus of the transgenic rabbits using immunohistochemical staining
O Hisatomi T, Tomimasu R, Aragane N, Sato A, Komiya K, Sueoka E.	American Association for Cancer Research Annual Meeting 2009	DNA-PK is a new therapeutic target for adult T cell leukemia/lymphoma.
Komiya K, Aragane N, Satoh A, Tomimasu R, Hisatomi T, Hayashi S, Tsuneoka M, Sueoka E	American Association for Cancer Research Annual Meeting 2009	Mina53, a new candidate gene in lung carcinogenesis, exhibited oncogenic potential and induced expression of EGF receptor and HGF genes.
Komiya K, Aragane N, Satoh A, Tomimasu R, Hisatomi T, Hayashi S, Tsuneoka M, Sueoka E	AACR 100th Annual Meeting 2009.	Myc target gene, mina53, a role in lung carcinogenesis.
OSeoka E, Aragane N, Sato A, Nakamura H, Hiyama K, Hisatomi T and Tanimoto K	9th Korea-Japan Symposium on Cancer and Aging Research	Role of hypoxia inducible factor-1 α in tumor development in mice and human diseases

Matsushashi S	BIT Life Sciences' 2 nd Annual World Cancer Congress 2009	Role of PKC-isoforms in the regulation of the tumor suppressor PDCD4 in human hepatocellular carcinoma cells
*Nakano T., Salem A. M. H., Terato H., Pack S.-P., Makino K. and Ide H.	36th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry, Takayama, Japan,	Comparison of the activities of bacteria and mammalian nucleotide excision repair systems for DNA-protein crosslinks.
*矢田有加里、小森敏治、中山学、半田宏、古関明彦、広瀬進、西岡憲一	特定領域・遺伝情報デコード冬のワークショップ	マウス ASH1L ヒストンメチル化酵素による HOX 遺伝子群発現パターン制御メカニズム
*矢田有加里・小森敏治・松田正史・古関庸子・中山学・半田宏・古関明彦・広瀬進・西岡憲一	第3回 日本エビジェネティクス研究会年会	ASH1L ヒストンメチル化酵素の解析から導かれる転写制御の新規概念
*西久保敏也、田中一郎、八木ひとみ、東元健、副島英伸、高橋幸博	第32回日本小児遺伝学会学術集会	Beckwith-Wiedemann 症候群の遺伝子診断
*矢田有加里・小森敏治・松田正史・古関庸子・中山学・半田宏・古関明彦・広瀬進・西岡憲一	特定領域・遺伝情報デコード合同班会議	ASH1L によるヒストンのメチル化は HOX 遺伝子のレチノイン酸感受性を増大させる
東元 健、八木ひとみ、岡田純一郎、渡辺順子、副島英伸	日本人類遺伝学会・第54回大会	H19-DMR のメチル化インプリントは正常発生過程で変化しうる
東元 健、八木ひとみ、岡田純一郎、渡辺順子、副島英伸	第32回日本分子生物学会年会	H19-DMR のメチル化インプリントは正常発生過程で変化しうる
Higashimoto K. Yada Y. Komori T. Matsuda M. Koseki Y. Nakayama M. Soejima H. Handa H. Koseki H. Hirose S. Nishioka K.	第32回日本分子生物学会年会	HISTONE METHYLATION BY MAMMALIAN ASH1L FACILITATES INDUCTION OF HOX GENES IN RESPONSE TO RETINOIC ACID, THEREBY CONTRIBUTES TO ACQUISITION OF PROPER IDENTITIES OF CERVICAL VERTEBRAE
Masuoka M, Shiraishi H, Ohta S, Suzuki S, Sutoh H, Inagaki N, Furue M, Izuhara K	第39回日本免疫学会総会・学術集会	細胞外マトリックスタンパク質であるペリオスチンはアトピー性皮膚炎の病態形成において重要な役割を果たしている
Suzuki S, Ito T, Shiraishi H, Ohta S, Arima K, Garcia KC, Izuhara K	第39回日本免疫学会総会・学術集会	Distinct structural requirements for IL-4 and IL-13 binding to the shared IL-13 receptor facilitate cellular turning of cytokine responsiveness.
宮崎義之、童紅連、山崎雅則、原博満、吉田裕樹	第74回日本インターフェロン・サイトカイン学会	遅延型過敏反応の病態形成における EBV-induced gene 3 (EBI3) の役割
吉田裕樹 井川敬 中島衛	第74回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会	IL-27 EBI-3 サブユニットを欠損する MRL/lpr マウスにおける膜性腎炎の発症と Th2 型免疫反応への変移.
原博満 戸田修二 吉田裕樹	第39回日本免疫学会学術集会	EAE 誘導における CARD9 の役割.
山崎雅則 徳永蔵 原博満 吉田裕樹	第39回日本免疫学会学術集会	DSS 誘発実験性大腸炎誘導における CARD9 の役割.
中谷真子 原博満 吉田裕樹	第39回日本免疫学会学術集会	原虫感染に対する CARD9 を介した自然免疫機構の解明.
Nakaya M, Hara H and Yoshida H	第32回日本分子生物学会学術集会	原虫感染に対する CARD9 を介した自然免疫機構の解明.
白石裕士 吉田裕樹	第18回日本アポトーシス研究会学術集会	アポトーシスと非アポトーシス型細胞死~Apaf-1 欠損マウスを用いた解析から.
Yoshida H	第68回日本癌学会学術総会	Analyses of non-apoptotic cell death induced by growth factor withdrawal in Apaf1-deficient neural progenitor cells.
原博満 島ノ江洋平 宮崎義之 吉田裕樹	第78回日本寄生虫学会大会	CARD9 を介した自然免疫活性化経路の原虫感染防御における役割.
中牟田 亮一、相信 裕之、大石 祐司、岡美佳子、竹鼻 眞、高崎 洋三、安藤 祥司	第9回日本蛋白質科学会年会	水晶体のビーズフィラメントは filensin と phakinin のみから形成されるのか?
郷原 るみ、劉 眞、中島 謙一、高崎 洋三、安藤 祥司	第9回日本蛋白質科学会年会	中間径フィラメントを鋳型にしたシリカナノチューブの形成
○本田 裕子、久保 勇貴、小池 謙造、増子 貞彦、高崎 洋三、安藤 祥司	第9回日本蛋白質科学会年会	ヒトヘアケラチンの試験管内重合特性の解析
○本田 功、相信 裕之、中牟田 亮一、高崎 洋三、安藤 祥司、成田 貴行、大石 祐司	第58回高分子討論会	水晶体蛋白質のフィレンシンとファキニンが形成するフィラメントの形態
○本田 裕子、久保 勇貴、小池 謙造、増子 貞彦、高崎 洋三、安藤 祥司	第82回日本生化学会大会	ヘアケラチン蛋白質の中間径フィラメント形成機能の解析

郷原 るみ、Dian Liu、中島 謙一、高崎洋三、安藤 祥司	第 82 回日本生化学会大会	ビメンチン中間径フィラメントはシリカナノチューブ形成の鋳型として応用できる
Gohara R, Liu D, Nakashima K, Takasaki Y, Ando S	第 46 回ペプチド討論会	Vimentin intermediate filaments act as a template for silica nanotube preparation
井原秀之、岡田貴裕、伊東利津、谷口直之、池田義孝	第 82 回日本生化学会大会	FUT8 によるキトオリゴ糖のフコシル化と基質認識における非還元末端キトリオース構造の重要性
岡田貴裕、井原秀之、伊東利津、池田義孝	第 82 回日本生化学会大会	ABO blood group glycosyltransferase A 及び B による抗原分解反応の検討
本田裕子、久保勇貴、小池謙造、増子貞彦、高崎洋三、安藤祥司	第 9 回日本蛋白質科学会	ヒトヘアセラチンの試験管内重合特性の解析
本田裕子、久保勇貴、小池謙造、増子貞彦、高崎洋三、安藤祥司	第 82 回日本生化学会大会	ヘアセラチン蛋白質の中間径フィラメント形成機能の解析
○Kawano H, Li M-Z, Sherriff-Tadano R, Masuko S.	第 114 回日本解剖学会総会	Innervations on median preoptic neurons projecting to the paraventricular hypothalamic nucleus by subfornical organ nitric oxide neurons.
Li M-Z, Kawano H, Murata Y, Masuko S.	第 114 回日本解剖学会総会	The immunohistochemical prefile of the filum terminale in the rat.
Murata Y, Li M-Z, Masuko S.	第 114 回日本解剖学会総会	Transient expression of oxytocin receptors in the neonatal brain stem
Fujita T, Nakatsuka T, Kumamoto E	The 31st Annual Meeting of the Japanese Association for the Study of Pain.	Activation of PAR-1 by agonist peptides and proteinase enhances glutamate release in the rat spinal dorsal horn.
Fujita T, Yasaka T, Aoyama T, Inoue M, Uemura S, Kumamoto E	46th Japanese Peptide Symposium.	PAR-1 activation in the rat spinal dorsal horn enhances L-glutamate release from interneuron terminals.
Fujita T, Yue H-Y, Aoyama T, Kumamoto E	The 32nd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society.	Monosynaptically-evoked glutamatergic transmission though primary afferents is not enhanced by PAR-1 activation in the rat substantia gelatinosa.
Liu T, Fujita T, Yue H-Y, Piao L-H, Mizuta K, Yasaka T, Kumamoto E	46th Japanese Peptide Symposium.	Cellular mechanisms for the enhancement by bee venom melittin of GABAergic and glycinergic inhibitory synaptic transmission in adult rat spinal dorsal horn neurons.
中塚映政、谷口 亘、藤田亜美、熊本栄一	日本ペインクリニック学会第 43 回大会.	脊髄電気刺激による鎮痛機構の解明
Piao L-H, Fujita T, Jiang C-Y, Mizuta K, Yue H-Y, Inoue M, Kumamoto E	47th Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan.	Presynaptic activation by local anesthetics of TRPA1 channels in the rat spinal dorsal horn.
Piao L-H, Fujita T, Yue H-Y, Jiang C-Y, Inoue M, Kumamoto E	The 32nd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society.	Activation by local anesthetics of TRP channels in the adult rat spinal dorsal horn.
Piao L-H, Fujita T, Yue H-Y, Mizuta K, Inoue M, Nakatsuka T, Kumamoto E	The 31st Annual Meeting of the Japanese Association for the Study of Pain.	Activation by lidocaine of TRPA1 channels in the substantia gelatinosa of adult rat spinal cord.
Yue H-Y, Fujita T, Piao L-H, Aoyama T, Uemura S, Nakatsuka T, Kumamoto E	The 31st Annual Meeting of the Japanese Association for the Study of Pain.	Effect of galanin on excitatory and inhibitory synaptic transmission in substantia gelatinosa neurons of rat spinal cord slices.
Yue H-Y, Fujita T, Piao L-H, Mizuta K, Uemura S, Kumamoto E	The 32nd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society.	Galanin inhibits primary-afferent evoked glutamatergic excitatory transmission in rat substantia gelatinosa neurons.
高瀬ゆかり、甲斐敬太、徳永藏	第 98 回日本病理学会総会	肺小細胞癌における血管新生と CD105 発現の局在解析
○大塚隆生、甲斐敬太、北島吉彦、宮崎耕治	第 109 回 日本外科学会定期学術集会	分子生物学的解析に基づく神経内分泌腫瘍治療の新たな展開
○北島吉彦、橋口和義、甲斐敬太、平木将紹、中村淳、中房祐司、宮崎耕治	第 109 回 日本外科学会定期学術集会	Quantitative double fluorescence IHC(qDFIHC)による胃癌術前化学療法の S-1 感受性予測診断
○神谷尚彦、甲斐敬太、北原賢二、北島吉彦、宮崎耕治	第 109 回 日本外科学会定期学術集会	胆道癌における O6-Methylguanin-DNA Methyltransferase(MGMT)および hMLH1 発現と予後との検討
阿南真由美、内藤和芳、青木茂久、山崎文朗、米満伸久、杉原甫、戸田修二	第 82 回日本内分泌学会学術総会	脂肪組織は心筋細胞のアポトーシスを促進し、増殖・分化を抑制する
青木茂久	農業生物資源研究所公開シンポジウム	コラーゲンビトリゲルを用いた分化型皮膚シート移植システムの構築: その効果と他臓器への応用. 3次元培養担体として利用が進むコラーゲンビトリゲル(高密度コラーゲン線維の新素材)研究の現状と展望

青木茂久, 北島吉彦, 内橋和芳, 戸田修二	第 68 回日本癌学会総会	心、肺、肝、腎、脾臓及び胃癌由来の間葉系細胞は表皮再生を促進しうるか(Can non-skin mesenchymal cell types including cancer associated fibroblast support epidermal regeneration?)
青木茂久 竹澤俊明 松延亜紀 内橋和芳 杉原 甫 戸田修二	第 16 回肝細胞研究会	肝臓をはじめとした成熟臓器由来の間葉系細胞は、他の臓器の再生を促進しうるか
青木茂久, 竹澤俊明, 内橋和芳, 山崎峰子, 杉原甫, 戸田修二	第 98 回日本病理学会総会	心、肺、肝、腎、脾臓由来の間葉系細胞による表皮再生促進作用
蒲地紀之, 中島正洋, 青木茂久, 内橋和芳, 杉原甫, 戸田修二, 工藤祥	第 68 回日本医学放射線学会	放射線被曝線維芽細胞は扁平上皮癌細胞の遺伝子不安定性と浸潤性増殖を促進する
野小菜実絵, 青木茂久, 内橋和芳, 米満伸久, 杉原甫, 戸田修二	第 82 回日本内分泌学会学術総会	脂肪組織由来間葉系細胞は胃・腺癌細胞のアポトーシス・分化を抑制し、増殖・浸潤を促進する
野小菜実絵, 青木茂久, 内橋和芳, 米満信久, 杉原甫, 戸田修二	第 98 回日本病理学会総会	脂肪組織由来間葉系細胞が胃癌細胞のアポトーシス・増殖・分化・浸潤に及ぼす影響
野小菜実絵, 戸田修二, 藤本一真	第 51 回日本消化器病学会大会	脂肪組織由来間葉系細胞は胃・腺癌細胞のアポトーシス・分化を抑制し、増殖・浸潤を促進する
戸田修二, 青木茂久, 内橋和芳, 野小菜実絵, 山崎文朗, 渡辺恵子, 米満伸久, 山崎峰子, 杉原甫	第 98 回日本病理学会総会	皮下脂肪組織由来間葉系細胞はメラノーマ細胞のアポトーシスを抑制し、浸潤を促進する
内橋和芳, 青木茂久, 米満伸久, 杉原甫, 戸田修二	第 98 回日本病理学会総会	骨髄脂肪組織の 3 次元培養法の確立とその細胞動態およびアディポカイン発現の解析
内橋和芳, 小池英介, 米満伸久, 杉原甫, 戸田修二	第 82 回日本内分泌学会学術総会	脂肪組織片培養系における各種因子のレプチン、アディポネクチン、PPAR γ 発現に対する影響
○草場耕二、中島由佳理、於保 恵、永沢善三、福岡麻美、青木洋介	第 20 回日本臨床微生物学会総会	16S-rRNA 遺伝子および ITS 遺伝子の塩基配列を用いた菌種同定法の有用性
* 野田岩男、安藤嘉基、宮本比呂志、嶋崎貴文、米倉豊、宮崎真樹、馬渡正明、佛淵孝夫	第 32 回日本骨関節感染症学会	銀系抗菌性生体材料の開発：銀HA(第 4 報)
* 野田岩男、安藤嘉基、宮本比呂志、嶋崎貴文、米倉豊、宮崎真樹、馬渡正明、佛淵孝夫	第 36 回日本防菌防学会	次世代型抗菌性HAコーティング(第 2 報)
* 野田岩男、安藤嘉基、宮本比呂志、嶋崎貴文、米倉豊、宮崎真樹、馬渡正明、佛淵孝夫	第 24 回日本整形外科学会基礎学術集会	次世代型抗菌性HAコーティング(第 2 報)
* 李銀姫、久木田明子、久木田敏夫	第 27 回日本骨代謝学会	Nordihydroguaiaretic acid は破骨細胞の形成と骨吸収を抑制する
* 李銀姫、久木田明子、久木田敏夫	第 51 回歯科基礎医学会	Nordihydroguaiaretic acid による破骨細胞分化と機能の制御
佐野直人、中島由佳理、秋山兼範、永田正喜、草場耕二、永沢善三、宮本比呂志	第 22 回 臨床微生物迅速診断研究会総会	16SrRNA 遺伝子の塩基配列決定が菌種同定に有効であった <i>Moraxella catarrhalis</i> 菌血症の一例
○嶋崎貴文、米倉豊、安藤嘉基、宮本比呂志、野田岩男、馬渡正明、佛淵孝夫	第 24 回 日本整形外科基礎学術集会	銀系抗菌性生体材料の開発 ーラット背部皮下における抗菌性の定量化ー
松本明子, 大石浩隆, 松本茜子, 一瀬豊日, 小山倫浩, 川本俊弘, 市場正良	第 79 回日本衛生学会	不活性型アルデヒド脱水素酵素保持者で飲酒時の酸化ストレスが緩和される
小荒田秀一, 多田芳史, 末松梨絵, 井上久子, 大田明英, 長澤浩平	第 53 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第 18 回国際リウマチシンポジウム	SLE 由来自己抗体産生 RP105 陰性 B 細胞の BRRs の発現と機能解析
原英夫、朝倉邦彦、三原貴照、植田晃弘、武藤多津郎	第 50 回日本神経学会総会	抗 AQP4 抗体によるアストロサイト細胞株への作用解明
Hisatomi T, Tomimasu R, Aragane N, Sato A, Komiya K, Okamoto K, Sueoka S,	第 68 回日本癌学会	Inhibition of AKT/PKB pathway as a therapeutic target for adult T cell leukemia
*Kozu T, Tanaka Y, Asou S, Hisatomi T, Sueoka E	第 32 回日本分子生物学会	microRNA expression profiles of adult T-cell leukemia
Sueoka E, Aragane N, Sato A, Hideaki H, Keiko H, Hisatomi T and Tanimoto K	第 68 回日本癌学会	Constitutive expression of hypoxia-inducible factor-1 α induced tumor development in a transgenic mouse model
Sueoka E, Aragane N, Sato A, Ide M, Hiyama K, Tanimoto K	第 32 回日本分子生物学会	Tumor susceptibility induced by constitutive expression of hypoxia-inducible factor-1 α in a transgenic mouse model
Sueoka E, Aragane N, Sato A, Hideaki H, Keiko H, Hisatomi T and Tanimoto K	The 7th Annual Meeting for the Japanese Association	Tumor development in transgenic mice constitutively expressing hypoxia-inducible factor-1 α .

	for Cancer and Hypoxia Research	
Aiko Komatsu, Tetsuaki Hirase, Machiko Asaka, Koichi Node	日本循環器学会	Angiotensin II Stimulates Endothelial Cell Migration via SIRT2-mediated Deacetylation of α -tubulin
浅香真知子, 平瀬徹明, 小松愛子, 野出孝一	日本細胞生物学会	内皮細胞における細胞間接触部位でのタイトジャンクション蛋白質 Claudin-1 の Rab5a 介在性局在化はプロテアソームにより制御される(Rab5a-mediated Localization at Cell-cell Contact Sites of a Tight Junction Protein Claudin-1 Is Regulated by Proteasome in Endothelial Cells)(英語)
野本菜実絵, 戸田修二, 藤本一真	第95回日本消化器病学会総会	脂肪組織由来間葉系細胞は胃・膵癌細胞のアポトーシス・分化を抑制し、増殖・浸潤を促進する
大谷顕史, 藤本一真, Kuo K	第95回日本消化器病学会総会	消化器臓器における幹細胞研究の進歩: In vivo analysis of intestinal stem cells
白石良介, 藤瀬剛弘, 柿本隆志, 網田誠司, 岩切龍一, 藤本一真	5回日本消化管学会総会学術集会	高脂肪摂取ラットにおける抗酸化物質の大腸発癌に及ぼす影響
白石良介, 藤瀬剛弘, 網田誠司, 野田隆博, 岩切龍一, 藤本一真	第95回日本消化器病学会総会	牛脂長期摂取ラットにおける大腸発癌抑制効果の検討
白石良介, 岩切龍一, 藤本一真	第95回日本消化器病学会総会	大腸癌の予防: 脂肪長期摂取と大腸発癌、ラット発癌モデルでの検討
白石良介, 岩切龍一, 藤本一真	第51回日本消化器病学会大会	長期脂肪摂取後のラット大腸発癌: 共役脂肪酸投与や脂肪酸組成による予防効果
井上卓也, 大津正和, 三砂範幸, 成澤寛	第36回皮膚かたち研究学会学術大会	特異な臨牀病理所見を呈した seborrheic keratosis, clonal type の1例
増岡美穂, 出原賢治, 白石裕士, 成澤寛	第39回日本免疫学会総会・学術集会	細胞外マトリックスタンパク質であるペリオスチンはアトピー性皮膚炎の病態形成において重要な役割を果たしている
橋口和義, 北島吉彦, 光野真由美, 平木将紹, 中村淳, 神谷尚彦, 中房祐司, 宮崎耕治	第109回日本外科学会定期学術集会	胆道癌細胞株における Traniast の Gemcitabine 感受性増強作用
橋口和義, 北島吉彦, 平木将紹, 中村淳, 光野真由美, 宮崎耕治	第68回日本癌学会学術総会	Gemcitabine 耐性胆道癌細胞株における Traniast の Apoptosis 誘導機構についての検討
橋口和義, 北島吉彦, 平木将紹, 中村淳, 能城浩和, 宮崎耕治	第20回日本消化器癌発生学会総会	Gemcitabine 耐性胆道癌細胞株における Traniast の Apoptosis 誘導作用の検討
平木将紹, 北島吉彦, 橋口和義, 中村淳, 佐藤清治, 中房祐司, 宮崎耕治	第81回日本胃癌学会総会	胃癌所属リンパ節の DNA メチル化診断の意義
平木将紹, 北島吉彦, 中村淳, 橋口和義, 隅健次, 中房祐司, 宮崎耕治	第68回日本癌学会学術総会	大腸癌組織の DNA メチル化と S1/CPT11 併用療法に対する抗癌剤感受性の検討
平木将紹, 北島吉彦, 中村淳, 橋口和義, 能城浩和, 宮崎耕治	第20回日本消化器癌発生学会総会	胃癌における腹腔洗浄液の DNA メチル化と腹膜播種予測に関する検討
北島吉彦, 橋口和義, 甲斐敬太, 平木将紹, 中村淳, 中房祐司, 宮崎耕治	第109回日本外科学会定期学術集会	Quantitative double fluorescence IHC(qDFIHC)による胃癌術前化学療法の S-1 感受性予測診断
中村淳, 北島吉彦, 甲斐敬太, 橋口和義, 平木将紹, 中房祐司, 宮崎耕治	第109回日本外科学会定期学術集会	低酸素誘導性因子(HIF)-1 α 発現は 5-FU 系薬剤による胃癌術後化学療法の効果予測因子となる
中村淳, 北島吉彦, 甲斐敬太, 橋口和義, 平木将紹, 宮崎耕治	第68回日本癌学会学術総会	HIF-1 α 発現は胃癌において 5-FU の効果予測因子となる
中村淳, 北島吉彦, 甲斐敬太, 橋口和義, 平木将紹, 能城浩和, 宮崎耕治	第20回日本消化器癌発生学会総会	胃癌における HIF-1 α の発現と 5-FU 抵抗性についての検討
米倉豊, 馬渡正明, 宮元比呂志, 嶋崎貴文, 安藤嘉基, 野田岩男, 佛淵孝夫	第39回日本人工関節学会	焼成水和ドロマイトの抗菌性について
野田岩男, 安藤嘉基②, 宮本比呂志②, 嶋崎貴文③, 嶋崎貴文④, 米倉豊④, 馬渡正明④, 佛淵孝夫④	第39回日本人工関節学会	銀含有ハイドロキシアパタイト溶射技術の開発 第3報-銀 HA 溶射被膜の骨接合能に対する銀の影響評価-
嶋崎貴文, 安藤嘉基, 米倉豊, 宮本比呂志, 野田岩男, 馬渡正明, 佛淵孝夫	第24回日本整形外科学会基礎学術集会	銀系抗菌性生体材料の開発 ラット背部皮下における抗菌性の定量化
*野田岩男, 安藤嘉基, 宮本比呂志, 嶋崎貴文, 米倉豊, 嶋崎真樹, 馬渡正明, 佛淵孝夫	第24回日本整形外科学会基礎学術集会	次世代型抗菌性 HA コーティング(第2報) 生体内環境下における銀イオンの抗菌作用に関する基礎的検討

嶋崎 貴文、佛淵 孝夫、安藤 嘉基、米倉 豊、宮本 比呂志、野田 岩男、馬渡 正明	第 24 回日本整形外科学会基礎学術集会	銀系抗菌生体材料の開発 ラット背部皮下における抗菌性の定量化
* 野口岩男、安藤 嘉基、宮本 比呂志、嶋崎 貴文、米倉 豊、宮崎 真樹、馬渡 正明、佛淵 孝夫	第 24 回日本整形外科学会基礎学術集会	次世代型抗菌性HAコーティング(第 2 報)生体内環境下における銀イオンの抗菌作用に関する基礎的検討
* 安藤 嘉基、宮本 比呂志、野田 岩男、嶋崎 貴文、米倉 豊、宮崎 真樹、馬渡 正明、佛淵 孝夫	第 24 回日本整形外科学会基礎学術集会	生体材料の評価に適した in vitro 抗菌試験方法の検討(第 2 報)
石川慎一郎、中林條、平田憲、岩切亮、下村由起子、沖波聡	第 113 回日本眼科学会総会	網膜虚血再灌流モデルラットにおける Bcl-2c 経路に対する siRNA による神経保護の 検討.
石川慎一郎、中林條、平田憲、岩切亮、下村由起子、沖波聡	第 20 回日本緑内障学会	網膜虚血再灌流モデルラットにおける Diablo に対する siRNA による神経保護効果の検討.
前田祥範、丸野暢彦、鳥飼亜利寿、雨森泰己、三溝慎次、中島幹夫	日本麻酔学会第 56 回学術集会	Silvestat sodium hydrate はブタ冠動脈平滑筋のカルシウム非依存収縮を選択的に抑制する
秋山兼範、福田和正、佐野直人、永田正喜、菖蒲池健夫、久木田明子、谷口初美、	第 82 回日本細菌学会総会	16SrRNA 遺伝子を用いた口腔細菌の網羅的検出についての検討
*牧野友祐、檀上敦、山座孝義、笈田花子、寺田善博、城戸瑞穂	第 51 回歯科基礎医学学会総会	シスタチン C 相互作用因子の解析
佐野直人、中島由佳理、秋山兼範、永田正喜、草場幸二、永沢善三、宮本比呂志	第 22 回 臨床微生物迅速診断研究会総会	16SrRNA 遺伝子の塩基配列決定が菌種同定に有効であった Moraxella catarrhalis 菌血症の一例
山下佳雄、秋山兼範、黒田好美、重松正仁、後藤昌昭	第 27 回 日本口腔腫瘍学会	腫瘍切除後の口腔内再建に用いた皮弁による口腔内細菌叢変化の検討
山下佳雄、秋山兼範、佐野直人、宮本比呂志、後藤昌昭	第 33 回 日本頭頸部癌学会	皮弁により再建した口腔内における唾液内細菌叢の変化—16SrRNA による口腔内細菌叢の網羅的解析—
山下佳雄、檀上 敦、重松正仁、野口信宏、後藤昌昭	第 33 回 日本口蓋裂学会	間葉系幹細胞を用いた顎裂骨移植のための基礎研究
Kawano H, Li M-Z, Sherriff-Tadano R, Masuko S	第 114 回日本解剖学会総会	Innervations on median preoptic neurons projecting to the paraventricular hypothalamic nucleus by subfornical organ nitric oxide neurons
○李 明子、河野 史、村田祐造、増子貞彦	第 114 回日本解剖学会総会	ラット脊髄終系におけるセロトニン神経線維連絡
○山本晶子、松永賢一郎、河野 史、河津博文、高崎洋三、安藤祥司	第 31 回日本分子生物学会年会／第 81 回日本生化学会大会 合同大会	プラナリア中間径フィラメント蛋白質による線維構造の形成
○浜島弘史、岩根紳治、夏京合、河口康典、江口有一郎、水田敏彦、藤本一眞、尾崎岩太、松橋幸子	第 32 回日本分子生物学会年会	がん抑制タンパク質 Programmed cell death 4(PCDC4)の PKC による調節
尾崎岩太、夏京合、浜島弘史、岩根紳治、松橋幸子、河口康典、江口有一郎、水田敏彦	第 45 回日本肝臓学会総会	肝癌細胞における Vitamin K2 による NF-κB 活性化抑制機序: Protein kinase C による調節
○夏京合、松橋幸子、Hao Zhang、岩根紳治、浜島弘史、水田敏彦、藤本一眞、尾崎岩太	第 32 回日本分子生物学会年会	Menatetrenone, a vitamin K2 analogue inhibits NF-κB activation via the inhibition of PKC activation in human hepatocellular carcinoma cells
漢那宗士、西島和俊、常吉梨沙、森本正敏、北嶋修司	第 43 回日本実験動物技術者協会総会	ウサギの血清分離方法の検討
北嶋修司、西島和俊、森本正敏、渡辺照男、範 江林	第 56 回日本実験動物学会総会	ウサギ採卵成績に影響を及ぼす要因の検討: 過去 5 年間の採卵成績の解析
*Koike, T., Kitajima, S., Yu, Y., Nishijima, K., Zhang, J., Ozaki, Y., Morimoto, M., Watanabe, T., Asada, Y., Chen, E., and Fan, J.	第 41 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 7 月 17-18 日	Transgenic rabbits expressing Human C-reactive protein
○Hisatomi T, Tomimasu R, Aragane N, Sato A, Okamoto K, Sueoka E	68th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association	Inhibition of AKT/PKB pathway as a therapeutic target for adult T cell leukemia.
○末岡 榮三朗、荒金 尚子、佐藤 明美、出 勝、檜山 佳子、谷本 圭司	第 32 回日本分子生物学会年会	Tumor susceptibility induced by constitutive expression of hypoxia-inducible factor-1a in a transgenic mouse model
○Sueoka E, Aragane N, Sato A, Nakamura H, Hiyama K, Ide M, Kimura S, Tanimoto K	The 7th Annual Meeting for the Japanese Association for	Tumor development in transgenic mice constitutively expressing hypoxia-inducible factor-1a

	Cancer and Hypoxia Research,日本癌学会シンポジウム共催	
○Sueoka E, Aragane N, Satoh A, Nakamura H, Hiyama K, Hisatomi T, Tanimoto K	68th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association	Constitutive expression of Hypoxia-inducible factor- α induced tumor development in a transgenic mouse
夏京合, 松橋幸子, Hao Zhang, 岩根紳治, 浜島弘史, 水田敏彦, 藤本一真, 尾崎岩太	第32回日本分子生物学会年会	Menatetrenone, a vitamin K2 analogue inhibits NF- κ B activation via the inhibition of PKC activation in human hepatocellular carcinoma cells
*Amir S., Nakano T., Takuwa M., Terato H., Yamamoto K., Yamada M., Nohmi T. and Ide H.	第52回日本放射線影響学会大会, 広島	Repair and damage tolerance mechanisms for DNA-protein crosslinks in Escherichia coli.
*井出博, 寺東宏明	第68回日本癌学会学術総会,	抗がん剤が誘発する DNA-タンパク質クロスリンク損傷の修復
*井出博, Amir Salem, 中野敏彰, 澤和美菜子, 寺東宏明, 山本和生, 山田雅巳, 能美健彦	日本環境変異原学会 第38回大会, 静岡	DNA-タンパク質クロスリンク損傷の修復および回避機構に関する遺伝学的研究
*中野敏彰, 増田 佑, 寺東宏明, 飯島健太, 田内広, 井出博	日本環境変異原学会 第38回大会, 静岡	, 哺乳類細胞における DNA-タンパク質クロスリンク損傷修復機構
島崎-徳山由佳, 平山亮一, 古澤佳也, 井出博, 寺東宏明	第52回日本放射線影響学会大会, 広島	重粒子線によるクラスターDNA 損傷の特徴
寺東宏明	第52回日本放射線影響学会大会, 広島	DNA 二本鎖切断は LET 増加に伴い増加するのか? 減少するのか? : (2) 減少するという立場からの考察
*渡邊立子, 平山亮一, 横谷明德, 寺東宏明, 鶴岡千鶴, 江口-笠井清美, 古澤佳也, 小林克己	第52回日本放射線影響学会大会, 広島	微視的線量分布からみた DNA 二本鎖切断の LET 依存性
○本田 裕子, 久保 勇貴, 小池 謙造, 増子 貞彦, 高崎 洋三, 安藤 祥司	平成21年度日本生化学会九州支部例会	ヒトヘアセラチンの試験管内重合特性の解析
中牟田 亮一, 田代 功, 相信 裕之, 大石祐司, 岡 美佳子, 竹鼻 真, 高崎 洋三, 安藤 祥司	平成21年度日本生化学会九州支部例会	水晶体ビーズフィラメントは filensin と phakinin のみから形成されるのか?
郷原 るみ, Liu Dian, 中島 謙一, 高崎洋三, 安藤 祥司	平成21年度日本生化学会九州支部例会	中間径フィラメントを鋳型にしたシリカナノチューブの形成
○本田 裕子, 久保 勇貴, 小池 謙造, 増子 貞彦, 高崎 洋三, 安藤 祥司	第46回化学関連支部合同九州大会	ヒトヘアセラチン組換え蛋白質の調製と試験管内重合特性
○田代 功, 相信 裕之, 中牟田 亮一, 高崎 洋三, 安藤 祥司, 成田 貴行, 大石祐司	第46回化学関連支部合同九州大会	水晶体蛋白質のフィレンシンとファキニンが形成するフィラメントの形態
本田裕子, 久保勇貴, 小池謙造, 増子貞彦, 高崎洋三, 安藤祥司	平成21年度日本生化学会九州支部例会	ヒトヘアセラチンの試験管内重合特性の解析
本田裕子, 久保勇貴, 小池謙造, 増子貞彦, 高崎洋三, 安藤祥司	第46回化学関連支部合同九州大会	ヒトヘアセラチン組換え蛋白質の調製と試験管内重合特性
* 山本信太郎, 市島久仁彦, 岩本隆宏, 額原嗣尚	第60回西日本生理学会	細胞容積調節性アニオンチャネルの PI3K による調節機構.
青山貴博, 古賀秀剛, 中塚映政, 藤田亜美, 八坂敏一, 熊本栄一	第60回西日本生理学会.	ラット脊髄前角ニューロンの興奮性シナプス伝達に及ぼす P2X および P2Y 活性化の効果
朴 蓮花, 藤田亜美, 岳 海源, 井上将成, 水田恒太郎, 八坂敏一, 熊本栄一	第60回西日本生理学会.	リドカインによるラット脊髄膠様質の TRPA1 活性化を介したグルタミン酸放出促進.
岳 海源, 藤田亜美, 朴 蓮花, 水田恒太郎, 八坂敏一, 熊本栄一	第60回西日本生理学会.	ガラニンラット脊髄膠様質ニューロンにおける後根刺激誘起の単シナプス性興奮性シナプス伝達を抑制する.
安藤嘉基, 宮本比呂志, 野田岩男, 嶋崎貴文, 米倉豊, 宮崎真樹, 馬渡正明, 佛淵孝夫	第62回日本細菌学会九州支部総会	新規抗菌性生体材料の開発
○山本晶子, 松永賢一郎, 河野 史, 河津博文, 高崎洋三, 安藤祥司	2008年日本化学会西日本大会	プラナリア中間径フィラメント蛋白質による線維構造の形成

寺東宏明	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	5-ホルミルウラシルDNAグリコシラーゼの基質認識特異性について
Yoshida H	平成 21 年度グローバル COE リエゾンラボ研究会	Interleukin 27 signaling pathways in regulation of immune and autoimmune responses.
吉田裕樹	第 10 回運動器科学研究会	IL-27 による免疫制御:Th1 分化誘導と炎症抑制の分子機構.
吉田裕樹	沖縄感染免疫シンポジウム 2009	感染制御におけるインターロイキン 27 の役割:Th1 誘導と炎症抑制.
* 呉林なごみ、西澤寛人、鈴木剛、塩谷孝夫	筋生理の集い	Ca ²⁺ と膜電位イメージングによる心筋の活動電位・興奮収縮連関・伝導の異常の判定.
塩谷孝夫	筋生理の集い	マウス心筋細胞単離の問題点とその解決:なぜ無カルシウム液で細胞傷害がおこるのか?
藤田亜美、中塚映政、熊本栄一	生理学研究所研究会「筋・骨格系と内臓の痛み研究会」.	成熟ラット脊髄膠様質における PAR-1 活性化は興奮性シナプス伝達を促進する.
熊本栄一、柳 涛、藤田亜美、岳 海源、朴 蓮花、水田恒太郎、青山貴博、八坂敏一	生理学研究所研究会「シナプス伝達概念指向型研究」.	ラット脊髄膠様質の GABA とグリシンによる抑制性シナプス伝達のメリチンによる異なった修飾.
熊本栄一、朴 蓮花、藤田亜美、蔣 昌宇、岳 海源、井上将成、水田恒太郎、青山貴博	第 5 回 TRP チャネル研究会.	局所麻酔薬によるラット脊髄後角の TRPA1 チャネルの活性化.
熊本栄一、岳 海源、藤田亜美、中塚映政	生理学研究所研究会「筋・骨格系と内臓の痛み研究会」.	ガラニンラット脊髄膠様質における興奮性シナプス伝達を濃度に依存して二相性に制御する.
熊本栄一、岳 海源、藤田亜美、朴 蓮花、青山貴博、井上将成、八坂敏一	生理学研究所研究会「痛みの病態生理と神経・分子機構」.	ラット脊髄後角の痛み伝達制御におけるガラニンの役割 - 興奮性および抑制性のシナプス伝達に対する作用.
中塚映政、谷口 亘、藤田亜美、熊本栄一	生理学研究所研究会「筋・骨格系と内臓の痛み研究会」.	パッチクランプ法を用いた脊髄電気刺激による鎮痛機構の解明.
中塚映政、谷口 亘、川崎康彦、青山貴博、藤田亜美、熊本栄一	第 31 回脊髄機能診断研究会.	パッチクランプ法を用いた脊髄電気刺激による鎮痛機構の解明.
朴 蓮花、藤田亜美、柳 涛、岳 海源、水田恒太郎、友廣大輔、中塚映政、熊本栄一	第 31 回脊髄機能診断研究会.	ラット脊髄後角における TRP チャネルのリドカインによる活性化.
尾崎岩太、浜島弘史、夏京合、岩根紳治、河口康典、江口有一郎、松橋幸子、水田敏彦	第 5 回広島肝臓プロジェクト研究センターシンポジウム	肝細胞癌におけるがん抑制遺伝子 PDCD4 の protein kinase C (PKC)による発現調節
尾崎岩太、夏京合、浜島弘史、岩根紳治、松橋幸子、河口康典、江口有一郎、水田敏彦	Vitamin K & Aging 研究会	Vitamin K2 の NF- κ B 抑制における Protein kinase C(PKC)の役割

受賞		
受賞者名	賞の名称	受賞の対象となった成果の概要
朴 蓮花	第 31 回日本疼痛学会優秀演題賞	成熟ラット脊髄膠様質における TRPA1 チャネルのリドカインによる活性化.
岳 海源	第 31 回日本疼痛学会優秀演題賞	ラット脊髄スライスの膠様質ニューロンにおける興奮性および抑制性のシナプス伝達に及ぼすガラニンの作用.
阿南真由美	第 82 回日本内分泌学会学術総会奨励賞	脂肪組織は心筋細胞のアポトーシスを促進し、増殖・分化を抑制する
阿南真由美	第 31 回心筋生検研究会 Young Investigator Award	脂肪組織は心筋細胞の脂肪酸輸送蛋白発現・脂肪化アポトーシスを促進し、増殖・分化を抑制する

外部資金			
代表者名	金額(千円)	資金の名称	研究課題
副島英伸	1,400	科学研究費補助金 基盤研究 C	siRNA ライブラリーを使ってゲノム刷り込みの調節分子を同定する

副島英伸	22,100	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業	ゲノム刷り込み疾患 Beckwith-Wiedemann 症候群の全国調査と 遺伝子解析に基づく診断基準の作成
副島英伸(分担)	2,750	厚生労働科学研究費補助金 成育医療研究委託事業	胎児・胎盤因子から見た子宮内胎児発育遅延の周産期管理法 の検討
副島英伸	880	中期計画実行経費 医学部 研究者育成支援事業	ES 細胞を使ってがん幹細胞を理解する
副島英伸	1,200	財団法人母子健康協会小児 医学研究助成	胎児期におけるゲノム刷り込み確立機構の解明ーゲノム刷り込 み疾患の理解のためにー
西岡憲一	19,500	科学技術振興機構戦略的創 造研究推進事業「さきがけ」	新規ポリコム群・トリソラックス群の探索
東元健	1,430	科学研究費補助金 若手研 究 B	エピジェネティック因子 MeCP2 による骨形成制御機構の解明
吉田裕樹	4,000	科学研究費補助金 特定領 域研究	新規免疫抑制性サイトカイン IL-27 による免疫制御機構の解明 と治療応用
吉田裕樹	6,500	科学研究費補助金 特定領 域研究	原虫感染時のサイトカインによる炎症誘導機構の解析とその制 御に関する研究
吉田裕樹	900	科学研究費補助金 挑戦的 萌芽研究	ループスエリテマトーデス発症における Th17 細胞集団の果た す役割とその制御機構
中村誠司	200	科学研究費補助金 基盤研 究 B	癌ペプチドを用いた口腔癌の早期診断法およびオーダーメイド 免疫療法の開発
吉田裕樹	2,000	共同研究費ペーリンガー	IL-27Ra(W SX-1)の自己免疫疾患治療を目的とした創薬への応 用
原博満	4,200	科学研究費補助金 基盤研 究 B	CARMA1 シグナルの制御機構と免疫恒常性維持における役割
原博満	4,300	科学研究費補助金 特定領 域研究	ITAM 受容体-CARD9 シグナルの自己免疫病における役割
原博満	3,000	武田科学振興財団 医学系 研究奨励継続助成(基礎)	ITAM 保有 Non-Toll like receptor を介する免疫反応の生理的役 割
宮崎義之	2,730	科学研究費補助金 若手研 究 B	IL-27 および関連サイトカインの炎症制御機能および治療応用 に関する研究
中谷真子	1,391	科学研究費補助金 若手研 究(スタートアップ)	感染時の制御性 T 細胞誘導に関わる新規サイトカインネットワ ークの解明とその治療応用
安藤祥司	880	中期計画実行経費 医学部 研究者育成支援事業	毛髪形成に働くケラチンの構造ー機能相関の解析
安藤祥司	1,000	企業との共同研究	毛包ケラチン蛋白質の構造と機能に関する研究
池田義孝(分担)	10,000	科学技術振興機構(JST) 戦略的創造研究推進事業 (CREST)	糖鎖の生物機能の解明と利用技術
池田義孝	880	中期計画実行経費 医学部 研究者育成支援事業	α 1.6 フコース転移酵素(FUT8)の逆反応を用いたコアフコース 構造の特異的検出法の開発
木本雅夫	1,300	科学研究費補助金 基盤研 究 C	刺激型抗 TLR 抗体を用いた免疫賦活作用と感染防御機序の 解明
熊本栄一	2,700	科学研究費補助金 基盤研 究 C	ラット脊髄後角における痛み伝達のガラニンによる二相性制御 の細胞レベル機序.
熊本栄一	880	中期計画実行経費 医学部 研究者育成支援事業(基礎 分野)	ラット脊髄後角の痛み伝達制御におけるプロテアーゼ受容体と ATP 受容体の協同効果.
藤田亜美	623	文部科学省研究費補助金の 応募申請にかかるインセン ティブ	ラット脊髄後角の痛み伝達制御におけるプロテアーゼ受容体と ATP 受容体の協同効果.
戸田修二	2,080	科学研究費補助金 基盤研 究 C	咽頭癌由来癌幹細胞の生存・増殖・分化・遊走における間質細 胞の役割とその制御機構
戸田修二	616	中期計画実行経費 医学部 研究者育成支援事業【基礎】	胃癌細胞の生存・増殖・遊走・浸潤における脂肪組織の役割と その制御機構の解明
青木茂久	1,000	中期計画実行経費 医学部 研究者育成支援事業【臨床】	硬化性腹膜炎惹起モデルの確立と発症機序の解明:新規予 防・治療法の開発を目指して
松延亜紀	384	中期計画実行経費 医学部 研究者育成支援事業【臨床】	内臓脂肪組織と皮下脂肪組織は、肝癌細胞に及ぼす影響が異 なるか?
久木田明子	2,080	科学研究費補助金 基盤研 究 C	実験的歯周炎における IL-27 受容体を介した骨破壊と炎症の 制御機構の解析
久木田明子(分担)	1,500	科学研究費補助金 基盤研 究 B	骨髄間葉系幹細胞を用いた骨破壊制御:組織幹細胞特異的表 面マーカーの開発とその応用

久木田明子(分担)	300	科学研究費 萌芽研究	膜ナノチューブによる前破骨細胞融合調節:融合制御分子細胞間流入と前破骨細胞の教育
宮本比呂志	880	中期計画実行経費 医学部 研究者育成支援事業【基礎】	生きているが人工培地で培養できない状態のレジオネラの病原性に関する研究
藤本一真	900	科学研究費補助金 基盤研究 C	摂食行動に関連する中枢神経系の小腸粘膜アポロシス・増殖に及ぼす影響
岩切龍一	1,100	科学研究費補助金 基盤研究 C	大腸発癌に対する各種脂質の影響及び修飾因子に関する検討
藤瀬剛弘	600	科学研究費補助金 若手研究 B	大腸粘膜陰窩・絨毛軸の恒常性に脂肪酸長期摂取が与える影響についての検討
佐藤勇司	1170	科学研究費補助金 若手研究 B	骨髄幹細胞(前駆脂肪細胞)の前立腺癌への影響:シグナル伝達の網羅的解析
魚住二郎	910	科学研究費補助金 基盤研究 C	尿管上皮の増殖, 構造・機能分化に与える脂肪組織の影響の解析および再生機構の解明
中島幹夫	500	科学研究費補助金 基盤研究 C	ビブリオ・バルニフィカス感染症
荒木和邦	800	科学研究費補助金 基盤研究 C	有明海における細菌感染防止のための抗体検査確立に関する研究(継続)
檀上敦	996	佐賀大学中期計画実行経費 医学部研究者育成支援事業	抜去歯と歯原性細胞を用いたハイブリッド骨補填剤の開発
北嶋修司	800	科学研究費補助金 基盤研究 C	新規遺伝子組換えウサギによるメタボリックシンドロームにおけるPPARの役割の解明
北嶋修司	1,500	厚労省科学研究費補助金 創薬基盤推進研究事業	急性冠症候群の疾患モデルウサギの開発及びバイオリソースの樹立
西島和俊	1,000	科学研究費補助金 若手研究 B	遺伝子改変ウサギを用いたアポリポ蛋白 CIIIの機能解析
西島和俊	1,430	科学研究費補助金 基盤研究 C	急性冠症候群克服の疾患特異的 MMPの探索-遺伝子改変ウサギを用いた研究
寺東宏明	800	中期計画実行経費 医学部 研究者育成支援事業	アルデヒド化合物の生体傷害におけるDNA-タンパク質クロスリンク損傷の関与の解明
副島英伸、八木ひとみ	880	研究者育成事業	ES細胞を使ってがん幹細胞を理解する
戸田修二、野本奈実絵、阿南真由美、山口健、川崎麻己	616	研究者育成事業	胃癌細胞の生存・増殖・遊走・浸潤における脂肪組織の役割とその制御機構の解明
市場正良、井上明子、上野裕之、藤井敦成	810	研究者育成事業	小児における室内空気汚染の健康影響
鄭文玉、池田義孝、井原秀之	880	研究者育成事業	$\alpha 1, 6$ フコース転移酵素(FUT8)の逆反応を用いたコアフコース構造の特異的検出法の開発
吉田裕樹、原博満、中谷真子、宮崎義之	880	研究者育成事業	新たな免疫制御機構の感染症、炎症性疾患、生活習慣病における役割の解明と治療応用
鳥飼亜利寿、前田祥範	988	研究者育成事業	狭心症に対する新規の機序による治療薬の研究開発
青木茂久	1,000	研究者育成事業	硬化性腹膜炎惹起モデルの確立と発症機序の解明:新規予防・治療法の開発を目指して
松延亜紀	384	研究者育成事業	内臓脂肪組織と皮下脂肪組織は、肝癌細胞に及ぼす影響が異なるか?
水田治男	595	研究者育成事業	遺伝性神経疾患の遺伝子診断体制の確立
柳田晃良	3,120	科学研究費補助金 基盤研究 C	脂質構造異性体の栄養生理機能に関する基礎的研究
川上竜巳	3,380	科学研究費補助金 若手研究 B	超好熱アーキアのL-プロリン脱水素酵素複合体の機能構造解析と電子伝達機構の解明
永尾晃治	3,380	科学研究費補助金 若手研究 B	脂肪組織由来メタボリックシンドローム疾患遺伝子の検索と食環境による発現制御
柳田晃良	1000	不二たん白質研究振興財団 研究助成	大豆タンパク質由来機能性ペプチドの検索
武藤さやか(永野幸生)	1,200	科学研究費補助金 特別研究員奨励費	グラム陰性菌由来リポ多糖に対する植物自然免疫の解明
飯笹英一(永野幸生)	900	科学研究費補助金 特別研究員奨励費	ロイシンリッチリピート受容体キナーゼとそのリガンドの相互作用機構の解明

武藤さやか(永野幸生)	266	連合農学研究科経費 若手研究者育成プログラム連大生研究活動支援	グラム陰性菌由来リポ多糖に対する植物自然免疫の解明
飯笹英一(永野幸生)	266	連合農学研究科経費 若手研究者育成プログラム連大生研究活動支援	植物における LysM 受容体様キナーゼ(LysM RLK)の機能解析
永野幸生	266	連合農学研究科経費 若手研究者育成プログラム連大生研究活動支援	簡便な葉緑体全ゲノムクローニング法の開発
矢田光徳	600	科学研究費補助金 若手研究 B	セラミックスナノチューブの合成・組織化と応用技術の開発
北村二雄	2,100	共同研究	新規キラル有機金属錯体触媒の開発に関する研究
中島謙一	1,300	科学研究費補助金 基盤研究 B	非対称トリブロック共重合体ミセルを鋳型とする中空無機ナノ粒子の合成と構造制御
中島謙一	500	共同研究	TiO ₂ の高電圧放電処理による水分散性向上試験
田端正明	500	科学研究費補助金 基盤研究 C	動的溶媒クラスターの流れ分離分析法の研究
淵田直樹	266	連合農学研究科経費 若手研究者育成プログラム連大生研究活動支援	結晶構造によるアルカリセリンプロテアーゼ subtilisin Carlsberg P209A 変異体の β 8-9 間ターン領域の柔軟性の上昇が活性部位構造に及ぼす影響の解析
Md. Abul Kashem Tang	266	連合農学研究科経費 若手研究者育成プログラム連大生研究活動支援	Fluorescence studies on fluctuation and conformational changes of acetate kinases from mesophilic <i>Escherichia coli</i> K-12 and Psychrotrophic <i>Shewanella</i> sp. AS-11
Ginting Elvy Like	266	連合農学研究科経費 若手研究者育成プログラム連大生研究活動支援	Structure and function of inorganic pyrophosphatase from Antarctic psychrotroph <i>Shewanella</i> , sp AS-11
中村博吉	900	委託経理金 電気化学工業(株)	リチウムイオン電池電極導電剤に関する研究
中村博吉	3,600	委託経理金 宇部興産(株)	リチウムイオン電池電解液に関する研究
中村博吉	5,000	文部科学省都市エリア産学官連携促進事業再委託(福岡 ist)	構造を制御した機能性炭素を利用する蓄電デバイスの開発平成 21 年 6 月～平成 22 年 3 月
中村博吉	1,560	共同研究九州電力(株)	リチウムイオンキャパシタの実用性能向上に向けた研究
大島一里	800	科学研究費補助金 特別研究員奨励費	ユーラシアにおけるカリフラワーモザイクウイルスの集団遺伝構造
吉賀豊司	1,280	科学研究費補助金 基盤研究 C	高い殺虫活性を示す新規フトラブドゥス属細菌の病原性と宿主応答
吉賀豊司	300	奨学寄附金	線虫の感染機構の解明
穴井豊昭	2,000	農業生物資源研究所 ゲノム研究成果を活用した大豆等イネ科以外の新品種開発(他作物マーカー)プロジェクト	開花期 QTL の候補遺伝子に関する変異体のスクリーニング
穴井豊昭	3,000	文部科学省 ナショナルバイオリソースプロジェクト	ミヤコグサ・ダイズ遺伝資源の種子成分分析
早川洋一	1,600	科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究	昆虫の生死を決定する遺伝子の解析
早川洋一	4,030	科学研究費補助金 基盤研究 B	昆虫サイトカインレセプターの構造と細胞内情報伝達系因子の解析
鈴木章弘	7,930	科学研究費補助金 基盤研究 B	共生窒素固定能の強化に関する分子基盤解明とマメ科作物への応用
鈴木章弘	1,600	科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究	フィトクロムシグナリングを介した根粒数調節機構の解析
兒玉宏樹	2000	共同研究経費	地下水の溶存有機物評価に関する研究
兒玉宏樹	50	委託経理金	土壌中のカビに対する研究
兒玉宏樹	500	金子財団助成金	ビオトープを通じた自然共生教育

7. センター教職員による業績

著書		
著者名	書名	担当題目(共著の場合)
Kitajima, S., Liu, E. and Fan, J.	Rabbit Biotechnology: rabbit genomics, transgenesis, cloning and models	Rabbit transgenesis
Kitajima, S	Rabbit Biotechnology: rabbit genomics, transgenesis, cloning and models	Improvement of rabbit production
Nishijima, K	Rabbit Biotechnology: rabbit genomics, transgenesis, cloning and models	Basic methods for experimental rabbits

原著論文		
著者名	雑誌名	題目
Koike, T.*, Kitajima, S.*, Yu, Y., Nishijima, K., Zhang, J., Ozaki, Y., Morimoto, M., Watanabe, T., Bhakdi, S., Asada, Y., Chen, Y.E., Fan, J. (*equally contributed)	Circulation 120, 2088-2094	Human C-reactive protein does not promote atherosclerosis in transgenic rabbits
Koike, T.*, Kitajima, S.*, Yu, Y., Li, Y., Nishijima, K., Liu, E., Sun, H., Ahmed Bilal Waqar, A.B., Shibata, N., Inoue, T., Wang, Y., Zhang, B., Kobayashi, J., Morimoto, M., Saku, K., Watanabe, T., Fan, J. (*equally contributed)	Arterioscler. Thromb. Vasc. Biol. 29, 2047-2053	Expression of human apoAII in transgenic rabbits leads to dyslipidemia: a new model for combined hyperlipidemia
Nishijima K, Kuwahara S, Ohno T, Miyaishi O, Ito Y, Sumi Y, Tanaka S	Arch. Gerontol. Geriatr. 48, 178-181	Occlusal tooth wear in male F344/N rats with aging.
Tanaka S, Mizorogi T, Nishijima K, Kuwahara S, Tsujio M, Aoyama H, Chie Taguchi C, Kobayashi M, Horio F, Ohno T	Exp. Anim. 58, 357-361	Body and Major Organ Weights of A/J-Chr 11SM Consomic Mice.
Tsujio M, Mizorogi M, Nishijima K, Kuwahara S, Aoyama H, Ohno T, Tanaka S	J. Vet. Med. Sci. 71, 183-187	A morphometric study of the adrenal cortex of the female DDD mouse.
Tsujio M, Mizorogi T, Kitamura I, Maeda Y, Nishijima K, Kuwahara S, Ohno T, Niida S, Nagaya M, Saito R, Tanaka S	J. Vet. Med. Sci. 71, 1493-1497	Bone mineral analysis through dual energy X-ray absorptiometry in laboratory animals.
Kumiko Tsuda a, Hisayo Mori, Daichi Asakawa, Yukiko Yanagi, Hiroki Kodama, Seiya Nagao, Koyo Yonebayashi, Nobuhide Fujitake	Water Research 44, 3837-3846	Characterization and grouping of aquatic fulvic acids isolated from clear water river sand lakes in Japan
Ei'ichi Iizasa, Masaru Mitsutomi, and Yukio Nagano	THE JOURNAL OF BIOLOGICAL CHEMISTRY 2010, 285: 2996-3004	Direct Binding of a Plant LysM Receptor-like Kinase, LysM RLK1/CERK1, to Chitin in Vitro
D. Ueno a,*, T. Isobe b, K. Ramu b, S. Tanabe b, M. Alae c, C. Marvin c, K. Inoue a, T. Someya a, T. Miyajima d, 6 H. Kodama e, H. Nakata f	Chemosphere 78, 1213-1219	Spatial distribution of hexabromocyclo-dodecanes (HBCDs), polybrominated 3 diphenyl ethers (PBDEs) and organo-chlorines in bivalves from Japanese coastal 4 waters

知的財産		
発明者名	題目	備考
永野幸生、松本亮司	開花誘導剤	特許

招待講演・特別講演・一般講演		
発表者	会議等名	題目

Kitajima, S., Maeda, T., Liu, E., Nishijima, K., Morimoto, M. and Watanabe, T.	3rd International Meeting on Rabbit Biotechnology	Technology suitable for rabbit semen conservation
Terato, H., Nakano, T., Pack, S-P., Makino, K. and Ide, H.	The 4th Daegu University and Saga University Joint Seminars	Genotoxicities of Deaminated Guanine Lesions and their Repair Mechanisms.
Yukio Nagano	The 4th Daegu University-Saga University Joint Symposium	Chitin Receptor
川上竜巳、小山正樹、櫻庭春彦、大島敏久	日本農芸化学会大会	巨大グルタミン酸脱水素酵素の活性触媒残基の同定
M. Higashi, R. Kawakami	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meeting on Life Science and Food Science	Characterization of the proline dehydrogenase subunits of the dye-linked L-proline dehydrogenase complexes from hyperthermophilic archaea
M. Oyama, R. Kawakami	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meeting on Life Science and Food Science	A unique kinetic behavior of the third group of NAD-dependent glutamate dehydrogenase from <i>Janthinobacterium lividum</i> by L-aspartate in the reductive amination reaction
東麻梨江、川上竜巳	蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	超好熱アーキア由来色素依存性 L-プロリン脱水素酵素複合体の L-プロリン脱水素酵素サブユニットの機能解析
小山正樹、川上竜巳	蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	<i>Janthinobacterium lividum</i> 由来、巨大グルタミン酸脱水素酵素の L-アスパラギン酸による活性化と触媒活性部位の同定
漢那宗士、西島和俊、常吉梨沙、森本正敏、北嶋修司	第 43 回日本実験動物技術者協会総会	ウサギの血清分離方法の検討
Morimoto, M., Kitajima, S., Nishijima, K., Koike, T. and Fan, J.	3rd International Meeting on Rabbit Biotechnology	Immunoreactivity of neuropeptides in hypothalamus of the transgenic rabbits using immunohistochemical staining
北嶋修司、西島和俊、森本正敏、渡辺照男、範江林	第 56 回日本実験動物学会総会	ウサギ採卵成績に影響を及ぼす要因の検討: 過去 5 年間の採卵成績の解析
Koike, T., Fan, J., Yu, Y., Kitajima, S., Zhang, J., Bhakdi, S., Chen, E.Y.	Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology Annual Conference 2009	Transgenic Rabbits Expressing human C-reactive Protein
Szikra, D., Nagy, S., Bernder, B., Hiripi, L., Kitajima, S., Pribenszky, C. and Bösze, Z.	3rd International Meeting on Rabbit Biotechnology	Comparison of two rabbit semen cryopreservation protocol - a pilot study
*Koike, T., Kitajima, S., Yu, Y., Nishijima, K., Zhang, J., Ozaki, Y., Morimoto, M., Watanabe, T., Asada, Y., Chen, E., and Fan, J.	第 41 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 7 月 17-18 日	Transgenic rabbits expressing Human C-reactive protein
Hiroki Kodama	Seminar in University of Szeged	Estimation for dissociation of acid-dissociation constants in humic molecules
武藤さやか、厚山恵里、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年度大会	シロイヌナズナ LPS 結合タンパク質 2 (AtLBP2) の自然免疫における機能と抗菌活性の解析
野口千明、飯笹英一、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年年会	キチンとタンパク質の結合の簡易的な検出法
飯笹英一、光富勝、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年年会	LysM RLK1/CERK1 の生化学的解析
厚山恵里、武藤さやか、飯笹英一、永野幸生	日本農芸化学会 2010 年年会	LPS はシロイヌナズナの生育阻害を誘導する
武藤さやか、厚山恵里、飯笹英一、永野幸生	第 51 回 日本植物生理学会年会	植物の LPS 認識におけるシロイヌナズナ LPS 結合タンパク質 2 (AtLBP2) の機能解析と LPS 受容体探索法の提案
Eri Atsuyama, Sayaka Muto, Ei'ichi Iizasa and Yukio Nagano	The 4th Daegu University-Saga University Joint Symposium	A method to search for LPS receptor in <i>Arabidopsis thaliana</i>
Sayaka Muto, Eri Atsuyama, Ei'ichi Iizasa and Yukio Nagano	The Third Asian Symposium on Plant Lipids	Seedling Growth Inhibition Assay with Bacterial Lipopolysaccharide (LPS) will Be A New Approach for the Identification of LPS Receptor of Plants
武藤さやか、厚山恵里、飯笹英一、永野幸生	2009 年度日本農芸化学会西日本支部合同大会	グラム陰性菌由来リポ多糖はシロイヌナズナの生育を阻害する
飯笹英一、光富勝、永野幸生	2009 年度日本農芸化学会西日本支部合同大会	シロイヌナズナの受容体 LysM RLK1/CERK1 はキチンと直接結合する
武藤さやか、永野幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	シロイヌナズナ LPS 結合タンパク質 (AtLBP) は LPS に対する植物自然免疫に関わる
野口千明、飯笹英一、永野幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	植物受容体キナーゼの酵母における発現系の構築
飯笹英一、光富勝、永野幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	シロイヌナズナ受容体 LysM RLK1/CERK1 はキチンと直接結合する
厚山恵里、武藤さやか、飯笹英一、永野幸生	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	シロイヌナズナにおける LPS 受容体探索法の構築

Ei'ichi Iizasa, Masaru Mitsutomi, and Yukio Nagano	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meetings on Life and Food Science 2009	Arabidopsis Receptor Kinase LysM RLK1/CERK1 directly binds chitin
Sayaka Muto, Eri Atsuyama, Ei'ichi Iizasa and Yukio Nagano	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meetings on Life and Food Science 2009	Bacterial lipopolysaccharide induces growth inhibition of A. thaliana seedling
Chiaki Noguchi, Ei'ichi Iizasa, Yukio Nagano	1st Yellow Sea Rim liaison Lectures and Meetings on Life and Food Science 2009	Yeast Expression system for plant receptor-like kinases and association between their expression levels and properties
野口千明、飯笹英一、永野幸生	平成 21 年度日本生化学会九州支部例会	酵母における植物受容体キナーゼの網羅的発現
*Nakano T., Salem A. M. H., Terato H., Pack S.-P., Makino K. and Ide H.	36th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry, Takayama, Japan,	Comparison of the activities of bacteria and mammalian nucleotide excision repair systems for DNA-protein crosslinks.
*Amir S., Nakano T., Takuwa M., Terato H., Yamamoto K., Yamada M., Nohmi T. and Ide H.	第 52 回日本放射線影響学会大会, 広島	Repair and damage tolerance mechanisms for DNA-protein crosslinks in Escherichia coli,
井出博, 寺東宏明	第 68 回日本癌学会学術総会,	抗がん剤が誘発する DNA-タンパク質クロスリンク損傷の修復
井出博, Amir Salem, 中野敏彰, 澤和美菜子, 寺東宏明, 山本和生, 山田雅巳, 能美健彦	日本環境変異原学会 第 38 回大会, 静岡	DNA-タンパク質クロスリンク損傷の修復および回避機構に関する遺伝学的研究
中野敏彰, 増田 佑, 寺東宏明, 飯島健太, 田内広, 井出博	日本環境変異原学会 第 38 回大会, 静岡	哺乳類細胞における DNA-タンパク質クロスリンク損傷修復機構
島崎-徳山由佳, 平山亮一, 古澤佳也, 井出博, 寺東宏明	第 52 回日本放射線影響学会大会, 広島	重粒子線によるクラスターDNA 損傷の特徴
寺東宏明	第 52 回日本放射線影響学会大会, 広島	DNA 二本鎖切断は LET 増加に伴い増加するのか? 減少するのか? : (2) 減少するという立場からの考察
渡邊立子, 平山亮一, 横谷明德, 寺東宏明, 鶴岡千鶴, 江口-笠井清美, 古澤佳也, 小林克己	第 52 回日本放射線影響学会大会, 広島	微視的線量分布からみた DNA 二本鎖切断の LET 依存性
寺東宏明	第 33 回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム	5-ホルミルウラシル DNA グリコシラーゼの基質認識特異性について

外部資金			
研究者名	金額(千円)	資金名(金額:千円)	研究課題
武藤さやか(永野幸生)	1,200	科学研究費補助金 特別研究員奨励費	グラム陰性菌由来リポ多糖に対する植物自然免疫の解明
飯笹英一(永野幸生)	900	科学研究費補助金 特別研究員奨励費	ロイシンリッチリポト受容体キナーゼとそのリガンドの相互作用機構の解明
武藤さやか(永野幸生)	266	連合農学研究科経費(若手研究者育成プログラム連大生研究活動支援)	グラム陰性菌由来リポ多糖に対する植物自然免疫の解明
飯笹英一(永野幸生)	266	連合農学研究科経費(若手研究者育成プログラム連大生研究活動支援)	植物における LysM 受容体様キナーゼ(LysM RLK)の機能解析
永野幸生	266	連合農学研究科経費(若手研究者育成プログラム連大生研究活動支援)	簡便な葉緑体全ゲノムクローニング法の開発
川上竜巳	3,380	科学研究費補助金 若手研究 B	超好熱アーキアの L-プロリン脱水素酵素複合体の機能構造解析と電子伝達機構の解明
北嶋修司	800	科学研究費補助金 基盤研究 C	新規遺伝子組換えウサギによるメタボリックシンドロームにおける PPAR の役割の解明
北嶋修司	1,500	厚労省科学研究費補助金 創薬基盤推進研究事業	急性冠症候群の疾患モデルウサギの開発及びバイオリソースの樹立
西島和俊	1,000	科学研究費補助金 若手研究 B	遺伝子改変ウサギを用いたアポリポ蛋白 CIII の機能解析
西島和俊	1,430	科学研究費補助金 基盤研究 C	急性冠症候群克服の疾患特異的 MMP の探索-遺伝子改変ウサギを用いた研究

寺東宏明	1,430	医学部研究者育成支援事業	アルデヒド化合物の生体傷害における DNA-タンパク質クロスリンク損傷の関与の解明
兒玉宏樹	2,000	共同研究経費	地下水の溶存有機物評価に関する研究
兒玉宏樹	50	委託経理金	土壌中のカビに対する研究
兒玉宏樹	500	金子財団助成金	ビオトープを通じた自然共生教育

8. 学外評価委員による評価結果・意見

国立大学法人佐賀大学総合分析実験センター
自己点検評価報告書（平成21年度）に対する評価・検証

平成21年度佐賀大学総合分析実験センター自己点検評価報告書評価について

検証者 所属 鹿児島大学工学部附属工学研究推進センター

氏名 上村亮三

検証日 平成23年〇月〇日

1. 評価手法 （適切であった・改善すべき点があった）

意見・具体的改善点など

2. 評価基準 （適切であった・改善すべき点があった）

意見・具体的改善点など

3. 評価の妥当性 （妥当である・妥当でない点がある）

意見・具体的改善点など

別紙に記載しております。

その他

貴センターの評価報告書は、(1) 目的・目標、(2) 概要、(3) 領域別自己点検評価、(4) 外部評価、(5) 総括から構成されており、分かり易かつ明確な評価手法であると感じました。特に肝心の(3)においては、更に細分化した上で、これまでの対応、経緯が明確に記されています。良い評価法と考えます。

評価基準では、センターの環境整備や機器整備状況と利用状況について言及され、かつ前年度までの整備状況等との比較もあり、利用実績・研究実績・社会貢献実績等についても詳細な記述がみられました。良好な評価基準であると思います。

評価の妥当性についても特に問題ありません。

今回の報告書を拝見して、貴センターが如何に利用者や外部研究機関に対してメッセージを送っているかと言うことが良く理解できました。ホームページの使い方が優れていると思いました。こうした点は外部研究機関の一人として見習うべきものと思います。

また、センターに設置されている機器の有効活用法についても言及されておられましたが、こうした努力が様々な形の「効率化」に結びつくと思っています。

自己点検報告書としては、(総括部分に)現時点での不備な部分、整備していかねばならない点についても具体的かつ総括的に言及されれば、センターの将来像がより明白に見えてくる気が致します。

いずれにせよ、共同利用センターとして優れた自己点検評価報告書であると思います。

平成23年3月1日

鹿児島大学フロンティアサイエンス研究推進センター

上村亮三

国立大学法人佐賀大学総合分析実験センター
自己点検評価報告書（平成21年度）に対する評価・検証

平成21年度佐賀大学総合分析実験センター自己点検評価報告書評価について

検証者 所属 熊本保健科学大学

氏名 森本正敏

検証日 平成23年2月28日

1. 評価手法 （適切であった）・改善すべき点があった）
意見・具体的改善点など

2. 評価基準 （適切であった）・改善すべき点があった）
意見・具体的改善点など

3. 評価の妥当性 （妥当である）・妥当でない点がある）
意見・具体的改善点など

その他

国立大学法人佐賀大学総合分析実験センター
自己点検評価報告書（平成21年度）に対する評価・検証

平成21年度佐賀大学総合分析実験センター自己点検評価報告書評価について

検証者 所属 岡山理科大学

氏名 池田正五

検証日 平成23年2月25日

1. 評価手法 適切であった (改善すべき点があった)
意見・具体的改善点など

2. 評価基準 適切であった (改善すべき点があった)
意見・具体的改善点など

3. 評価の妥当性 妥当である (妥当でない点がある)
意見・具体的改善点など

その他 リサイクルファミリーや3R事業への取組目は
有用且つ教育的なので、今後のさらなる推進を
期待します。

平成 23 年 2 月 22 日

佐賀大学総合分析実験センター
センター長 中島 謙一 様

佐賀大学総合分析実験センターの自己点検・評価報告書の検証を行いました。書類にも書きましたが評価方法や基準も適切で評価の妥当性もあると考えます。センターの方々及びセンターと一緒に仕事をしておられる方々の頑張りに頭が下がります。センターの今後の発展に期待しております。

県立広島大学生命環境学部
西本 潤

国立大学法人佐賀大学総合分析実験センター
自己点検評価報告書（平成21年度）に対する評価・検証

平成21年度佐賀大学総合分析実験センター自己点検評価報告書評価について

検証者 所属 県立広島大学

氏名 西本 翔

検証日 平成23年2月22日

1. 評価手法 （適切であった・改善すべき点があった）
意見・具体的改善点など

適切であった

2. 評価基準 （適切であった・改善すべき点があった）
意見・具体的改善点など

適切であった

3. 評価の妥当性 （妥当である・妥当でない点がある）
意見・具体的改善点など

妥当である

その他 中期計画と関連して

単紙をミスだとは思いましたが、増えた共同利用機器の数が書かれていないのほかに存りました。学内のみならず、佐賀環境フォーラムなどを利用して学外においても社会的ニーズに応じた教育訓練環境を作りあげておられるのは素晴らしいと思いましたが、それ以外のことについてもよくやっていると感じます。

佐賀大学総合分析実験センター長
中島 謙一 先生

拝啓

ご依頼の評価表を同封致しました。

草々

2011年 3月 1日

滋賀医科大学実験実習支援センター
磯野高敬

国立大学法人佐賀大学総合分析実験センター
自己点検評価報告書（平成21年度）に対する評価・検証

平成21年度佐賀大学総合分析実験センター自己点検評価報告書評価について

検証者 所属 滋賀医科大学 実験実習支援センター

氏名 儀野高敬

検証日 平成23年3月 / 日

1. 評価手法 （適切であった・改善すべき点があった）
意見・具体的改善点など
 - ・ 平成21年度の実績が十分に記述されていたことは評価できる。
 - ・ 詳細な記述だけでは評価しにくいので、
評価しやすいフォーマットを検討する必要がある。
 2. 評価基準 （適切であった・改善すべき点があった）
意見・具体的改善点など
 - ・ 評価基準については、明確な提示がなく評価しづらかった
 - ・ 前年度等のデータを添付する等の経年変化を
評価基準として提示するのも一つの方法ではないか
 3. 評価の妥当性 （妥当である・妥当でない点がある）
意見・具体的改善点など
 - ・ 評価の手法・基準については改善の余地があるが、
佐賀大学総合分析実験センターが十分に役割を果たしている
と評価できた。
- その他
- ・ 各機器の利用実績の「延べ利用者数」は解りにくいので、
機器の利用回数 または サンプル数 で示すほうが
実質を捉えやすいと考えられた。